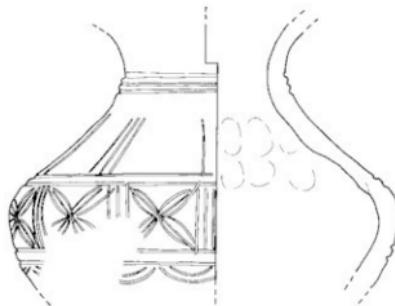


筋違遺跡発掘調査報告

— 第1分冊 —



2004(平成16)年3月

三重県埋蔵文化財センター



弥生時代前期下層遺構面の畠（北から）



弥生時代前期上層遺構面の水田（北から）



遺物番号43

有軸木葉文が配される



遺物番号41

頸胸部境には段が見られる



S X 16出土土器



S Z 4 出土土器



S Z 14 出土土器

序

三重県は、伊勢・伊賀・志摩・東紀州の四つの地域からなり、いにしえより、西からの文化的終着点として、そして、東国への玄関口として、多くの人々の往来がありました。

伊勢平野を南北に走る道路は、古くは伊勢街道、そして今は一般国道23号として、長く県内の文化・情報の伝達路としてその任を果たしてきました。しかしながら、近年、交通渋滞に悩まされるようになり、その緩和と新しい地域文化の振興のため、中勢道路が計画されました。計画地内には、遺跡という形でいにしえの文化が眠っていますが、新しい文化・情報のルートを創るために、残念ながら保存できない遺跡があります。私たちは、これらを調査して記録を残し、当時の文化や人々の生活を後世に伝えることになりました。

本書は、一般国道23号中勢道路建設に先立って調査された筋違遺跡の発掘調査報告書です。遺跡は雲出川域右岸に位置し、その下流には広大な沖積平野が広がっています。筋違遺跡では弥生時代前期の水田や畠の存在が明らかになりました。このことは、北部九州にもたらされた稲作をはじめとした農耕文化が、いち早くこの伊勢の地まで伝わり、人々の手で農業が営まれていたことを示してくれました。それとともに、当時の水田耕作や畠作文化を知る上で貴重な情報を与えてくれるのであります。

最後に、調査にあたりまして、国土交通省中部地方整備局、同三重河川国道事務所（旧称：三重工事務所）、嬉野町教育委員会、社団法人中部建設協会、ならびに地元のみなさまの多大なる御理解・御協力を得ましたことに対し心からお礼申し上げるとともに、今後とも県民のみなさまの文化財保護へのいっそうの御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成16年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫

例　　言

- 1 本書は、三重県一志郡姨野町新屋庄字筋造に所在する筋造遺跡の発掘調査報告書の第1分冊である。本分冊では遺構と遺物の報告を扱い、第2分冊では自然科学分析及び総括を報告の予定である。
- 2 本書が扱う発掘調査の原因事業は、一般国道23号中勢道路建設事業である。
- 3 調査は、三重県教育委員会が国土交通省中部地方整備局から委託を受け、平成12年度に範囲確認調査、平成13年度に本調査を実施した。調査費用は、国土交通省中部地方整備局の全額負担による。
- 4 発掘調査の体制は以下のとおりである。
- ・調査主体　三重県教育委員会
 - ・調査担当　三重県埋蔵文化財センター
 - ・現場作業　社団法人中部建設協会
- 5 現地調査は、平成12年度の範囲確認調査を川畠由紀子、川崎志乃、瀬野弥知世が、平成13年度の本調査を川合圭子、中川明、東敬義、川崎、瀬野が担当した。
- 6 本書の執筆・編集は、東、川崎、瀬野が担当した。
- 7 遺構写真は、川合、中川、東が撮影を行った。遺物写真は、川崎、中川、瀬野が撮影した。
- 8 室内の報告書作成業務は黒川敬子・太田浩子・森川綱代・蒔田やよい・倉田由起子・山口香代・楠純子が担当した。また、調査補助員として西脇智広が現地調査及び整理作業に携わった。
- 9 発掘調査ならびに整理・報告書作成の過程においては、以下の方々から御指導と御助言を賜った。記して感謝の意を表したい。(順不同 敬称略)
- 青木哲哉・石黒立人・永井宏幸・井上智博・植木 久・肩嶋 由・金原正明・櫛原功一・
工楽善通・桑畑光博・佐藤甲二・佐藤由紀男・佐藤洋一郎・鈴木 信・高橋 学・田崎博之・
外山秀一・中村 豊・原田 幹・深澤芳樹・松井一明・松谷暁子・山中 章・和氣清章
- 10 本遺跡については、すでに『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X IV』(三重県埋蔵文化財センター 2002)、『中勢道路ニュースNo.38』、『中勢道路ニュースNo.39』、「筋造遺跡の発掘調査」(『日本考古学』第14号 2002)、「筋造遺跡の発掘調査」(『第10回東日本の水田跡を考える会要旨集』 2002)で調査概要を報告しているが、本書をもって正式報告とする。
- 11 測量法の一部改正により、平成14年度以降は世界測地系に移行しているが、本書で用いた地図及び遺構実測図は、旧座標系(日本測地系)の国土座標第VI系を用い、方位の表示は座標北を示す。真北は座標北の西偏0度17分、磁北は座標北の西偏6度37分である(平成13年)。
- 12 本書に用いた遺構表示略記号は、下記のとおりである。
- | | | | |
|--------------|-------------|--------------|----------|
| S A : 柵 | S B : 樹立柱建物 | S D : 溝・自然流路 | S E : 井戸 |
| S F : 窟 | S H : 壁穴住居 | S K : 土坑 | S X : 墓 |
| S Z : その他の遺構 | pit : 柱穴・小穴 | | |
- 13 本書で報告した記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにおいて管理・保管している。
- 14 本書では、土壤の色調について小山・竹原編『新版標準土色帖』(22版1999)を使用した。

本文目次

| | | | |
|-----|--------------------|--------------------|----|
| I | 前言 |(東 敬義) | 1 |
| 1 | 調査に至る経緯 |1 | |
| 2 | 調査の体制 |1 | |
| 3 | 調査の経過 |2 | |
| 4 | 調査の方法 |3 | |
| II | 位置と環境 |(川崎志乃) | 4 |
| 1 | 位置と地理的環境 |4 | |
| 2 | 歴史的環境 |4 | |
| III | 13工区調査の成果－基本層序と遺構－ |(川崎志乃) | 8 |
| 1 | 調査区の基本層序 |8 | |
| (1) | 地層観察の方法 |8 | |
| (2) | 基本層序の層相 |8 | |
| 2 | 遺構 |19 | |
| (1) | 弥生時代前期下層遺構面 |19 | |
| (2) | 弥生時代前期上層遺構面 |25 | |
| (3) | 弥生時代前期の遺構等 |30 | |
| (4) | 弥生時代中期後葉～中世前期の遺構 |35 | |
| IV | 13工区調査の成果－出土遺物－ |(川崎志乃) | 45 |
| 1 | 縄文時代晩期～弥生時代前期の遺物 |45 | |
| 2 | 弥生時代中期後葉の遺物 |46 | |
| 3 | 弥生時代後期～古墳時代前期の遺物 |48 | |
| 4 | 古墳時代中期～中世前期の遺物 |48 | |
| 5 | 包含層等出土の遺物 |50 | |
| V | 14工区調査の成果－基本層序と遺構－ |(瀬野弥知世) | 71 |
| 1 | 調査区の基本層序 |71 | |
| 2 | 遺構 |71 | |
| VI | 14工区調査の成果－出土遺物－ |(瀬野弥知世) | 77 |
| 1 | 遺構出土土器 |77 | |
| 2 | 包含層出土土器 |78 | |
| VII | 14工区調査の成果－小結－ |(瀬野弥知世) | 80 |
| 1 | 遺構について |80 | |
| 2 | 遺物について |80 | |

挿図目次

| | |
|--------------------------------------|-------|
| 第1図 範囲確認トレンド配置図 | 2 |
| 第2図 調査区位置図 | 3 |
| 第3図 周辺遺跡位置図 | 5 |
| 第4図 地形面分析図 | 6 |
| 第5図 調査区西壁土層断面図 | 13~14 |
| 第6図 調査区北壁土層断面図 | 13~14 |
| 第7図 中央トレンド土層断面図 | 15~16 |
| 第8図 調査区東壁土層断面図 | 15~16 |
| 第9図 M列下層確認トレンド土層断面図 | 18 |
| 第10図 弥生時代前期下層遺構面平面図 | 21 |
| 第11図 大溝S D41西トレンド断面図 | 22 |
| 第12図 弥生時代前期下層遺構面接合土器 出土地点図 | 22 |
| 第13図 円形土坑H 4 pit 1断面図 | 24 |
| 第14図 畦畔内土器出土状況図 | 25 |
| 第15図 弥生時代前期上層遺構面接合土器 出土地点図 | 25 |
| 第16図 弥生時代前期上層遺構面平面図 | 26 |
| 第17図 弥生時代前期上層水田図 | 28 |
| 第18図 水田畦畔断面図 | 29 |
| 第19図 大溝S D41東トレンド断面図 | 30 |
| 第20図 弥生時代前期耕起痕等平面図（1） | 31 |
| 第21図 弥生時代前期耕起痕等平面図（2） | 32 |
| 第22図 弥生時代中期後葉～中世前期 遺構平面図 | 33~34 |
| 第23図 溝S D 8 土器出土状況 平面図・断面図 | 35 |
| 第24図 溝S D 8 平面図・断面図 | 35 |
| 第25図 方形周溝墓S X29平面図 | 36 |
| 第26図 方形周溝墓S X29土器出土状況 平面図・断面図（1） | 36 |
| 第27図 方形周溝墓S X29土器出土状況 平面図・断面図（2） | 36 |
| 第28図 方形周溝墓S X29 土器出土状況平面図 | 36 |
| 第29図 方形周溝墓S X16平面図 | 37~38 |
| 第30図 方形周溝墓S X16土器出土状況 平面図・断面図 | 37~38 |
| 第31図 方形周溝墓S X16土器出土状況 平面図・立面図（1） | 37~38 |
| 第32図 方形周溝墓S X16土器出土状況 平面図・立面図（2） | 37~38 |
| 第33図 土坑S K 6・42土器出土状況 平面図・断面図・立面図 | 39 |
| 第34図 竪穴住居S H13土器出土状況 平面図・断面図 | 40 |
| 第35図 溝S D 5 土層断面図 | 40 |
| 第36図 溝S D 27 土層断面図 | 40 |
| 第37図 竪穴住居S H 2 土器出土状況 平面図・断面図 | 41 |
| 第38図 土器群S Z 4 土器出土状況 平面図・断面図 | 41 |
| 第39図 竈S F 15 土器出土状況 平面図・断面図 | 42 |
| 第40図 挖立柱建物S B19・20・21 平面図・断面図 | 42 |
| 第41図 挖立柱建物S B22 平面図・断面図 | 43 |
| 第42図 土器群S Z 14 土器出土状況 平面図・断面図 | 43 |
| 第43図 井戸S E 26平面図・断面図 | 43 |
| 第44図 溝S D 27 平面図 | 44 |
| 第45図 出土遺物実測図（1） | 51 |
| 第46図 出土遺物実測図（2） | 52 |
| 第47図 出土遺物実測図（3） | 53 |
| 第48図 出土遺物実測図（4） | 54 |

| | |
|------------------------|----|
| 第49図 出土遺物実測図（5） | 55 |
| 第50図 出土遺物実測図（6） | 56 |
| 第51図 出土遺物実測図（7） | 57 |
| 第52図 出土遺物実測図（8） | 58 |
| 第53図 出土遺物実測図（9） | 59 |
| 第54図 出土遺物実測図（10） | 60 |
| 第55図 出土遺物実測図（11） | 61 |
| 第56図 14工区遺構平面図 | 72 |
| 第57図 土層断面図 | 73 |
| 第58図 土坑SK106平面図・断面図 | 74 |
| 第59図 溝SD101・102平面図・断面図 | 75 |
| 第60図 溝SD111・112平面図・断面図 | 76 |
| 第61図 出土遺物実測図（12） | 77 |
| 第62図 出土遺物実測図（13） | 78 |

表 目 次

| | |
|-----------------------|----|
| 第1表 基本層序概略表 | 9 |
| 第2表 調査区西壁断面層序一覧表 | 10 |
| 第3表 調査区北壁断面層序一覧表 | 11 |
| 第4表 中央トレンチ断面層序一覧表 | 12 |
| 第5表 調査区東壁断面層序一覧表 | 12 |
| 第6表 遺構一覧表（1） | 20 |
| 第7表 弥生時代前期上層水田一覧表 | 28 |
| 第8表 出土土器観察表（1） | 63 |
| 第9表 出土土器観察表（2） | 64 |
| 第10表 出土土器観察表（3） | 65 |
| 第11表 出土土器観察表（4） | 66 |
| 第12表 出土土器観察表（5） | 67 |
| 第13表 出土土器観察表（6） | 68 |
| 第14表 出土土器（弥生中期）観察表（7） | 69 |
| 第15表 出土石器観察表 | 70 |
| 第16表 出土木器観察表 | 70 |
| 第17表 遺構一覧表（2） | 76 |
| 第18表 出土土器観察表（8） | 79 |

写真図版目次

| | |
|--|---|
| 図版 1 上空から西山古墳、天花寺を臨む 上空から伊勢湾を臨む | S Z 4 土器出土状況 掘立柱建物検出状況 |
| 図版 2 弥生時代前期下層遺構面(昌) | S Z 14 土器出土状況 |
| 図版 3 弥生時代前期下層遺構面(昌) | S E 26 井筒検出 |
| 図版 4 弥生時代前期関連遺構 | F 12 グリッド西壁断面 |
| 図版 5 筋違遺跡周辺航空写真 | S E 26 断ち割り |
| 図版 6 上空から雲出川を臨む 上空から | G 6 グリッド付近検出状況 図版20 豊田小学校総合学習 現地説明会 |
| 図版 7 S D 4 1 | 高橋 学氏による調査指導 検討会 |
| 図版 8 弥生時代前期下層遺構面(昌) | 土壤の乾燥 |
| 図版 9 弥生時代前期上層遺構面水田(SD41北部) | 肉眼(ルーペ)での選別 |
| 図版10 弥生時代前期関連(CSD41南部) | 炭化物をすくう |
| 図版11 耕起痕? (弥生時代前期下層遺構面にて) フローテーション用試料採取 下層確認トレンドチ北壁 下層確認トレンドチD 41付近 下層確認トレンドチ北壁接写 下層確認トレンドチM 9 グリッド付近 | 実体顕微鏡での選別 図版21 出土遺物 (1) 図版22 出土遺物 (2) 図版23 出土遺物 (3) 図版24 出土遺物 (4) |
| 図版12 プラント・オパール分析、花粉分析用試料採取 | 図版25 出土遺物 (5) 図版26 出土遺物 (6) 図版27 出土遺物 (7) 図版28 出土遺物 (8) |
| 図版13 プラント・オパール分析用試料採取 | 図版29 出土遺物 (9) 図版30 出土遺物 (10) |
| 図版14 弥生時代中期後葉～中世前期遺構面西半部 垂直写真 弥生時代中期後葉～中世前期遺構面西半部 | 図版31 出土遺物 (11) 図版32 出土遺物 (12) 図版33 直線文・波状文 篆状文 斜格子文 |
| 図版15 弥生時代中期後葉～中世前期遺構面西半部 弥生時代中期後葉～中世前期遺構面東半部 | 図版34 刺突文 浮文等 外面調整 内面調整 |
| 図版16 S X16 完掘 S X16 土器出土状況 | 図版35 14工区 調査区北半完掘 14工区 調査区南半完掘 |
| 図版17 S X29 土器出土状況 S K 6 土器出土状況 S K42 土器出土状況 S D 8 溝底工具痕完掘 S D 8 完掘 S D 8 土器出土状況 | 図版36 S D101・102 S D104・SK105・SK106 |
| 図版18 S H13 土器出土状況 S D 5 完掘 S D 5 西壁断面 S D 5 断面 | 図版37 出土遺物 (13) 図版38 出土遺物 (14) |
| 図版19 S H 2 完掘 | |

I 前 言

1 調査に至る経緯

一般国道23号は伊勢平野の南北を貫き、県内外との物資輸送、産業・情報・観光における幹線道路である。近年、交通量の増加と車に頼る物資輸送の増加は交通渋滞を招き、その役を果たすことを困難としてきた。こうした渋滞を緩和し、中勢地域の更なる発展に寄与するため中勢道路が計画された。中勢道路は、北は鈴鹿市玉垣町から一志郡三雲町小津まで延長33.8kmの道路で、鈴鹿市・河芸町・津市・久居市・嬉野町・三雲町の3市3町を通る。

昭和58年度に、この計画路線内の埋蔵文化財分布調査を行った。その結果をもとに、建設省中部地方建設局（当時）と三重県教育委員会が埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、現状保存が困難な遺跡は事前に発掘調査を実施し、記録保存をはかることになった。

事業の実施にあたっては、建設省中部地方建設局（当時）・三重県・社団法人中部建設協会の三者で昭和63年4月8日付け「協定書」（9・10工区対象）を締結し、事業を推進してきた。その後、工事計画の進展に合わせて、平成3年10月31日付けで、「変更協定書（第1回）」（6工区追加）を、平成5年9月7日付けで「変更協定書（第2回）」（8工区追加）を、平成10年3月31日付けで「変更協定書（第3回）」（新発見2遺跡の追加と期間延長）を締結し、調査計画と道路建設事業との調整を図った。平成10年度には、平成11年3月31日付けで改めて6・8～10・13（雲出川以南4遺跡）・14工区を対象とした「埋蔵文化財発掘調査協定書」（平成16年3月31日まで）を締結し、11年度以降の事業を推進することとした。

2 調査の体制

調査主体は三重県教育委員会であり、調査担当は、昭和63年度が三重県教育委員会文化課、平成元年度以降が三重県埋蔵文化財センター（三重県教育委員会事務局組織規則により設置）である。

調査にあたっては、「県教育委員会・市町村教育

委員会職員人事交流実施要綱」にもとづき、鈴鹿市及び津市教育委員会から1～2名の派遣職員を得た年度もある。また現地作業は、調査の円滑を期して国土交通省中部地方整備局が社団法人中部建設協会に委託している。

本書に収録した筋道遺跡については、平成12年度に範囲確認調査を、平成13年度に本調査を、平成14～15年度に整理・報告書作成業務を実施した。その体制は以下のとおりである。

【平成12年度】

| | |
|-----------|--|
| 主幹兼調査第二課長 | 吉水康夫 |
| 主 幹 | 新田 洋 |
| 主査兼第三係長 | 森川常厚 |
| 技 師 | 川畠由紀子 |
| 臨時技術補助員 | 川崎志乃・瀬野弥知世 |
| 調査補助員 | 西脇智広（皇學館大学学生） 北川祐貴（筑波大学学生） 山田詩奈（大手前大学学生） |
| 室内整理員 | 黒川敬子・太田浩子 森川絹代・蒔田やよい 新田智子・倉田由起子 |

【平成13年度】

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 主幹兼調査第二課長 | 新田 洋 |
| 主査兼第二係長 | 本堂弘之 |
| 主 事 | 川合圭子・中川 明 東 敏義 |
| 技 師 | 川畠由紀子 |
| 臨時技術補助員 | 川崎志乃・瀬野弥知世 |
| 調査補助員 | 西脇智広（皇學館大学学生） |
| 室内整理員 | 黒川敬子・太田浩子 森川絹代・蒔田やよい 倉田由起子 |

【平成14年度】

| | |
|-----------------|------------|
| 主幹兼調査研究グループリーダー | 山田 猛 |
| 主 幹 | 河北秀実 |
| 主 査 | 宮田勝功 |
| 主 事 | 東 敏義 |
| 技 師 | 原田恵理子・水谷 豊 |

臨時技術補助員 酒井巳紀子
 調査補助員 西脇智広
 (皇學館大学大学院生)
 室内整理員 黒川敬子・太田浩子
 森川綱代・西田やよい
 倉田由起子

[平成15年度]

主幹兼調査研究IIグループリーダー 新田 洋
 主 幹 五嶋史佳
 主 事 東 敏義・柴山圭子
 福島伸孝
 技 師 川畑由紀子
 臨時技術補助員 澄野弥知世
 坂 佳彦
 調査補助員 中西佳子
 (東京都立大学学生)
 室内整理員 黒川敬子・太田浩子
 森川綱代・西田やよい
 倉田由起子・山口香代

3 調査の経過

筋道遺跡が拡がる範囲は道路建設工区でいうと、県道嬉野津線を挟んで、北側が13工区、南側が14工区になっている。平成12年度に行った範囲確認調査では、13工区側で2m幅のトレンチを9カ所、10m×10mのグリッドを2カ所設定し、14工区側では、3カ所のトレンチを設定した。

範囲確認調査の結果を受け、平成13年4月1日付けて、国土交通省中部地方整備局と三重県との間で委託契約を締結した後、13工区と14工区の両地区において、本調査を行うことになった。

調査期間中には、国土交通省・三重県・中部建設協会の三者で発掘調査の具体的な計画、工程、経費等についての協議を、平成13年4月、8月、12月、翌14年2月の計4回行った。

13工区側の本調査は、社団法人中部建設協会による事前準備が完了した平成13年4月25日から開始した。調査途中で、奈良時代の遺構面の東への更なる広がりと、弥生時代の方形周溝墓が東に存在する可能性が予想されたため、8月に三者協議を行い、拡張することとした。また、更に下層に弥生時代前期



第1図 範囲確認トレンチ配置図 (1:5,000)

に遡る生産遺構の存在が確認されたため、2層の調査を行うこととなり、調査面積は当初計画から倍増した。以上の経緯を経て13工区側では平成14年1月31日に現地調査を終了し、埋め戻し作業を行った。

14工区側の本調査は平成13年5月10日から開始した。思いのほか検出できる遺構は少なく、広大な面積ながら、9月11日に調査を終了した。

地区設定は、両地区ともに道路予定センターラインを基準とし、任意で設定している。

測量については、13工区側の上層で航空測量を行った他は、すべて手書き実測による。

以上、当センターとしての現地発掘調査は平成14

年1月31日で完了した。

室内での整理作業は、現地調査が始まるとともに開始した。現地調査終了後も図面作成・整理等を引き続き行い、平成15年度に終了した。

普及公開事業として、現地説明会と小学校の「総合的な学習の時間」にかかる授業支援を行った。現地説明会（13工区）は平成13年8月11日に開催し、80名の参加者を得た。同年6月18日には、地元の嬉野町立豊田小学校の6年生24名を対象として遺跡見学、7月2日に体験発掘（14工区）を行った。また、9月6日、同校において、5・6年生52名を対象に講演と土器の観察を行った。

調査期間中から報告書完成に至るまで、外部研究機関等からの指導と助言を受けている。とくに、13工区側の下層調査に関しては、平成15年8月11日に総合検討会を開催し、専門家の指導と助言を得た。

なお、文化財保護法（以下、「法」）等にかかる諸通知は、以下により行っている。

・法第58条の2 第1項（三重県教育委員会教育長あて）

平成13年6月4日付 教育第73号

・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（久居警察署長あて）

平成14年3月12日付 教育第8-23号

4 調査の方法

調査区内の小地区設定は、道路建設用のセンター杭（中勢バイパスの起点から20mピッチで設置）の任意の点を基準として、4m四方の小地区を東西方に向かってアルファベットで、南北方向を北からアラビア数字で表記した。

調査にあたっては、表土除去は基本的に重機（バックホー）を用いて行った。

遺構カード（S=1/40）は、小地区ごとに作成し、略図、土質・切り合いなどを記入した。

遺構名は、ピットのみ小地区ごとの通し番号を与え、他の遺構は調査区全体の中で通し番号を付した。

実測は、遺構の平面図や断面図を適宜、1/10あるいは1/20で作成した。遺跡全体の実測は、13工区側上層は航空写真測量、13工区側下層及び14工区



第2図 調査区位置図（1:5,000）

側は手書き実測により実施した。13工区側が1/50と1/100の遺構図・等高線図・平面図、14工区側が1/100の遺構図を作成した。

遺構写真は4×5inch判・プローニー判（ウイスタ SP）、35mm（ニコン F-401・F-301）で撮影した。フィルムはモノクロームネガとカラーリバーサルを用いた。遺物写真は4×5inch判・プローニー判（同上・TOYO-VIEW）で撮影した。

（東 敬義）

II 位置と環境

1 位置と地理的環境

筋違遺跡(1)は、一志郡嫡野町大字新屋庄字桜・筋違に所在する。

高見山系を水源とする雲出川は、下流域に広大な沖積平野を形成し伊勢湾に注ぐ。本遺跡は雲出川下流域の右岸に位置し、標高は4.2～4.8mを測る。本遺跡の東方には、海岸線に平行して南北方向に数条の埋没した砂丘列が存在するが、本遺跡は最も内側の砂丘列とその背後の低地にある。また、埋没旧河道がつくる自然堤防上にも相当しており、高橋学氏の地形面分析（第4図）⁽¹⁾では、沖積平野Ⅲの上位面から下位面に相当し、沖積平野Ⅲ上面の形成時期の上限は弥生時代以降に求められている。今回の調査においては、弥生時代前期の遺跡の立地を把握するために地形形成過程の追求を目的として、更に下層の地形確認調査も行っている。

2 歴史的環境

雲出川下流域における遺跡は、その立地が現在の台地上に位置する場合と沖積平野上に位置する場合に二分される。後者はさらに、微細に分類することが可能であり、その形成時期は歴史時代とされる。今回報告する筋違遺跡は沖積平野上に位置することから、平野上の遺跡を中心みていくことにする。

最も古いものは、木造赤坂遺跡(3)⁽²⁾や前田町屋遺跡(4)⁽³⁾で縄文時代後期の土器が確認されている。前田町屋遺跡例はローリングを受けており、遺構は未確認である。

縄文時代晩期後半の突帯文土器が出現する時期には、遺跡数が急激に増加する。雲出島貫遺跡(5)⁽⁴⁾では土器棺墓が検出され、前田町屋遺跡では浮線文土器が出土している。これらの遺跡で確認されている土器の時期は五貫森式が若干みられ、馬見塚式にかけて隆盛する傾向が見られる。また、下之庄東方遺跡(6)⁽⁵⁾や四ツ野B遺跡(7)⁽⁶⁾および天花寺丘陵内遺跡群(8)⁽⁷⁾でも馬見塚式の突帯文系土器や弥生時代前期後半の遠賀川系土器が出土している。筋違遺跡に最も近接する庵ノ門遺跡(28)⁽⁸⁾では、突帯文土器細片や前期後半の遠賀川系土器が表採されている。

弥生時代前期前半の遠賀川系土器は、中ノ庄遺跡(2)⁽⁹⁾で出土しており、ここでは遺構も検出されている。

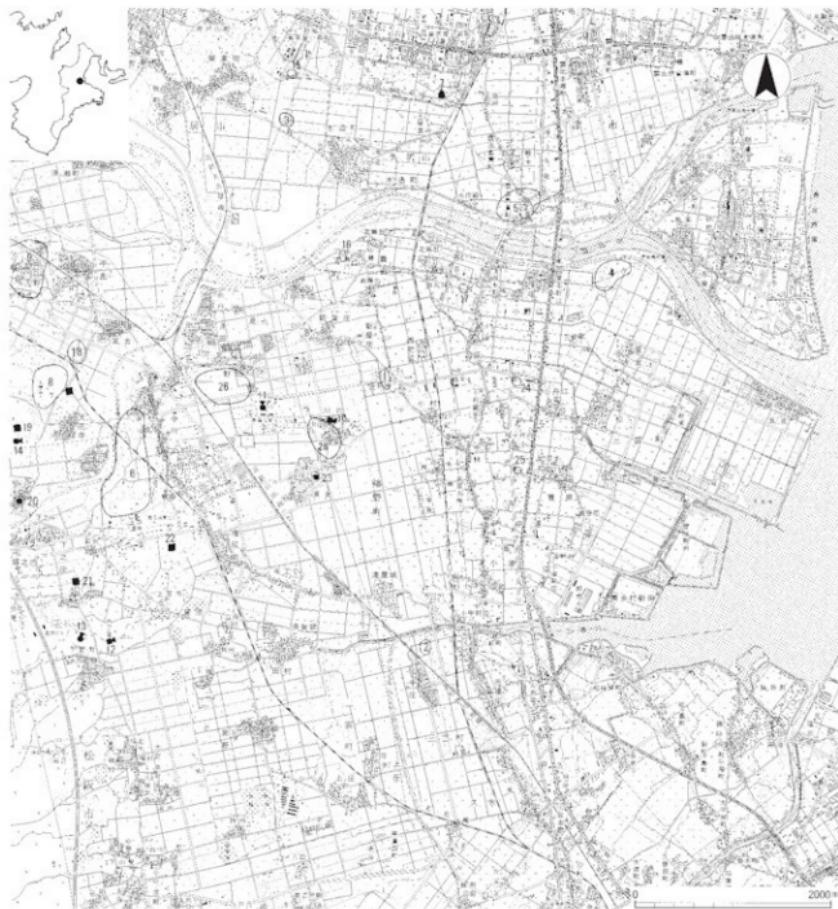
弥生時代中期前葉には、雲出島貫遺跡でわずかに集落が確認されている。中期後葉には、片野遺跡(9)⁽¹⁰⁾や下之庄東方遺跡で方形周溝墓群が検出されている。

弥生時代後期前半には、天花寺丘陵内遺跡群で環壕を伴う集落が展開する。また、高茶屋丘陵の四ツ野B遺跡では、突線紐式銅鐸が出土している。木造赤坂遺跡は、この地域での中心的な集落と目されているが、実態は不明である。

弥生時代後期末から古墳時代前期にかけては、雲出島貫遺跡で再び集落が展開しており、居住城と墓域および水田城の存在したことが確認されている。この遺跡では、太平洋沿岸沿いに三河から関東方面の外來系遺物や模倣品が出土している。雲出川下流域は伊勢湾西岸地域のなかでも前方後方墳が突出してみられる水系であり、近年はS字甕の胎土分析の結果、S字甕成立の候補地として注目されている⁽¹¹⁾地域もある。なお、墓域は前田町屋遺跡でも確認されている。

古墳時代中期には、高茶屋丘陵の高茶屋大垣内遺跡⁽¹²⁾で土師器生産が、藤谷埴輪窯⁽¹³⁾で埴輪生産が操業される。『雄略紀』17年3月条⁽¹⁴⁾に記されている「贊の土師部」貢進記事との関連が興味深い。この水系では渡米系遺物の出土は稀少であり、向山遺跡(15)⁽¹⁵⁾で軟質の器台片がわずかに出土している。今回の筋違遺跡出土軟質土器と初期須恵器は平野部において初めて確認された。平野部においては、集落がひきつき雲出島貫遺跡で連続して確認されており、埋没した後期古墳が舞出北古墳群(16)⁽¹⁶⁾や小野江甚目古墳群(17)⁽¹⁷⁾において確認されつつある。

古代における行政単位としては、雲出川下流域は一志郡に相当する。筋違遺跡の西方には、天花寺庵寺(18)⁽¹⁸⁾、中谷庵寺(19)、一志庵寺(20)、上野庵寺(21)、嫡野庵寺(22)、積善寺(23)と狭い範囲に古代寺院が集中して立地しており、天花寺丘陵内遺跡群

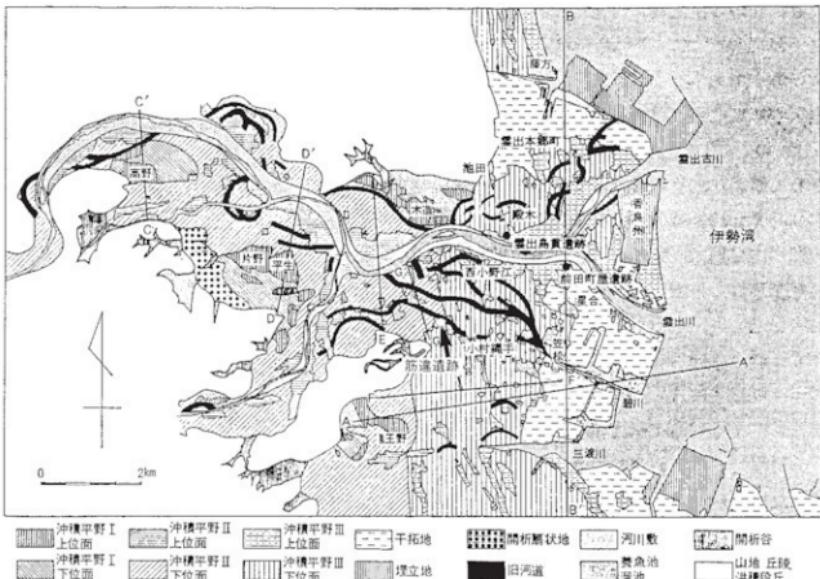


■ = 前方後方墳・前方後円形墳墓

■ = 古代寺院跡

- | | | | | | |
|-----------|--------------|-----------|------------|--------------|-------------|
| 1. 茶道遺跡 | 2. 中ノ庄遺跡 | 3. 木造赤坂遺跡 | 4. 前田町屋遺跡 | 5. 雲出鳥賀遺跡 | 6. 下之庄東方遺跡 |
| 7. 四ツ野古道跡 | 8. 天花寺丘陵内遺跡群 | 9. 片野遺跡 | 10. 魔ノ門1号墳 | 11. 西山1号墳 | 12. 向山古墳 |
| 13. 上野1号墳 | 14. 商野1号墳 | 15. 向山遺跡 | 16. 露出北古墳群 | 17. 小野江茎目古墳群 | 18. 天花寺魔寺 |
| 19. 中谷庵寺 | 20. 一志庵寺 | 21. 上野庵寺 | 22. 畠野庵寺 | 23. 横善寺 | 24. 松本権現前遺跡 |
| 25. 田畠遺跡 | 26. 片部遺跡 | 27. 堀田遺跡 | 28. 魔ノ門遺跡 | | |

第3図 周辺遺跡位置図 (1:50,000) (国土地理院 平成4年発行 1:25,000『大仰』『松阪港』より作成)



第4図 地形面分析図（高橋（1979）一部改変）

や堀田遺跡（27）⁽¹⁹⁾などの当該期の遺跡も立地する。また、雲出島貴遺跡や堀田遺跡や片野遺跡では、極めて精良な暗文土器が出土しており、個々の遺跡の性格ではなく地域全体として注目されている。なお、雲出島貴遺跡は『倭名類聚抄』⁽²⁰⁾および『正倉院文書』⁽²¹⁾にみえる鳴抜郷の一部である可能性がある。

11～13世紀には、雲出島貴遺跡で居館が築かれる。12世紀末から13世紀にかけて遺跡数の増加する傾向がみられ、舞出北遺跡、前田町屋遺跡、松本権現前遺跡（24）⁽²²⁾、田面遺跡（25）⁽²³⁾においても集落などの遺構が検出されている。

大字として残存する「新屋庄」は『吾妻鏡』⁽²⁴⁾等の文献にみえ、周囲一帯には神宮御厨や御蔵が数多く分布していた⁽²⁵⁾ことが知られる。

近世には、三雲町中林にて参宮街道と分岐する伊賀越奈良街道（別称大和街道）が小村集落から遺跡の北部を通り、新屋庄集落へと抜ける。現状では、この道がどの段階まで通るのか定かでないが、小字

である「筋違」は条里方向とは斜交いに抜けるこの道に由来する可能性が彷彿される。（川崎志乃）

註

- (1) 高橋学『先史・古代における雲出川下流域平野の地形環境』（『人文地理』31 1979年）
- (2) 鈴木敏雄『考古学からみた一志郡』（『一志郡史』下巻 1955年）
- (3) 日栄智子『前田町屋遺跡 第1次調査』（三重県埋蔵文化財センター 1997年）
新名強『前田町屋遺跡 第2次調査』（三重県埋蔵文化財センター 1999年）
- (4) 伊藤裕偉・川崎志乃『鳴抜 第1次調査』（三重県埋蔵文化財センター 1998年）
伊藤裕偉『鳴抜Ⅱ』（三重県埋蔵文化財センター 2000年）
伊藤裕偉・川崎志乃『鳴抜Ⅲ』（三重県埋蔵文化財センター 2001年）
- (5) 三重県教育委員会『一級河川中村川埋蔵文化財発掘調査概要Ⅰ 下之庄東方遺跡（高畠地区）』（1987年）

- 三重県教育委員会『一級河川中村川埋蔵文化財発掘調査概要Ⅱ 下之庄東方遺跡（小野・四反畑・夜ノ堀地区）』（1988年）
- (6) 村木一弥『四ツ野B遺跡（第2次）・四ツ野古墳発掘調査報告』（津市教育委員会 2001年）
- (7) 伊藤裕偉『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター 1996年）
木野本和之・川崎志乃『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告IV』（三重県埋蔵文化財センター 2000年）
柴山圭子『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告V』（三重県埋蔵文化財センター 2001年）
- (8) 皇學館大学考古学研究会『姫野町の遺跡』（1989年）
- (9) 谷本觀次『中ノ庄遺跡発掘調査報告』（三重県教育委員会 1972年）
- (10) 河瀬信幸『片野遺跡発掘調査報告』（三重県教育委員会 1985年）
伊勢野久好『片野遺跡IV』（一志町教育委員会 2002年）
- (11) S字彌胎土研究会『S字彌の混和材を考える』（『考古学フォーラム』9 1998年）
- (12) 田中久生・川畑由紀子『高茶屋大垣内遺跡（第3・4次）発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター 2000年）
- (13) 藤田充子『藤谷窯跡群発掘調査報告』（津市埋蔵文化財センター 2000年）
- (14) 『日本書紀』（『新訂増補 国史大系 日本書紀』第1巻）
- (15) 村木一弥・山口格『向山遺跡発掘調査報告』（津市埋蔵文化財センター 2003年）
- (16) 川畑由紀子「舞出北遺跡」（『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X II』三重県埋蔵文化財センター 2000年）
川畑由紀子「舞出北遺跡」（『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X III』三重県埋蔵文化財センター 2001年）
- (17) 大川勝宏『小野江甚目遺跡・小野江甚目古墳群発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター 1999年）
- (18) 山田猛『天花寺废寺』（『昭和55年度県営圃場整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1981年）
- (19) 早川裕己「堀田遺跡」（『昭和56年度県営圃場整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1982年）
伊藤裕偉・中川明・浜辺一機『堀田第3～5次調査』（三重県埋蔵文化財センター 2002年）
- (20) 『倭名類聚抄』（『諸本集成倭名類聚抄』外編 臨川書店 1966年）
- (21) 『正倉院文書』所収「西南角領解？」（『大日本古文書』編年之13）
- (22) 村田匠『松本権現前遺跡発掘調査報告』（三雲町教育委員会 1999年）
村田匠『松本権現前遺跡第2次発掘調査報告』（三雲町教育委員会2002年）
- (23) 萩原義彦・山崎博史『田面遺跡発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター 2003年）
- (24) 『吾妻鏡』文治3年4月29日条、建久元年4月19日条（『新訂増補 国史大系 吾妻鏡』第32・33巻）
- (25) 『神宮雜例集』（『群書類従』第1輯）
『新風抄』（『群書類従』第1輯）

III 13工区調査の成果－基本層序と遺構－

1 調査区の基本層序

(1) 地層観察の方法

当調査区の地層の観察方法は、粒度と堆積構造に着目して堆積環境で分層する堆積学的な視点および地層の堆積後の変化に着目した土壤学的な視点から分層を行った¹¹⁾。

これまで三重県内では、沖積低地での発掘調査事例が少なく、今回の調査のように遺構面までの深度が2m近くに及ぶことが少なかったために、さほど地層の観察に力点が置かれてこなかった。しかし、当調査区のように堆積土量が厚く、狭い範囲で各時代の遺構の立地する基盤層が変化に富む場合には、地層の観察を怠るとそれぞれの遺構面を押さえることすらままならない。今回の調査では不十分な点も多々存在するが、可能な限りの観察を行った。

まず、堆積学的な視点として、粒度組成はウェントワース・ペティジョン法に、色調は標準土色帳に基づいている。また、地層の空間的な広がりを把握するために同時異相の概念を意識し、層相の側方変化の把握に努めた。

土壤学的な視点としては、a層（堆積後に土壤化や人為的な行為の及んだ層）、b層（土壤化の及ばなかった非土壤化層）と呼び分けている。また、弥生時代前期以前の層序については土壤化層であるa層が耕作土の可能性があるか否かに注意を払った。

(2) 基本層序の層相

各層位の層相をできるだけ細かく観察するように心掛けたが、個々の層序を認識するのが限界であり、地層の形成要因・堆積時期・利用時期・利用形態の4項目を体系立てて分類することができなかった。すなわち第1表のとおりI～VIに大別しているが、体系立てて意味をもたせているわけではない。整理段階の当初には、地層形成要因や堆積単位での分類も検討したが、全ての層について堆積単位を把握することは困難であり、報告書作成段階での混乱を最小限にとどめるために、現地調査時に認識していた大まかな分類をそのまま流用した。全ては現地調査時に体系立てて分層できなかつたことから生じた問

題であり、今後は現地調査時に検討するように改善していく必要がある。

また、問題を残す分層や検出をしている地点が存在している。記述のなかで、その都度、問題点として合わせて報告することにする。

各層相の粒度および色調は地点により異なるためここでは簡易にとどめ、詳細な説明が必要な場合は個別の記述でふれることにする。

I層 I層は表土層である。

I-1層は、遺跡範囲確認調査の試掘坑の埋土である。

I-2層は昭和40年代後半から50年代前半にかけての圃場整備以前の表土であり、耕作土層である。

II層 II層は圃場整備以前の水田層が重層的に堆積する層序であり、b層がほとんどみられない点で共通する。

II-1層は圃場整備以前の耕作土である。

II-2層は、上限がいつまでかのばるのか不明である。各壁面単位での分層を行ったために調査区全体に共通する番号を付けることができなかった。細分できた部分には枝番を付けている。

II-3層はIII層を覆う層であり、14工区で確認された4層と同層の可能性が考えられる。II-3層には山茶椀編年III段階6型式¹²⁾の陶器椀が含まれていた。

III層 IIIa・IIIb層があり、自然堆積層とその上部が水田層などに利用されている層序である。

IIIa層は、調査区北西部の粒度がシルトと細かく、南東部の粒度がシルト質細砂とやや粗い、土壤化層である。調査区北壁や東壁の上面では、水田畔状の隆起が確認され、東壁では畔と合わせて溝SD59が確認された。SD59-2層はラミナがみられることから、水田の機能時に水の流れ込みがあったことが何われる。IIIa層内のK10グリッドでは13世紀初頭の陶器椀が並んだ状態で出土した。記録することができなかつたが、水田畔などに埋納されていた可能性が考えられる。IIIa層下面では、調査区南東部において掘立柱建物の柱穴を検出しており、北西部では掘削中に耕作溝状の遺構もみられた。

| 基本層序 | | 堆積時期 | 形成要因 | 堆積方向 | 利用時期 | 利用形態 |
|--------|--------|-----------------------|-----------------|-----------------|--|-----------------|
| I | -1 | 試掘坑埋土 | 平成12年 | 範囲確認調査 | 整地 | |
| | -2 | 表土 | 圃場整備 | 圃場整備 | 整地 | 圃場整備以降 ↑水田・畠 |
| II | -1 | 水田層が重層的に堆積 | 13世紀初頭～ 河成堆積 | 土壤化 | 北西から南東 | 圃場整備以前 水田・畠 |
| | -2 | | | 土壤化 | | 水田・畠 |
| | -3 | | | 河成堆積 | | 水田・畠 |
| III | a | 中世耕作土層 | 土壤化・遺構 河成堆積 | ~ 13世紀初頭 | 13世紀初頭 | ↑水田・畠 △建物 |
| | b-1 | 中世洪水層 | | | | |
| | b-2 | III b-1層のリバース・グレーディング | | | | |
| IV上部 | a-0 | 古代包含層より繰り返す悪い層 | 土壤化 | SD41付近から 南北へ | 水田？ 弥生後期～9世紀 △建物△溝・建物 古墳中期 水田？ △溝 | |
| | a-1 | 古代包含層 古墳中期(北部) | 土壤化・遺構 | | | |
| | a-2 | 古墳中期包含層 | 土壤化 | | | |
| | a-3 | 古墳前期水田層？ | 土壤化 | | | ↑水田？・水路 |
| IV中部 | b-1 | 弥生中期遺構面を覆う洪水層(SD8) | 弥生中期後葉 | 河成堆積 | (↑溝・方形周溝墓) | |
| IV下部 | b-1 | 上層遺構面を覆う洪水層(SD41最上層) | 北西部土壤化 | | | |
| | b-2 | 上層遺構面を覆う洪水層 | 河成堆積 | | | |
| V上層 | a-1 | 弥生前期前半 | 堆積 | | | |
| | a-2 | 弥生前中期上層耕作土層 | 土壤化 | | | 放棄 |
| | b | 弥生前中期下層耕作土層 | 河成堆積 | | | ↑水田 |
| V下層 | a | 弥生前中期下層耕作土層 | 土壤化 | 北西から南東 ~ | ↑水田・畠 縄文晚期？ | |
| V最下層 | a' | 漸移層 | 土壤化 二次堆積？ | | | 一部複拌 |
| VIa | 黒ボク層 | SD41付近から 南北へ | 土壤化 | 北東から南西へ | | |
| | VII-2a | 土壤化した砂層(東部) | | | | |
| | VII-1b | 黄褐色粘土層 | | | | |
| | VII-2b | 砂層 | 河成堆積 | | | |
| VII-3b | | 礫層(東北部) | 水性堆積 | | | |

第1表 基本層序概略表（↑上面 ↓下面 △層内検出を示す）

Ⅲ b 層は、調査区北西部の粒度がシルトと細かく、南東部の粒度が粗砂まじりシルト質細砂と粗い。洪沢砂層であり、Ⅲ a 層の母層である。IV 層では調査区中央部が微高地になり、南北に低くなる地形であったが、南北の低く落ち込んでいた場所にⅢ b 層が堆積することでIV 層で形成された調査区中央部の微高地を覆い水平な地形に変化する。調査区北部では、Ⅲ b 層を細分できる。上部のⅢ b-1 層は調査区に広く堆積する層である。その下部のⅢ b-2 層は均質な暗灰黃～黃褐色シルト層であり、Ⅲ b-1 層堆積直前のリバース・グレーディング現象に伴う自然堆積層である⁽³⁾。

IV 層 IV 層はV 層の段階で掘削された SD41 を氾濫原とする洪水砂によって地形が形成され、調査区中

央部が微高地となり、南北に低くなっている地形の時期とまとめることができる。

IV 層上部 a-0 層は粗砂まじりシルトで、直下のIV 層上部 a-1 層に類似することからIV 層に含めておく。

IV 層上部 a-1 層は、調査区中央部での層厚が厚く、土壤の粒子は中央部から南北に細かく変化する。中央部での粒度は粗砂まじり粘質細砂で、南部では粗砂まじりシルトへ、北部では粘質シルトへ変化している。IV 層上部 a-1 層は、IV 層下部 b-1 層以降の堆積物の土壤化層である。調査区西部では、弥生中期後葉の遺物を包含する SD8 から流出するIV 層中部 b-1 層の上部の土壤化層であり、調査区北部では古墳時代前期の遺物を包含する SD5 が埋積された

| 基木層序 | 邊縫面 | 地質取上部記 | 土質等 | 地點 | 形成要因 | 時期 | 利用地型 |
|--------|-------------|-------------|---|--|-------------|-------------|---------------------|
| I | -1 | 表土 | 表土 | | 漬涵整備以前 | 現在の品耕作土 | |
| | -3 | 埋土 | 埋土 | | 漬涵整備時 | 造成土 | |
| II | -1 | 重機掘削 | 10Y3/4暗褐色砂質(ア) | 15m付近 | 土壤化 | 漬涵整備以前 | 耕作土 |
| | -2-1 | | 10Y8/3(暗)-5(黃褐色粗砂まじり)4(1-2層)5(粘土) | 25m付近 | | | |
| | -2-2 | | 8V4/2暗褐色砂質(シ) | 1~8m付近 | | | |
| | -2-5 | | 2.5V4/4暗褐色粗砂まじり)4(1-2層)5(粘土) | 13m以北 | | | |
| | -2-3 | | 2.5V5/3(黃褐色粗砂まじり)4(1-2層) | | | | |
| | -2-4 | | 2.5V3/4(黄褐色細砂質)4(1-2層) | | | | |
| III | a | 包含層 | 2.5V4/2暗褐色砂(シ)4(1-2層) | | 土壤化 | 13世紀初頭に利用 | 水田耕作土 |
| | b-1 | | 2.5V3/3(暗オーブー色)4(1-2層) | | | | |
| | b | | 2.5V4/2暗褐色砂(シ)4(1-2層) | | 河成堆積(洪水砂) | 9~13世紀初頭に堆積 | |
| | b-2 | | 2.5V3/3(黄褐色シ)4(1-2層)1(リバース・グレーディング) | | | | |
| IV層上部 | a-1 | SD11 | 10Y9/3/2(黄褐色粗砂まじり)4(1-2層) | 9m以南 | 土壤化 | 衛生後期~9世紀に利用 | 水田耕作土? |
| | | | 10Y9/2/2(黄褐色粗砂まじり)4(1-2層)(大特厚)4(1-2層)5(粘土) | 9m以北 | | | 堆積物 「土堆」 「土壠」 |
| | | | 2.5V3/2(黑褐色粘質)4(1-2層) | 38m付近 | 古墳中期~9世紀に利用 | | 水田耕作土 |
| | SD23 | | 2.5V3/2(暗褐色粗砂まじり)4(1-2層)(ブロッキ状) | | | | 落ち込み |
| | SD41 | | 10Y9/2/2(黄褐色粗砂まじり)4(1-2層)(シルト) | | | | 第六代羽? |
| | SD11-1 | | 10Y9/2/2(黄褐色粗砂まじり)4(1-2層)5(粘質)4(1-2層) | | 土壤化 | 9世紀 | 落ち込み |
| SD11-2 | IV層上部a-1層下面 | SD11下層 | 2.5V3/3(暗褐色粗砂まじり)4(1-2層)(シルト)5(粘質)4(1-2層) | | | | 古墳後期~奈良 |
| | SD11-2 | IV層上部a-1層下面 | SD11下層 | 2.5V3/3(暗褐色粗砂まじり)4(1-2層)(シルト)5(粘質)4(1-2層) | | | 水路 |
| SD24 | 埋土下面 | SD24 | 2.5V3/3(黄褐色粗砂)4(1-2層)5(粘土) | | 河成堆積 | 衛生中期 | 水路~区画溝 |
| | Ph | IV層上部a-1層下面 | 各P | 10Y9/2/2(黄褐色粗砂まじり)4(1-2層)5(粘質)4(1-2層)5(粘土) | | | 古代 |
| a-2 | 2號 | 2號 | 2.5V3/1(黑褐色粘質)4(1-2層) | 38m付近 | 土壤化 | 古墳中期 | 水田耕作土+漢 |
| | SD03-3 | IV層上部a-2層下面 | SD03下層 | 2.5V4/2(黄褐色粗砂)4(1-2層)5(粘土) | 34m付近 | 泥水? | 古墳初期 |
| IV層中部 | SD05-6 | SD05-6 | 2.5V3/2(暗褐色粗砂まじり)4(1-2層) | | | | |
| | b-1 | | 2.5V4/1(黄褐色粗砂まじり)4(1-2層) | 8m付近 | | | |
| | | | 10Y9/2/2(黄褐色粗砂)4(1-2層)5(粘質)4(1-2層)5(粘土)6(シルト) | 13m付近 | | | |
| | SD08 | | 2.5V3/3(暗褐色粗砂)4(1-2層)5(粘土)6(シルト) | 27m付近 | 河成堆積 | 衛生中期 | 水路~区画溝 |
| | b-1 | | 2.5V3/4(黄褐色シ) | 29m付近 | | | |
| | SD09 | | 2.5V3/3(暗褐色粗砂)4(1-2層)5(粘土) | | | | |
| SD09-4 | IV層下部b-1層上面 | SD09 | 2.5V4/2(暗褐色粗砂)4(1-2層)5(粘土) | | | | |
| | b-2 | 2號 | 2.5V3/1(黑褐色粘質)4(1-2層) | 13m付近 | | | 清 |
| | SD24 | IV層下部b-1層上面 | 10Y9/1/1(黄褐色粗砂) | | | | |
| | SD05-3 | IV層上部a-2層下面 | SD05-3 | 2.5V4/2(黄褐色粗砂)4(1-2層)5(粘土) | 34m付近 | 泥水? | 古墳初期 |
| IV層下部 | b-1 | SD41 | 2.5V3/3(黄褐色粗砂)4(1-2層)5(粘土) | 24m付近 | 河成堆積(洪水砂) | 衛生前期 | |
| | b-2 | | 2.5V4/1(オーブー色)4(1-2層) | 30m付近 | | | |
| | | | 2.5V3/2(黑褐色粘質)4(1-2層) | 38m付近 | | | |
| | b-3 | | 2.5V4/2(黄褐色シ)4(1-2層) | | | | |
| | b-4 | | 2.5V4/1(黄褐色粗砂)4(1-2層)5(粘土) | 8m付近 | 河成堆積 | 衛生前期 | |
| | SD41 | | 2.5V3/4(ニコニコ-黄色)4(1-2層)5(粘土) | 31m付近 | (洪水砂) | | |
| V上層 | SD55 | IV層下部b-1層下面 | 10Y9/2/1(黒褐色粗砂)2.5V3/3(オーブー色)4(1-2層)5(粘土) | 24m付近 | | | |
| | a-2-4 | 上層耕作土 | 10Y9/2/2(黄褐色粗砂)4(1-2層)5(粘土) | 17m付近 | 耕作 | 衛生前期 | 水田耕作土 |
| | | | 10Y9/2/1(黒褐色粗砂)5(粘土)4(1-2層)5(粘土) | 20m付近 | | | |
| | | | 10Y9/2/2(黒褐色)4(1-2層)5(粘土)4(1-2層) | 29m付近 | | | 耕作土 |
| V下層 | a-3 | 3下層耕作土 | 2.5V2/2(黒褐色)4(1-2層)5(粘土)4(1-2層) | 29m付近 | | | |
| | | | 10Y9/2/1(黒褐色)4(1-2層)5(粘土) | 31m付近 | 耕作 | 衛生前期 | 水田耕作土 |
| | | | 10Y9/2/2(黒褐色)4(1-2層)5(粘土)4(1-2層) | 31m付近 | | | 耕作土 |
| | | | 10Y9/2/2(黄褐色粗砂)4(1-2層)5(粘土)4(1-2層) | 31m付近 | | | 耕作土 |
| a-1 | | SD44-3 | 10Y9/2/1(黒褐色)4(1-2層)5(粘土) | 31m付近 | 耕土 | | 土壤 |
| | | | 10Y9/2/2(黒褐色)4(1-2層)5(粘土) | 31m付近 | | | 土壤 |
| V最下層 | a' | 2號 | 2.5V3/3(黑褐色粘土)4(1-2層) | 29m付近 | 土壤化 | 衛生前期? | 一部耕作 |
| | VI | a | 10Y9/2/1(黑褐色粘土)4(1-2層) | 31m付近 | 土壤化 | | |

第2表 調査区西壁断面層序一覧表

| 基本層序 | 層構造 | 地質取扱い記述 | 上質帶 | 地点 | 形成原因 | 時期 | 利用形態 |
|-------|---------------------------------|-------------|--|-------------------|--------------------|----------------|------|
| I | -1 | 表土 | 試掘坑 | 試掘 平成12年 | 堆土 | 現在の水田・耕作土 | |
| | -2 | | 表土 | | | | |
| II | -1 | 包含層 | 10YR8/3/C(5)-1 黄褐色粘砂土(細砂・砂層) | (底面整備以前) 35m付近 | 堆積带 堆積带後以降 | 現在の水田・耕作土 | |
| | -2 | | 2.5Y6/2C(5) 黄褐色粘砂土(細砂・砂層) | | | | |
| | -3 | | 2.5Y7/2C(5) 黄褐色粘砂 | | | | |
| | -4 | | 3Y4/2C(5) 色(5) (砂・砂利・砂利・含む) | 6m付近 | 土壤化 13世紀初期に利用 | 水田耕作土 | |
| | a | | 10YR8/2/C(5)-1 黄褐色粘砂土(細砂・砂層) (A層) | | | | |
| III | b-1 | | 2.5Y7/1C(5) 黄褐色粘砂 | 河成堆積 (流水40) | 9~13世紀初期に堆積 | | |
| | b-2 | | 2.5Y5/2C(5) 黄褐色粘砂 (B層) (浮遊物・グレード・シングル) | | | | |
| | b-3 | | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (C層) (浮遊物・グレード・シングル) | | | | |
| IV層上部 | SDS-1 | 2包 | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (以西ほど細かい) | 8m付近 | 土壤化 古墳中期~9世紀に利用 | 水田耕作土 | |
| | a-1 | | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (C層) (浮遊物) | | | | |
| | a-2 | | 2.5Y7/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (細砂・砂層) | | | | |
| | SDS-2 | IV層上部a-2層下面 | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-1層) | 35m付近 | 堆積带 堆積带後~9世紀に利用 | △建物1棟+堆物 | |
| | SDS-3 | | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-2層) | | | | |
| | SDS-4 | | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-3層) | | | | |
| | SDS-5 | IV層上部a-2層下面 | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-4層) | 40m付近 | 古墳初期 | 土壌 | |
| | SDS-6 | | 3Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-5層) | | | | |
| | SDS-7 | | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-6層) | | | | |
| IV層中部 | SDS-8 | IV層上部a-2層下面 | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-7層) | 28m付近 | 水路 | 水路 | |
| | SDS-9 | | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-8層) | | | | |
| | SDS-10 | | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-9層) | | | | |
| | SDS-11 | IV層下部a-1層上面 | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-10層) | 17m付近 | 古墳初期 | 土壌 | |
| | SDS-12 | | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-11層) | | | | |
| | SDS-13 | | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-12層) | | | | |
| | SDS-14 | IV層下部a-1層下面 | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-13層) | 24m付近 | 水路 | 水路 | |
| | SDS-15 | | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-14層) | | | | |
| | SDS-16 | | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SDS-15層) | | | | |
| IV層下部 | SDS-17 | IV層下部 | 2.5Y5/4C(5) 黄褐色粘砂 (A層) | 4~8m付近 (流水40) | 河成堆積 堆積带前期 | 堆積 | |
| | SDS-18 | | 2.5Y5/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) | | | | |
| | SDS-19 | | 2.5Y5/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) | | | | |
| | SDS-20 | | 2.5Y5/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) | | | | |
| | SDS-21 | | 2.5Y5/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) | | | | |
| | SDS-22 | IV層下部a-1層下面 | 2.5Y5/3C(5) 黄褐色粘砂 (A層) | 28m付近 | 河成堆積 堆積带 | 堆積 | |
| | SDS-23 | | 2.5Y5/3C(5) 黄褐色粘砂 (A層) | | | | |
| | SDS-24 | | 2.5Y5/3C(5) 黄褐色粘砂 (A層) | | | | |
| | SDS-25 | | 2.5Y5/3C(5) 黄褐色粘砂 (A層) | | | | |
| | SDS-26 | | 2.5Y5/3C(5) 黄褐色粘砂 (A層) | | | | |
| V上層 | a-1 | 上層解剖 | 1.5Y6/2-C(5) 黄褐色 (A) 黄褐色 (B) 黄褐色 (C) 黄褐色 (D) 黄褐色 (E) 黄褐色 (F) | 堆積 | 堆積 | 堆積 | |
| | SD44-1 | | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SD44-1層) | | | | |
| | SD44-2 | | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SD44-2層) | | | | |
| | V上層a-2層上面 | SD44上層 | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (SD44上層) | 流水 堆積带 | 堆積带 堆積带 | 水路 | |
| | | | 上層耕作土下下層耕作土の分離不可能 | | | | |
| | | | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | | | | |
| | 3上層耕作土 | 上層耕作土 | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | 6m付近 耕作 | 耕作 耕作 | 水路 | |
| | | | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | | | | |
| | | | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | | | | |
| | a-2-1 | 3上層耕作土 | 2.5Y3/1C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | 33~36m付近 | 堆積带 堆積带 | 堆積 | |
| | | | 10YR8/2/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | | | | |
| | | | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | | | | |
| | a-2-2 | 3上層耕作土 | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | 40m付近 | 堆積带 堆積带 | 堆積 | |
| | | | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | | | | |
| | | | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | | | | |
| SD56 | 3上層耕作土 | 3上層耕作土 | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | 36m付近 | 堆積带 堆積带 | 堆積 | |
| | | | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | | | | |
| | | | 10YR8/1/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | | | | |
| | SD44-3 | 3上層耕作土 | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | 25m付近 | 堆積带 堆積带 | 水路 | |
| | | | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (上層耕作土) | | | | |
| V下層 | b-1 | V下層a-3層上面 | 10YR8/2/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (下層耕作土) | 9m付近 | 堆積带 堆積带 | 水路 | |
| | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (下層耕作土) | | | | | | |
| | 10YR8/2/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (下層耕作土) | | | | | | |
| | a-2 | 3下層耕作土 | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (下層耕作土) | 10m付近 | 堆積带 堆積带 | 水路 | |
| | | | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (下層耕作土) | | | | |
| | a-3 | 3下層耕作土 | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (下層耕作土) | 6~10m付近 | 耕作 耕作 | 品耕作土 | |
| | | | 2.5Y3/2C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (下層耕作土) | | | | |
| | | | 10YR8/2/C(5) 黄褐色粘砂 (A層) (下層耕作土) | | | | |
| VI | a | 3層 | 2.5Y3/1C(5) 黑褐色粘土 (堆積層) | 3m付近 | 土壤化 土壤化 | 黒色耕作土 黒色耕作土 | |
| | 2.5Y2/1C(5) 黑褐色粘土 (堆積層) | | | | | | |
| | 2.5Y3/1C(5) 黑褐色粘土 (堆積層) | | | | | | |
| | 2.5Y3/1C(5) 黑褐色粘土 (堆積層) | | | | | | |
| | S258 | | 2.5Y3/1C(5) 黑褐色粘土 (堆積層) | | | | |

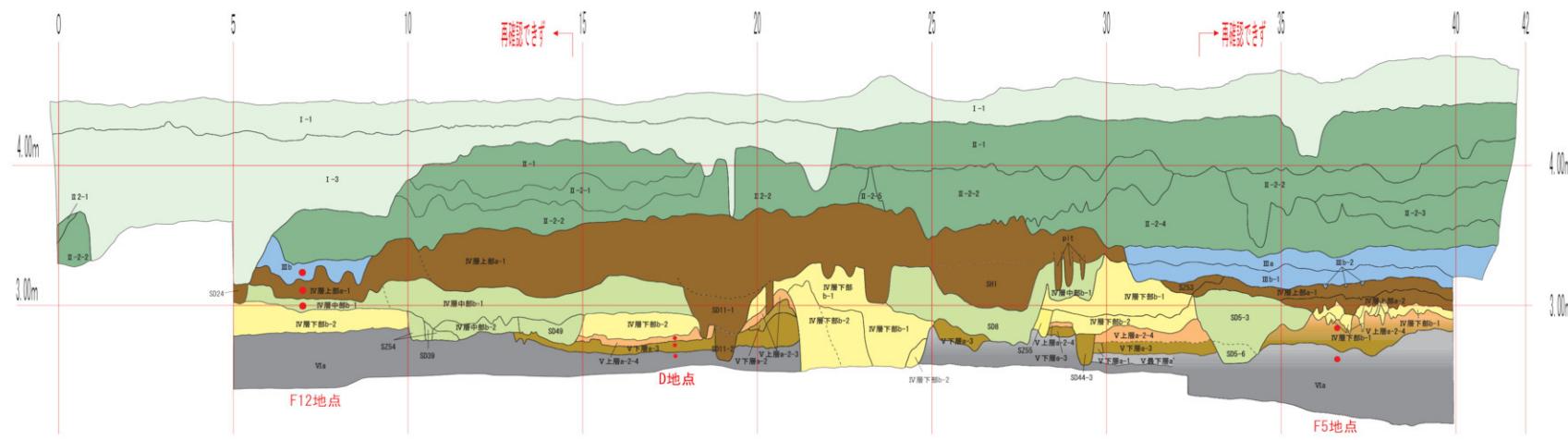
第3表 調査区北壁断面層序一覧表

| 基本層序 | 造構面 | 地物名上記 | 土質等 | 地点 | 形成原因 | 時期 | 利用形態 | |
|--------|------------------------------|------------------------------------|------------------------------|----------------------|---------|---------|---------|--|
| IV層下部 | | | 2.3V/1褐色の細砂(砂)・粘土(砂) | 80m付近 | 河成堆積 | 新生前期に堆積 | | |
| b-1 | 2b层 | | 2.3V/2テリーテ褐色の細砂(砂)・粘土(砂) | 140m付近 | (洪流水形) | | | |
| b-1' | | | 2.3V/3テリーテ褐色の細砂(砂)・粘土(砂) | 240m付近 | | | | |
| | 2b下層 | | 2.3V/4褐色の細砂(砂)・粘土(砂) | 290m付近 | | | | |
| b-2 | 2b层 | IVY/1褐色の細砂(砂)・粘土(砂) | 2.3V/5褐色の細砂(砂)・粘土(砂) | 290m付近 | | | | |
| b-2' | | IVY/2褐色の細砂(砂)・粘土(砂) | IVY/3褐色の細砂(砂)・粘土(砂) | 290m付近 | | | | |
| V上層 | SD44-2 | V上層a-2層上面 | SD44-1層 | IVY/4褐色の細砂(砂)SD44-1層 | 9~11m付近 | 河成堆積 | 新生前期に堆積 | |
| a-2-4 | | IVY/4褐色の細砂(砂)IVY/5褐色の細砂(砂) | IVY/6褐色の細砂(砂)IVY/7褐色の細砂(砂) | 3m付近 | 耕作 | 新生前期に利用 | 水田耕作土 | |
| | 3層耕作土 | | 2.3V/8褐色の細砂(砂)IVY/8褐色の細砂(砂) | 8m付近 | | | | |
| a-2-3 | | IVY/9褐色の細砂(砂)IVY/10褐色の細砂(砂) | IVY/11褐色の細砂(砂)IVY/12褐色の細砂(砂) | 10m付近 | | | | |
| a-2-2 | 3上層a明瞭 | | IVY/13褐色の細砂(砂)IVY/14褐色の細砂(砂) | 13m付近 | | | | |
| b-1 | V下層a-3層上面 | 3下層耕作土 | IVY/15褐色の細砂(砂)IVY/16褐色の細砂(砂) | 18m付近 | | | | |
| b-2 | V下層a-3層上面 | | IVY/17褐色の細砂(砂)IVY/18褐色の細砂(砂) | 22m付近 | | | | |
| SD44-3 | SD44下層 | | 2.3V/9褐色の細砂(砂)IVY/9褐色の細砂(砂) | 3m付近 | 洪水砂 | 新生前期に堆積 | | |
| V下層 | a-3 | | IVY/10褐色の細砂(砂)IVY/11褐色の細砂(砂) | 3m付近 | 耕作 | 新生前期に利用 | 水田耕作土 | |
| | IVY/12褐色の細砂(砂)IVY/13褐色の細砂(砂) | IVY/14褐色の細砂(砂)IVY/15褐色の細砂(砂) | 10~13m付近 | | | | | |
| | 3下層耕作土 | | IVY/16褐色の細砂(砂)IVY/17褐色の細砂(砂) | 21m付近 | 耕作 | 新生前期に利用 | 水田耕作土 | |
| a-2 | 3下層SD44北端土 | | IVY/18褐色の細砂(砂)IVY/19褐色の細砂(砂) | 27m付近 | | | | |
| a-1 | | 下層耕作土上IVY/20褐色の細砂(砂)IVY/21褐色の細砂(砂) | IVY/22褐色の細砂(砂)IVY/23褐色の細砂(砂) | 15m付近 | 盛土 | 新生前期 | 土壤 | |
| | | IVY/24褐色の細砂(砂)IVY/25褐色の細砂(砂) | IVY/26褐色の細砂(砂)IVY/27褐色の細砂(砂) | 19m付近 | | | | |
| V底下層 | a' | 3b层 | IVY/28褐色の細砂(砂)IVY/29褐色の細砂(砂) | 2~3m付近 | 土壤化 | 調文施設 | 一回復耕 | |
| V1 | a | 4層 | IVY/30褐色の細砂(砂) | 2~7m付近 | 土壤化 | | | |
| V1 | -1b | | 粘土 | 13~26m付近 | 河成堆積 | | | |

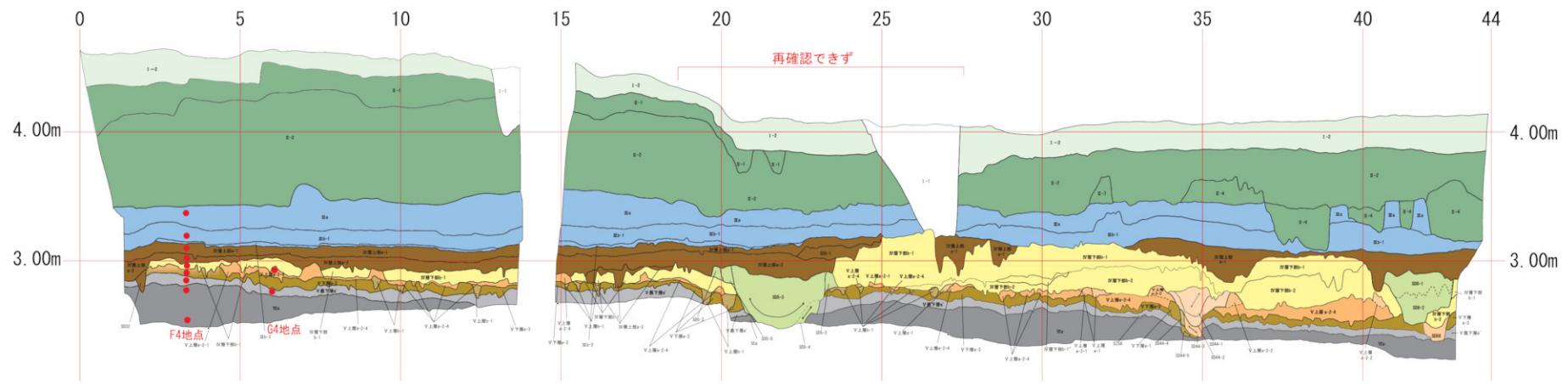
第4表 中央トレーン断面層序一覧表

| 基本層序 | 造構面 | 地物名上記 | 土質等 | 地点 | 形成原因 | 時期 | 利用形態 | |
|--------|--------------|--------------|------------------------------------|---------------------------|-------|-------------|----------|-------|
| I | -2 | 表土 | 表土 | | | | | |
| II | -1 | 粘土層 | 3V/1灰(灰)オーブー粘土(砂)3V/2粘土(砂)(東面壁面以降) | | 泥炭帯隙隙 | 泥炭帯隙隙以前 | 現在の水田耕作土 | |
| | -2-6 | | IVY/3灰(灰)褐色の細砂(砂)IVY/4粘土 | | 土壤化 | | | |
| | -2-7 | | 2.3V/5褐色の細砂(砂)IVY/5粘土 | | | | | |
| | -2-8 | | 2.3V/6褐色の細砂(砂)IVY/6粘土 | | | | | |
| | -3-1 | | 2.3V/7褐色の細砂(砂)IVY/7粘土 | | | | | |
| | -3-2 | | 2.3V/8褐色の細砂(砂)IVY/8粘土 | | | | | |
| | -3-2' | | 2.3V/9褐色の細砂(砂)IVY/9粘土 | | | | | |
| SD59-1 | | | 2.3V/10褐色の細砂(砂)IVY/10粘土 | | | | | |
| III | SD59-2 | 3a層上面 | 2.3V/11褐色の細砂(砂)IVY/11粘土 | | 洪水砂 | | 水路 | |
| a | | | 2.3V/12褐色の細砂(砂)IVY/12粘土(有り) | | | | | |
| b | | | IVY/13褐色の細砂(砂)IVY/14粘土 | | | | | |
| IV層上部 | a-0 | 2层 | 100GA/1褐色の細砂(砂)100GA/2粘土(有り) | 2m付近 | 河成堆積 | 9~13世紀初期に堆積 | | |
| a-1 | | | 2.3V/15褐色の細砂(砂)IVY/15粘土(有り) | 2m付近 | 土壤化 | ~9世紀に利用 | 凸凹戸 | |
| | | | IVY/16褐色の細砂(砂)IVY/17粘土(有り) | 2m付近 | | | | |
| | | | IVY/18褐色の細砂(砂)IVY/19粘土(有り) | 2m付近 | | | | |
| | | | IVY/20褐色の細砂(砂)IVY/21粘土(有り) | 2m付近 | | | | |
| | | | IVY/22褐色の細砂(砂)IVY/23粘土(有り) | 2m付近 | | | | |
| | | | IVY/24褐色の細砂(砂)IVY/25粘土(有り) | 2m付近 | | | | |
| | | | IVY/26褐色の細砂(砂)IVY/27粘土(有り) | 2m付近 | | | | |
| | | | IVY/28褐色の細砂(砂)IVY/29粘土(有り) | 2m付近 | | | | |
| | | | IVY/30褐色の細砂(砂)IVY/31粘土(有り) | 2m付近 | | | | |
| IV層中部 | SD56-1(0113) | IV層上25m-1層上面 | SD27下層 | 2.3V/1褐色の細砂(砂)IVY/1粘土(有り) | | | | |
| | SD57-1(0115) | IV層上25m-1層下面 | | 2.3V/2褐色の細砂(砂)IVY/2粘土(有り) | | | | |
| | SD57-2(0116) | IV層上25m-1層下面 | | 2.3V/3褐色の細砂(砂)IVY/3粘土(有り) | | | | |
| | SD58-1(0117) | IV層上25m-1層下面 | 50m付近 | IVY/4褐色の細砂(砂)IVY/4粘土(有り) | | | | |
| | SD58-2(0118) | IV層上25m-1層下面 | 50m付近 | 2.3V/5褐色の細砂(砂)IVY/5粘土(有り) | | | | |
| | S260 | | 2.3V/6褐色の細砂(砂)IVY/6粘土(有り) | | | | | |
| IV層中部 | SD56-1(0119) | IV層下25m-1層上面 | SD36 | 2.3V/7褐色の細砂(砂)IVY/7粘土(有り) | | | | |
| | SD56-2(0120) | | SDG4/1褐色の細砂(砂)SDG4/2粘土(有り) | | | | | |
| IV層下部 | b-1 | 2b层 | 2.3V/8テリーテ褐色の細砂(砂)IVY/8粘土 | 2m付近 | 河成堆積 | 新生前期に堆積 | (下部)河成堆積 | |
| b-2 | | | 2.3V/9褐色の細砂(砂)IVY/9粘土 | 3m付近 | 土壤化 | | | |
| b-3 | | | 100GA/1褐色の細砂(砂)100GA/2粘土(有り) | 8m付近 | | | | |
| | | | IVY/10褐色の細砂(砂)IVY/11粘土(有り) | 15m付近 | | | | |
| | | | IVY/12褐色の細砂(砂)IVY/13粘土(有り) | 20m付近 | | | | |
| | | | IVY/14褐色の細砂(砂)IVY/15粘土(有り) | 25m付近 | | | | |
| | | | IVY/16褐色の細砂(砂)IVY/17粘土(有り) | 30m付近 | | | | |
| | | | IVY/18褐色の細砂(砂)IVY/19粘土(有り) | 35m付近 | | | | |
| | | | IVY/20褐色の細砂(砂)IVY/21粘土(有り) | 40m付近 | | | | |
| | | | IVY/22褐色の細砂(砂)IVY/23粘土(有り) | 45m付近 | | | | |
| | | | IVY/24褐色の細砂(砂)IVY/25粘土(有り) | 50m付近 | | | | |
| | | | IVY/26褐色の細砂(砂)IVY/27粘土(有り) | 55m付近 | | | | |
| | | | IVY/28褐色の細砂(砂)IVY/29粘土(有り) | 60m付近 | | | | |
| | | | IVY/30褐色の細砂(砂)IVY/31粘土(有り) | 65m付近 | | | | |
| V上層 | a-3 | 3下層耕作土 | 2.3V/3褐色の細砂(砂)IVY/3粘土(有り) | 10m以降 | 耕作 | 新生前期に利用 | 水田・島耕作土 | |
| a-2 | 3上層土 | | IVY/4褐色の細砂(砂)IVY/4粘土(有り) | 6m付近 | 土壤化 | 新生前期 | 土壤 | |
| SD57 | V上層a-3層上面 | 耕作土 | IVY/5褐色の細砂(砂)IVY/5粘土(有り) | 25~30m付近 | 洪水砂 | | | |
| | V下層 | a-3 | 3下層耕作土 | 2.3V/6褐色の細砂(砂) | 1m付近 | 耕作 | 新生前期に利用 | 水田耕作土 |
| V层下部 | a' | 2b层 | 2.3V/7褐色の細砂(砂) | 2m付近 | 泥炭化 | 調文施設 | 一回復耕 | |
| | | | IVY/8褐色の細砂(砂) | 6m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | 2.3V/9褐色の細砂(砂) | 10m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/10褐色の細砂(砂) | 15m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/11褐色の細砂(砂) | 20m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/12褐色の細砂(砂) | 25m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/13褐色の細砂(砂) | 30m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/14褐色の細砂(砂) | 35m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/15褐色の細砂(砂) | 40m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/16褐色の細砂(砂) | 45m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/17褐色の細砂(砂) | 50m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/18褐色の細砂(砂) | 55m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/19褐色の細砂(砂) | 60m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/20褐色の細砂(砂) | 65m付近 | 土壤化 | | | |
| | | | IVY/21褐色の細砂(砂) | 70m付近 | 土壤化 | | | |

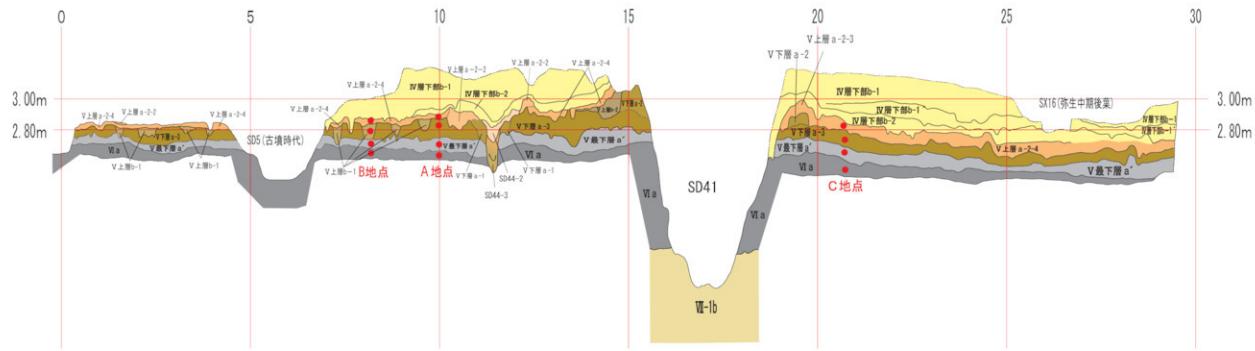
第5表 調査区東壁断面層序一覧表



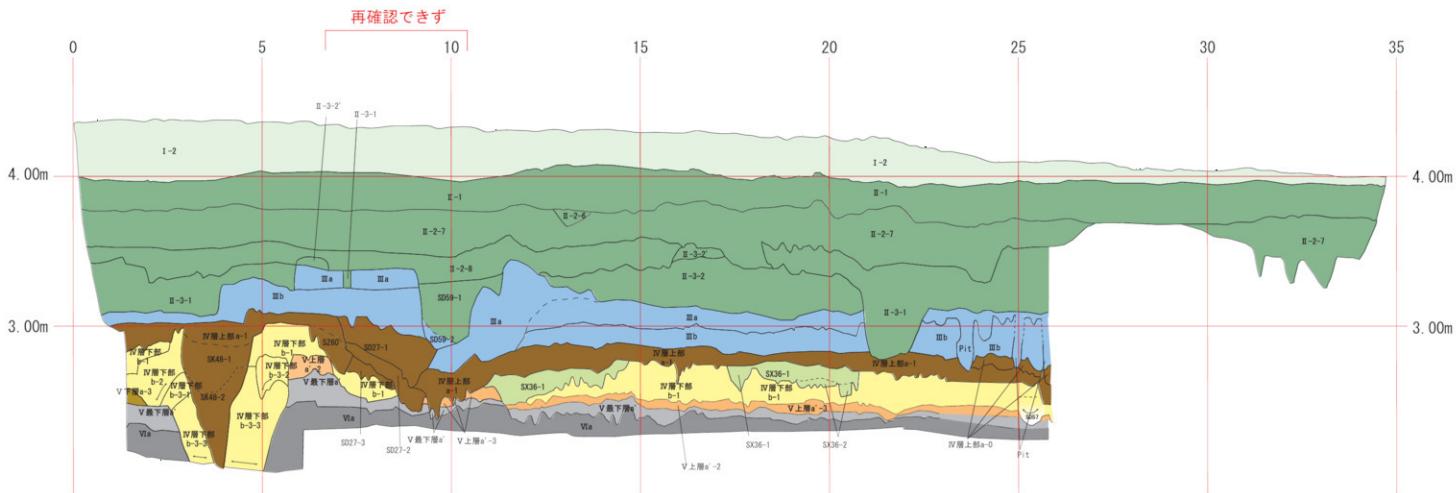
第5図 調査区西壁土層断面図（水平1:100、垂直1:25）



第6図 調査区北壁土層断面図（水平1:100、垂直1:25）



第7図 中央トレンチ土層断面図（水平1: 100、垂直1: 25）



第8図 調査区東壁土層断面図（水平1: 100、垂直1: 25）

後に堆積した土壤化層である。調査区中央部のIV層上部a-1層上面では、自然堆積層であるⅢb層の堆積がないことや水田層が重層的に堆積しているⅡ層が接していることから後の耕作等による影響もあつたと考えられる。他方、北部や南部のIV層上部a-1層上面では、自然堆積層であるⅢb層が堆積しており、地形を留めていると考えられる。Ⅲb層により覆われている部分での所見は、調査区北部（F～I6グリッド付近）が直線状に削り出されており、土壤化した水平堆積層がみられる点と、調査区南西部の大畦畔（西壁断面9m付近）以南の断面では歓立て状の起伏のみられた点が挙げられる。現地調査時には平面的な検出を実施しておらず、土層の十分な記録もとることが出来なかつたが、クロス・チェックを目的としてプランツ・オバール分析を実施している。北部の段から南部の大畦畔までのIV層上部a-1層は、土壤が極めてよくしまつていていた。この間の距離は21.8mである。この間の層内からは、弥生時代後期から9世紀ごろにかけての掘立柱建物の柱穴や堅穴住居や溝などの遺構が確認された。

調査区北部のIV層上部a-2層は、平面的にはSD5の位置する付近でやや粗く、それから北西部にかけて粗砂まじりシルト～粘質シルトへと変化する土壤化層である。IV層上部a-2層上面では、落ち込みSD5上層がみられ、古墳時代中期の遺物を包含していた。IV層上部a-2層下面では、古墳時代中期の遺物を含むSD32が検出されている。

IV層上部a-3層は粘質シルトであり、下面ではSD33が検出された土壤化層である。IV層上部a-2層下面の一部にしか確認できなかつたが、これは調査区北西部では上層のIV層上部a-2層も粘質シルトになり、類似していたために分層出来ていない可能性がある。また、SD5以北では下層のIV層下部b-1層もやや黒ずんでおり、IV層上部a-3層から浸透していることなども考えられる。IV層上部a-2層下部で検出されたSD5は、両肩に土堤が築かれており、土堤の標高からはIV層上部a-2層とIV層下部b-1層の間に土壤化層が存在していたことも推定される。SD5は埋土にラミナがみられ、流水が流れていた時期がある。古墳時代前期の遺物をわずかに含んでいた。

IV層中部b-1層は、SD41をほぼ踏襲して掘削され弥生中期後葉の遺物を含むSD8から流れ出た洪水砂層であり、粒度はSD8付近の粗砂～シルトへと南北に細かく変化する。弥生中期後葉の遺構は、SD8以外に方形周溝墓や土坑などがみられるが、これらの遺構はIV層中部b-1層内では検出できず、IV層中部b-1層下面つまりIV層下部b-1層上面でしか検出できなかつた。当初はIV層中部b-1層内からの切り込みを調査精度の問題から、下面でしか検出できなかつたことも考えていたが、方形周溝墓群から出土した遺物がIV層下部b-1層上面と同じ高さで削平されていたことから、方形周溝墓群はIV層中部b-1層の堆積以前の遺構といえる。また、IV層下部b-1層は後述するが、自然堆積層であり、非土壤化層である。本来はIV層下部b-1層より上方に遺構が位置していた可能性がある。

SD41最上層であるIV層下部b-1層は、SD41の位置する調査区中央部での堆積が厚く、土壤の粒度はSD41を境に南北に粗砂～粘質シルトへと細かく変化する。IV層下部b-2層もIV層下部b-1層と同様に、SD41を境に南北に疊まじり粗砂～シルト質粘土と変化する。IV層下部b-2層はV層上面を覆うが、全面を覆うわけではなく一部に留まっており、統一して堆積するIV層下部b-1層がIV層下部b-2層と合わせてV層全面を覆う。IV層下部b-1層下部とIV層下部b-2層下部のV層上面には平面的に連続する水田面が広がっており、全く変化なく検出できたことから両者は極めて近い時期の洪水砂層である可能性が高い。遺物はIV層下部b-2層にわずかながら含まれるが、IV層下部b-1層は皆無に近い。IV層下部b-1層から出土した希少な遺物は、IV層下部b-2層以下と同様に縄文晩期の突帯文系土器と弥生時代前期の遠賀川系土器のみである。突帯文系土器は馬見塚式⁽⁴⁾（以下省略）、遠賀川系土器は金剛坂遺跡SK57⁽⁵⁾（以下省略）と並行する時期に限定される。

V層 V層は弥生時代前期の耕作土層とその母層である。

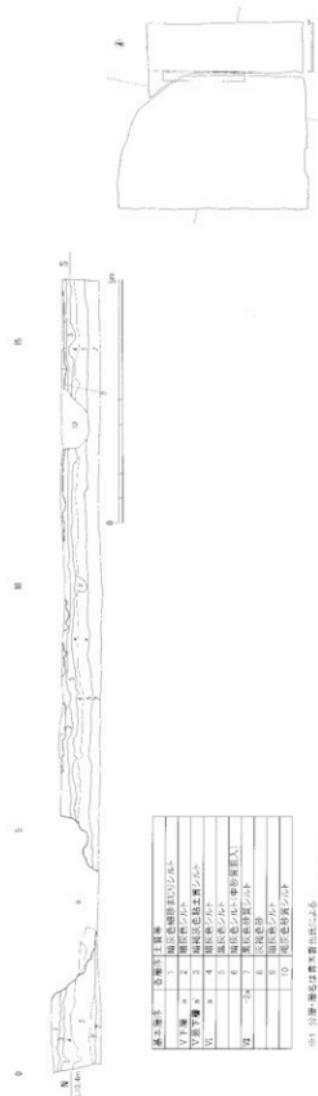
V上層a-1層は、V上層a-2層にシルト質細砂がブロック状に混じった層である。調査区北壁の断面にて部分的にしか確認することができなかつたが、V上層a-2層から崩落したような形状でみられた。

V上層a-2層はSD41の位置する調査区中央部での堆積が厚く、土質はSD41を境に北にはシルト質細砂～シルト質粘土へと、南には細砂質シルトへと細かく変化する土壤化層である。弥生時代前期上層耕作土層であるが、この層序に伴う遺構に枝番をふっており、個別の遺構を指す場合にのみ枝番を出すこととする。V上層a-2-1層は畦畔、V上層a-2-2層は大畦畔、V上層a-2-3層は土堤、V上層a-2-4層は耕作土そのもののみを指す。

V上層b-1層は、SD41から遠ざかるほど堆積物の粒度が細くなっており、中央トレーンチ3～7m付近では粘質シルト、北壁ではシルト質粘土へと変化がみられた。V上層b-2層はV下層a-2層からの崩落土と細砂が混じっていた。つまりV上層b-1層とV上層b-2層はV下層ではみられなかった土壤が堆積しており、その土壤はSD41との位置関係で変化する。V下層a層上面に堆積した洪水砂層であることからV上層に含めて扱う。また、同一の洪水砂層としてb層とし、さらに枝番をつけた。

V下層a層はシルト質粘土～粘土であり、土壤化層である。V最下層a'層を母層とする弥生時代前期下層耕作土層であるが、平面的にKグリッド以西では母層であるV最下層a'層にはみられない黄褐色粘土粒子の混じる特徴がある。V上層a-2層と同様にこの層序に伴う遺構に枝番をふっており、個別の遺構を指す場合にのみ枝番を出すこととする。V下層a-1層はSD44土堤、V下層a-2層はSD41土堤、V下層a-3層は耕作土そのものを指す。前述の黄褐色粘土は、V下層a-1層・V下層a-2層では盛り上げられていた。また、V下層a-3層では細かく押された状態でみられ、SD41に隣接するほどその量は多かった。また、この層序の上面では畦畔状の隆起を確認しているが、耕作土との分層が不鮮明であったために番号はつけていない。

V上層a'層は、調査区東壁のIV層下部b-1層下面にみられる層序である。土質は粘性が強く、下層耕作土層に近い印象を受けたが、調査区北東部では母層である後述のV最下層a'層そのものに砂質が混じっているために識別にくく、極めてV上層と下層の細分が困難だった。V上層a'層上面では畦畔やSD57がみられ、SD41土堤が塗かれている。これ



第9図 M列下層確認トレーンチ土層断面図 (1:100)

(左) 1. 土壌層
2. 土壌層
3. 土壌層
4. 土壌層
5. 土壌層
6. 土壌層
7. 土壌層
8. 土壌層
9. 土壌層
10. 土壌層

らが、V上層上面の他の地点と同様にIV層下部b-1層に覆われている点から、V上層a'層上面はV上層a層上面とほぼ同一面と考えられる。しかし、時間的にはV下層との細分ができていないことから、使用期間が異なる可能性があり、別の名称を与えた。また、枝番を付しており、V上層a'-2層は土堤、V上層a'-3層は耕作土そのものの指す。

遺物はV上層下層とともに、IV層下部b-1層以下と同様の突帯文系土器と遠賀川系土器のみの出土であり、突帯文系土器は馬見様式、遠賀川系土器は金剛坂遺跡SK57と並行する時期に限定される。

V最下層a'層は黒～黒褐色粘土層であり、VIa層よりは色調が明るく、軽い印象を受けた。調査区北東部では、粗砂が少量含まれる。VIa層が漸移的に二次堆積し、一部擾拌も受けていると考えられる層である。V最下層a'層からの出土遺物は縄文土器片1点のみであり、縄文時代晩期に帰属する遺物の可能性が高い。西壁15～20m付近のSD41南部では、中央トレンチでの状況と異なり、不安定でV最下層a'層は確認できなかった。

なお、西壁0～15、25～28、32～40m付近では、再確認ができなかったために分層できなかったが、30～32m付近において分層できていることや北壁での対応を考慮し断面図ではV上層a-2-4層は35～40m付近の下部を、VIa層はSD41以北のみ上部をグラデーションで表現した。

VI層 VIa層は黒色粘土層であり、VII-1b層の土壤化層である。いわゆる黒ボク層である。調査区北東部では数cmの褐色ブロック（有機物？）が含まれていた。堆積時期はVII-1b層と同様であり、土壤化がすんだ時期はそれ以降となる。

VIa層上面の地形は、調査区北西部から南東部にかけてゆるやかに傾斜する。

VII層 VII-1b層は明黄褐色～淡灰色粘土層である。VII-2a層は粗砂層であり、土壤化していた。VII-2b層の上部であり、その土壤化層と考えられる。VII-1b層の存在する地点ではVII-2a層が見られなかった。これはVII-1b層とその土壤化層であるVIa層の堆積土量の多い地点での状況であり、VII-1b層の層厚の厚い地点では、その上部だけが土壤化し、VII-1b層の存在しない部分では、さらにその下部に相当す

るVII-2b層まで土壤化が及んだと考えられる。つまり、VII-2a層はVIa層の形成された時期と同時に土壤化がすんだ可能性がある。

VII-2b層は粗砂層で、調査区西部のSD41西トレンチおよび調査区南部のSE26断面にて確認した。

VII-3b層は下層確認トレンチにおいて確認した。下層確認トレンチの0～5m付近では約10cmの礫を含んでおり、礫は角がとれ円滑度の高いものばかりで、大きさもほぼ均質であった。この礫層は、図版11でのレベルから数十cm下げても同様に見られた。VII-2a層以外はいずれも水性堆積層である。

なお今回の調査では、調査を行ったⅢ～V層を中心としてプランツ・オパール分析・SEMによる炭化物の分析・花粉分析（寄生虫分析含む）・珪藻分析・種実同定・C¹⁴年代測定を実施した。特にV層では、水田や畠といった食料生産に関連する可能性のある遺構が確認されたことから、そこで栽培された植物の特定や植生復原等を目的とした。分析結果は第2分冊に掲載を予定しているので、合わせて参照されたい。

2 遺構

今回の調査で確認された遺構は、同一面による検出が困難なために複数面に分けて調査を行った。具体的には、弥生時代前期の遺構面を2面（弥生時代前期下層遺構面＝V下層a層上面・弥生時代前期上層遺構面＝V上層a-2層上面）と弥生時代中期～中世前期遺構面（IV層上部a-1層内～IV層下部b-1層上面）に分けて検出した。また調査区南東部の一部では、中世前期遺構面をさらに上層のⅢb層上面にて検出した。

検出遺構の概略は、遺構一覧表（第6表）に示した。

（1）弥生時代前期下層遺構面（第10図）

経緯 弥生時代前期の遺構面が存在することについては、弥生時代中期～中世前期遺構面調査中に断面にて水田畠畔状の遺構などを確認したことで把握された。水田遺構の場合は、イネのプランツ・オパールが一定量検出されることが多いことから、プランツ・オパール分析⁽⁶⁾を実施した。その結果イネが検出され、調査が実施されるに至った。また、分析者からは乾燥した土地条件を示す傾向が見られるこ

| 遺構番号 | 性格 | 遺構面 | 時期 | 小地区 | 方位 | 備考 |
|------|-------|-------------|-----------|---------|--------|-------------------|
| SH1 | 堅穴住居 | IV層上部a-1層内 | 古墳～奈良 | F7～8 | | SD8を切る |
| SH2 | 堅穴住居 | IV層上部a-1層内 | 奈良前期 | G7～8 | | SB19に切られる |
| SD3 | 溝 | IV層上部a-1層内 | 奈良？ | F7～8 | | SB19に伴う？ |
| SZ4 | 土器群 | IV層上部a-1層内 | 奈良前期 | K7 | | 平城II～IIIの良好な一括資料 |
| SD5 | 溝 | IV層上部a-2層下面 | 古墳前期～中期 | F6～J7 | | |
| SK6 | 土坑 | IV層下部b-1層上面 | 弥生中期後葉 | H7 | | |
| SD7 | 溝 | IV層上部a-1層内 | 奈良？ | J～K6 | | SB21に伴う？ |
| SD8 | 溝 | IV層下部b-1層上面 | 弥生中期後葉 | F7～O5 | | SD41を踏襲 |
| SH9 | 堅穴住居 | IV層上部a-1層内 | 古墳中期 | H7～8 | | 包含層からS字彫E類出土 |
| SH10 | 堅穴住居 | IV層上部a-1層下面 | | F9 | | |
| SD11 | 溝 | IV層上部a-1層内 | 古墳後期 | F10～G14 | N23° W | SD24に切られる |
| SH12 | 堅穴住居 | IV層上部a-1層下面 | 弥生時代後期 | I9 | | SH13に切られる、SX16を切る |
| SH13 | 堅穴住居 | IV層上部a-1層下面 | 古墳時代初頭 | J9～K10 | | SD27に切られる、SH12を切る |
| SZ14 | 土器群 | IV層上部a-1層内 | 奈良時代後期 | J～K10 | | 平城IV～Vの良好な一括資料 |
| SF15 | 甌 | IV層上部a-1層内 | 奈良 | J10 | | |
| SX16 | 方形周溝墓 | IV層下部b-1層上面 | 弥生中期後葉 | I10～K12 | | 主体部は土器棺 |
| SD17 | | | | | | SX16の一部につき、抹消 |
| SH18 | 堅穴住居 | IV層上部a-1層下面 | 奈良前期 | G10 | | 包含層から平城II～III出土 |
| SB19 | 掘立柱建物 | IV層上部a-1層内 | 奈良後期 | F7～G8 | N16° W | 東西3間以上、南北2間、側柱 |
| SB20 | 掘立柱建物 | IV層上部a-1層内 | 奈良後期 | H7～I8 | N16° W | 東西3間、南北2間、側柱 |
| SB21 | 掘立柱建物 | IV層上部a-1層内 | 奈良後期 | J7～K8 | N16° W | 東西3間、南北2間、側柱 |
| SB22 | 掘立柱建物 | IV層上部a-1層内 | 奈良後期 | K7～8 | N13° W | 東西3間、南北2間、側柱 |
| SH23 | 堅穴住居 | IV層上部a-1層下面 | 奈良？ | G11 | | SD49を切る |
| SD24 | 溝 | IV層上部a-1層下面 | 古墳後期 | F～H13 | N67° E | SD11を切る |
| SD25 | 溝 | IV層上部a-1層下面 | 古墳後期 | F13～H12 | N54° E | SD11に切られる |
| SE26 | 井戸 | IV層上部a-1層下面 | 奈良後期 | I12 | | 井筒は一本割り抜き |
| SD27 | 溝 | IIIb層上面 | 古墳後期～中世前期 | H13～M9 | | |
| SK28 | 土坑 | IV層上部a-1層下面 | 平安時代 | J13 | | |
| SX29 | 方形周溝墓 | IV層下部b-1層上面 | 弥生中期後葉 | K9～N10 | | |
| SD30 | | | | | | SX16の一部につき、抹消 |
| SX31 | 方形周溝墓 | IV層下部b-1層上面 | 弥生中期後葉 | I～J13 | | 埋土から、大和型彫錐片 |
| SD32 | 溝 | IV層上部a-2層下面 | 古墳中期 | F4～H5 | N66° W | SD5下層を切る |
| SD33 | 溝 | IV層上部a-3層下面 | | H5～I4 | | |
| SD34 | 溝 | IV層下部b-1層上面 | 弥生 | L7～M6 | | |
| SD35 | 溝 | IV層上部a-1層下面 | 奈良 | N6 | N66° W | |
| SX36 | 方形周溝墓 | IV層下部b-1層上面 | 弥生中期後葉 | N～O10 | | |
| SD37 | 溝 | IV層上部a-1層下面 | 古墳後期 | F13～H12 | N54° W | |
| SD38 | 溝 | IV層下部b-1層上面 | | F9～10 | | |
| SD39 | 溝 | IV層下部b-1層上面 | 古墳後期 | F12～13 | N29° W | |
| SK40 | 風倒木？ | IV層上部a-2層下面 | 古墳時代 | H4 | | |
| SD41 | 大溝 | V上層・下層上面 | 弥生前期 | F8～O6 | | 幹線水路 |
| SK42 | 土坑 | IV層下部b-1層上面 | 弥生中期後葉 | H7 | | |
| SD43 | | | | | | SD44の一部につき、抹消 |
| SD44 | 溝 | V上層・下層上面 | 弥生前期 | F7～N6 | | 枝水路 |
| SD45 | 水口 | V上層・下層上面 | 弥生前期 | | | |
| SD46 | 溝 | V上層・下層上面 | 弥生前期 | J7 | | 枝水路 |
| SD47 | | | | | | 畝間溝の一一部につき、抹消 |
| SK48 | 土坑 | IV層上部a-1層下面 | 奈良後期 | O6 | | |
| SD49 | 溝 | IV層下部b-1層上面 | 弥生中期後葉 | F11～L11 | | SX16に接続 |
| SA50 | 槽 | IV層上部a-1層下面 | 古墳後期 | G～H10 | N67° E | |
| SD51 | 溝 | IV層下部b-1層内 | 古墳後期 | J～L9 | N67° E | |
| SD52 | 溝 | IV層上部a-1層下面 | 奈良？ | N13～O12 | N37° E | |
| SZ53 | 落ち込み | IV層上部a-1層上面 | | 西壁 | | |
| SZ54 | | IV層下部b-1層上面 | | 西壁 | | |
| SZ55 | | IV層下部b-2層上面 | | 西壁 | | |
| SD56 | 溝 | IV層下部b-2層下面 | | 北壁 | | |
| SD57 | 溝 | V上層上面 | 弥生前期 | 東壁 | | |
| SZ58 | | V最下層下面 | | 北壁 | | |
| SD59 | 溝 | IIIb層上面 | | 東壁 | | |
| SZ60 | | IV層上部a-1層下面 | | 東壁 | | |

第6表 遺構一覧表(1)

とから、水田ではなく畠状の土地利用がなされている可能性がある旨のコメントを得た。

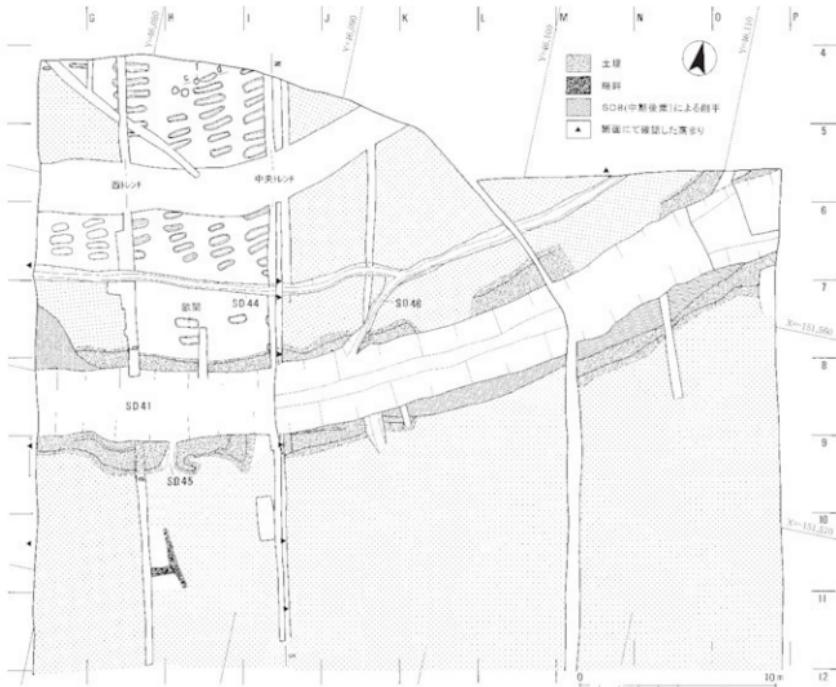
しかし、2面の存在を把握するのに時間がかかり、前期上層遺構面を覆うIV層下部b-1層をある程度取り除いた段階では水田状を呈するという認識しかできなかった。その上、F4グリッドでは耕作溝（いわゆる中世素掘溝に近い形状だった）を検出したことで水田と耕作溝の関係の理解に苦しんだ。その後、田崎博之氏による水田遺構に関する調査指導を受け再度検出したところ、水田面と認識していた層の直下にも遺構面のあることが明らかとなった。

検出 弥生時代前期下層遺構面は、弥生時代前期上層の耕作土層（V上層a-2層）を除去すると、部分的に自然堆積層（V上層b層）が存在していたことから、上層遺構面と分層することができた。さてここで、SD41北部の畠を中心に具体的に検出時の

状況を記しておく。

SD41の北部では、後述の上層耕作土層を除去していくと畠立て状の遺構が検出された。最も分層しやすかったG4グリッドの西トレンチ断面では、さらさらとした均質の砂が凹み部である耕作溝の埋土としてみられ、下層耕作土層はもやもやとしており搅拌されているような印象だった。検出が容易であったのはこの部分だけで、その他の地点では埋土の土色を一見するだけでは判別できないために、近接しての土層観察と自身での検出を繰り返すことになった。土層観察はこの遺構面での地形の傾斜方向に近く、SD41とSD44と直交方向に相当する点から、中央トレンチと西トレンチを中心に行った。また、中央トレンチでは断面図（第7図）を作成し、土壤の試料採取も行った。

14～6グリッドでの耕作溝埋土の土質は粘質シ



第10図 弥生時代前期下層遺構面平面図（1:250）

ルトであり、上層耕作土層も同粒度であった。さらには下層耕作土層もシルト質粘土であった。粒度が近似することから、検出時には道具から伝わってくる感覺の違いが威力を發揮した。断面での分層には竹串を用い、平面検出には草けずり（ガリ）を用いた。掘削時には、上層耕作土層が手鍬（手バチ）で叩くと土が道具にベタッとして貼り付きとれないのに対し、耕作溝の埋土はボロッとはぐれた。耕作溝の底付近では、やや粗い砂が貼り付いている所があつた。これは断面では確認できず、1回の検出の際の削りでなくなってしまった。また、南側にばかり貼り付いていた。

最もSD41に隣接するG～H7グリッドでの土質はシルト質細砂であり、上層耕作土との分層が困難であった。

これらのことから、耕作溝の埋土は各地点で異なっており、SD41から遠ざかるほど細かくなっていることがわかる。つまり、下層耕作土層は全体に粘性の強いシルト質粘土～粘土であったことから、仮にそれが時間を経て崩落し、耕作溝を埋めた場合、全面に下層耕作土層に近い土質の土がみられる可能性が高い。また、土質が異なっていたとしても全面的に共通する土がみられるはずである。しかし、実際には全く異なる状況であり、SD41から遠ざかるほど細かくなっている特徴はSD41を氾濫原とする洪水砂が堆積した際の同時異相の特徴を示す層序と言える。しかし、耕作溝埋土はラミナが見えず、純粹な洪水堆積物とは言い難い。この点は、上層耕作土層は層厚が極めて薄く近接するために生痕等の擾乱も十分に考えられる。また、底部付近に薄く砂の貼り付いていた部分が存在していたことからは、直立状の起伏の状態での崩落した自然堆積があったともいえる。この層序は断面では確認することができず、基本層序にもいれることができていないが、仮に番号を付けるとすれば、底付近の部分のみをV下層に含めておきたい。これらのこと考慮して、耕作溝埋土は自然堆積層と判断した。

したがって、耕作溝埋土より上位の層位ではじめてSD41を氾濫原とする層序が見いだせることになる。

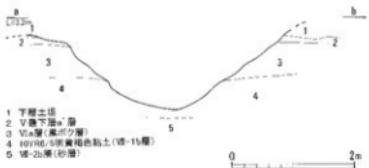
土質と地形 下層耕作土層（V下層a層）は、漸移

的に二次堆積を受けており一部搅拌も行われている層で有機物を多く含む黒～黒褐色粘土層であるV最下層a'層を母層とする。

地形は、北西方向から南東方向にゆるやかに傾斜しているが、VIa層上面でみられた同方向の傾斜の地形と比較すると、より緩やかになっている。

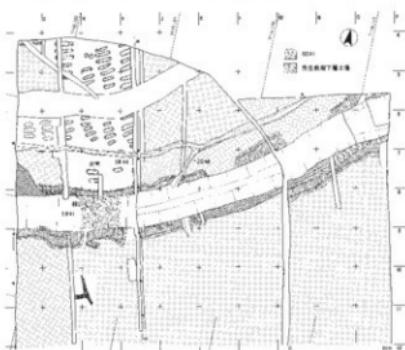
大溝SD41（第10・11図・図版4・7） 調査区の中央部に位置し、幅約4.0m深さ約1.3mで円弧状に巡る。断面形態は基本的にV字形であるが、東トレーンチでは底部が平坦であった。これは該当部分の溝底部壁面の土質が非常に硬化した土質であったことと関係している可能性が挙げられる。また、溝底の標高は土10cm以内に収まっていた。

I8グリッド付近以東の南壁は、肩部から30cm程度垂直に近い角度に整えられていた。平面的に幅が整えられており、また側面の傾斜が急で、さらに後述の土堤の土壤の特徴から、SD41は人為的に掘削されたと考えられる。



第11図 大溝SD41西トレーンチ断面図（1:80）

SD41土堤 SD41の両肩部分には、黄褐色粘土および礫が積み上げられていた。平面的にはおおむね



第12図 溝生時代前期下層遺構面接合土器
出土地点図（1:500）

Kグリッド以西で黄褐色粘土、Lグリッド以東で礫がみられた。黄褐色粘土はSD41下部付近の壁面でしか確認することのできないものであり、礫も下層確認トレンチ0～5m付近でしか確認できないものであることから、VII-1 b層の黄褐色粘土あるいはVII-3 b層の礫が積み上げられていると考えられる。したがって、SD41は人為的に掘削された際に供出した土が土堤上に積み上げられたと考えられる。

なお、G～I 8グリッドの北方部分では上方に黄褐色粘土の量が多く含まれており、下方ほど黒かつた。また、この黒色の土はふかふかとしており、V最下層a'層とは区別することができた。この土色の変化は黒色から黄褐色へと大溝を掘削した場合の深度と対応しており、この点からも掘削した際に出た廃土を盛り上げていることがわかる。

土堤内に含まれていた遺物は少量であるが、馬見塚式の突帯文系土器と金剛坂遺跡SK57と並行する時期の遠賀川系土器が出土した。ここから出土の突帯文系土器2は、SD41埋土に含まれていた破片と接合した。この土器はローリングを受けておらず、遠方から流れているとは考えにくい。

溝SD44（図版4）・溝SD46 幅約0.6m深さ約0.4mのしっかりした箱掘状の断面形態に掘削されており、溝底の標高は±8cm以内に収まる。SD44の肩部には、SD41土堤と同様にVII-1 b層の黄褐色粘土が積みされていた。いずれも遺構間の切り合いがなく、同時期に機能していたと考えられる。また、SD46はSD41から分岐していた。調査区北壁断面でのSD44-5層はラミナがみられ、流水のあったことが知られる。また、SD44-4層は土堤からの崩落土が混じっていた。中央トレンチでのSD44-3層はラミナの方向が少なくとも2方向あり、何度かの流水があったことがわかる。耕作土や土堤との関係からはV下層の土堤よりは上方に堆積しているもののV上層の大畔との関係は明確でなく、帰属層序がはっきりしない。

畠（巻頭1・図版2・3・8）〈土質〉下層耕作土層は粘性の強いシルト質粘土でもやもやとしており、VII-1 b層の黄褐色粘土粒子が混じる。黄褐色粘土粒子は細かく搅拌されており、SD41に近いほど量が多かった。現地での土壌の観察では、炭化物や

焼土などは確認できなかったが、土壌を採取しフローテーション法⁽⁷⁾により微細遺物の抽出（図版20）を試みたところ、炭化物は含まれていた。しかし、量的には特筆するほどの量ではなく焼土等もみられなかった。

〈用語〉畠立て状の遺構は上位層により一部削平を受けているが、自然堆積層が凹部を薄く埋積しており、遺構の検出を可能にした。具体的には、耕作土の上面において溝が平行して並ぶ形状で検出された。このように、耕作に関連する溝が平行して検出された場合には、畠の畠間そのものだけでなく耕作痕と呼ばれる「天地返し」⁽⁸⁾に関連する痕跡などの可能性も考えられるが、当遺跡においては、畠立て状遺構の凸部（V下層a層）が耕作土層であり、凹部（V上層b-1層）が自然堆積層であることから、耕作土層の上面で検出している点で、上層遺構間に伴う天地返しに関連する耕作痕の可能性は否定される。

しかし佐藤甲二氏は、「畠間は平坦なものであつて、耕作痕のように溝状にならず、畠は水田畦畔同様、盛り上がりとして検出される。」⁽⁹⁾とされている。畠間が窪む形態は例外的なようであるが、耕作土層上面で検出された点と耕作土層の上部が削平を受けている点、さらには検出の際に削りすぎている可能性もあるという点を重視して、ここでは耕作溝を畠の畠間として扱うこととする。また、耕作溝間は畠の畠とみなされ、上部が削平されている点から畠の下半部として扱うこととする。

さてここで、畠の形態を記録する方法を整理することにする。畠そのものは人間が耕した痕跡であり、畠立ての形態をとる畠において、畠は人間が土を盛り上げた痕跡である。また、畠と畠の間の畠間も畠を作る際に掘られた痕跡である。すなわち全てが人為痕跡であり、記録する対象物に相違ない。土質や形態のみから畠として特定することは極めて困難であるが、畠状遺構の場合に推定される過去の人間の最終目的として食料生産をあげることができる。畠を食料生産のための遺構と仮定した場合には、作物の植えられた位置（畠床）や人為的に作物をつくるために土を耕すという点から耕作土層の形態を記録するべきと考えられ、当遺跡の場合はそれが畠の高

まり部分に相当する。しかし、ここでは上部が削平を受けており、明確に範囲を計測することが困難なために畝間で記述をすめることにする。

（形態）検出面での畝間は、長さ約0.8～1.5m、幅25～40cm、深さは残存状況のよい地点で約10cmである。断面の形態は、角張らずにゆるやかに産む。

平面的には、畝間が数本で単位をなし、SD 41・S D 44と平行に近い方向で並ぶ。畝間の長さは短く、畝間の途切れる部分は上層遺構面で検出した畦畔の位置からは外れている。上層遺構面で検出した畦畔は上層遺構面の最終段階の姿であり、上層遺構面で耕作が何度も繰り返された場合には、別の位置にその間の畦畔が存在していた可能性もあることから、上層遺構面での耕作により畝間が乱されていることを想定した。しかし、そもそも畝間の途切れる部分が残っており、畝間の方がそれよりも低い高さに位置していることから、低い方が乱されるとは考えにくい。

なお、検出面での畝の下半部幅は25～55cmであり、畝間とほぼ同規模である。

土堤の下には畝立ては認められないことから、土堤と畝立てが共存していることは明らかであり、土堤が畠の区画をなしていたといふことができる。

畝立ての単位はSD 44の南北で異なり、溝が区画としても機能していたといえる。また、SD 44の北部では調査区の境界で単位が異なることから、ここにも区画が存在した可能性がある。

〈問題点〉この遺構面では全ての遺構を検出することができなかつた。調査担当自身の経験不足やタイムリミットは否めないが、それだけではない要因の可能性もあることから、畠に関する各地点での検出状況を記しておく。

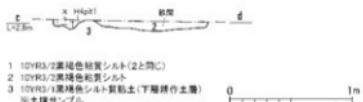
F 4～5グリッドでは上層遺構面を検出した後、それを除去し下層検出を試みた。西壁断面での対応をみるとることができず、西トレンチの断面でも耕作溝を検出できなかつた。平面だけで検出作業を行つたのが分からなかつた。

F～G 6グリッドでは、上層耕作土層を除去後、下層遺構面を捉えるのに時間がかかつた。それは、結果的に西トレンチ断面部分がちょうど畝間のない部分に相当していたことで断面で畝間を検出できな

かったことと西壁部分での対応を平面検出時に確認できなかつたことによる。この部分は、時間的に掘削できなかつたために、検出ラインのみを記録している。

また、断面検出は畝間と直交する方向では行いやすかったが、同方向に近い北壁の0～18m付近や28～40m付近では困難だった。これらの地点では上層耕作土層下面としている起伏が畝間部分に相当していることも考えられる。また、18～28m付近では上層耕作土層がほとんどないような分層をしているが、これについては本来は存在しているにもかかわらず、時間的に分層を修正できなかつたためである。

円形土坑（第10・13図・図版2） H 4グリッドにて、3カ所の土坑を確認した。径約30～40cm深さ約5cmの規模で、半球状に掘り込んでおり、畝間と同様の自然堆積層で埋積されていた。土壌の乾燥中に下層耕作土層（V下層a層）よりも土坑埋土の方がザザラとしていて乾燥が早く、その点は上層耕作土層（V上層a-2層）に近い印象を受けた。

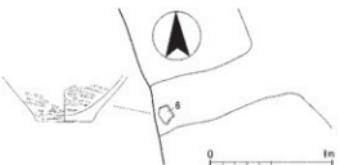


第13図 円形土坑 H 4 pit 1断面図（1:40）

水田（第14図・図版10）（検出）SD 41南部では、弥生時代前期の上層耕作土層であるV上層a-2層を除去した際に下層畦畔に沿って上層耕作土と下層耕作土の間に砂が見られたので、水田畦畔を検出することができた。この砂は検出のための1回の削りでなくなってしまうほどの厚さしかなかつた。

〈土質〉水田の耕作土（V下層a-3層）はV最下層a'層を母層とする土壤化層であり、黒褐色シルト質粘土に細かいⅦ-1 b層の黄褐色粘土粒子が少量混じる。南へ行くほどに、粘土粒子の量は少なくなつた。なお、耕作土層は土堤（V下層a-2層）よりも溝の内側に少しのびていた。

（形態）平面的には、G～H 10グリッド付近の一部でしか検出することができなかつた。畦畔は幅40cm高さ1cmの形状のみを確認した。後述の埋納土器の出土状況から、上層の耕作により畦畔と土器の上部



第14図 畦畔内土器出土状況図（1:40）

が削平されたとみられる。

断面では、調査区西壁および中央トレンチで畦畔の存在を確認している。特にI 11グリッドにおいては、本来の畦畔が下部層序においても転写されて残存する疑似畦畔B⁽¹⁰⁾（以下省略）がV最下層a'層上面に存在していたので、これを目印に断面を精査して畦畔を確認した。また、Gグリッドでの西トレンチにおいても平面検出した畦より南にも畦畔が存在することを確認したが、これは記録をとることができなかつた。この2カ所の畦畔の存在によって、SD 41南部において長軸方向の畦畔が2列以上存在していたことがわかる。

なお、調査期間の都合で上層造構面の水田畦畔だけを残して上層耕作土層を除去し、下層畦畔を検出した。写真記録では同時に上下層の畦畔がみえるために誤解を招く表現になっているが、本来は同時に検出されたものでない。

〈水口〉 SD 41南部において、土堤の途切れる部分を3カ所確認した。

〈埋納土器〉 畦から壺底部（6）が出土した。この土器の割れ口は古く、上層耕作土の及ぶ高さで水平に欠損していることから、上層の耕作により畦畔と土器の上部が削平されたとみられる。なお、この土器は正立に近い状態で欠損しており、畦畔に埋納されていたことが考えられる。

時期 当造構面においては、6以外の出土遺物は細片のみで量的にも稀少である。しかし遺物の時期は、突帯文系土器が馬見塚式、遠賀川系土器が金剛坂遺跡SK 57と並行する時期に限定される。

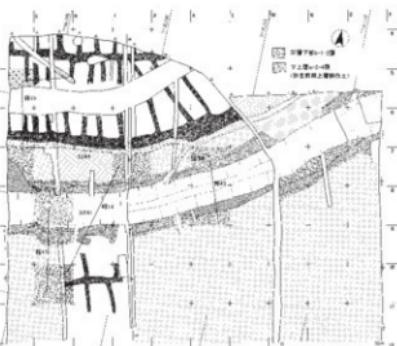
（2）弥生時代前期上層造構面（第16図）

層序 弥生時代前期上層造構面（V上層a-2層上面）は、SD 41最上層であるIV層下部b-1層およびIV層下部b-2層で全体が覆われていた。IV層下部b-

1層は粗砂まじり細砂で、SD 41から南北へ粒度が少し細かくなる。また、堆積土量もSD 41付近が最も厚く、遠ざかるほど薄い。遺物はほとんど含まれておらず稀少であるが、馬見塚式の突帯文系土器と金剛坂SK 57出土土器と並行する時期の遠賀川系土器が出土している。

また部分的には、IV層下部b-1層と上層耕作土層との間に薄くIV層下部b-2層が見られたが、同層下において検出された水田とIV層下部b-1層下において検出された水田は一連のものであり、特に変化なく検出されたことから、この二層は極めて近い時期の洪水砂層と考えられる。IV層下部b-2層もSD 41から流出しており、東壁では北部へ、中央トレンチでは南部へと流出していることを確認している。粒度は繊まじり粗砂～粘質シルトへと変化しており、IV層下部b-1層と比較すると変化が激しい。また、SD 41南部の中央トレンチ23m付近では、北から南へとV上層a-2層を巻き上げていた。

この層は粒度の変化が激しいために層相の把握が遅れ、出土遺物も一部を除くとIV層下部b-1層とまとめて上げざるを得なかった。調査時の印象では、遺物を包含するのは高さに下方であり、上層耕作土層であるV上層a-2層から数cm浮いた状態しか出土しなかった。遺物は稀少であるが、遺物番号41はSD 41とIV層下部b-1層・IV層下部b-2層から出土した土器が接合した。また、遺物番号14・43は



第15図 弥生時代前期上層造構面接合土器
出土地点図（1:500）

IV層下部b-1層・IV層下部b-2層でSD41を隔てて南北で出土したもののが接合した。時期的には、馬見塚式の突帯文系土器と金剛坂SK57出土土器と並行する時期の遠賀川系土器が出土している。

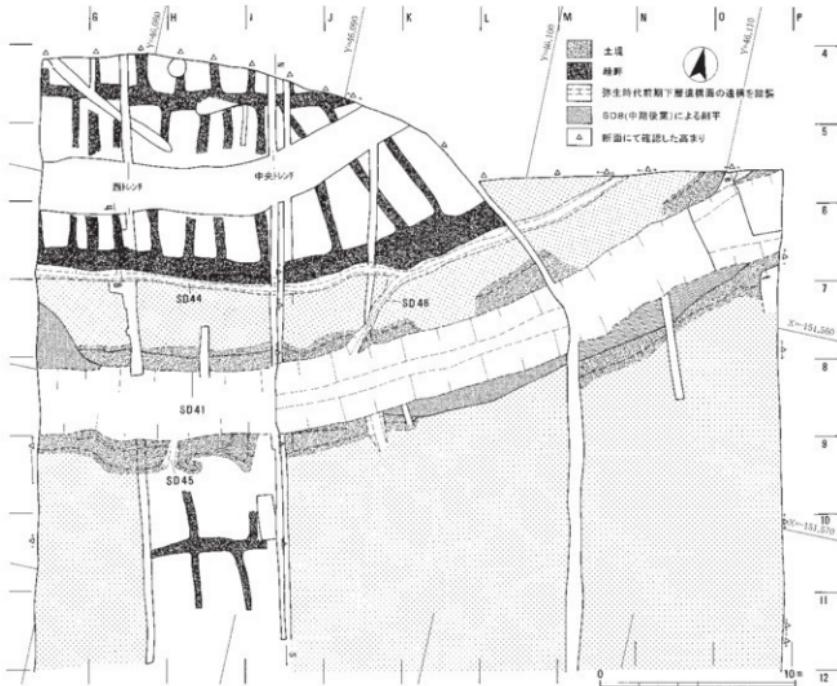
V上層a-1層は、調査区北壁の一部で上層畦畔（V上層a-2-1）と上層耕作土層（V上層a-2-4層）を覆うような形で確認した。この層は平面検出で確認できていないが、「上層耕作土にシルト質細砂ブロックがまじる」と記録しており、V上層a-2層（上層畦畔と上層耕作土層）が崩れる過程を示す層序と考えられる。また、V上層a-2層上面がIV層下部b-1層およびIV層下部b-2層の洪水砂に覆われるまでの時間を示していると考えられる。

検出 遺構面を把握した根拠を明確にするために、検出した際の検出過程を詳細に記しておく。

まず、上層遺構面の検出中には中央トレーニング西側

のG～I 6グリッドにおいて、まるで縦横無尽の遺構の切り合いのようなものがみられた。このうちで最も新しい遺構が水田畦畔であり、それに切られる形で、畠の耕作溝が見えていると判断していた（上層遺構面を削りすぎて疑似畦畔が残っている可能性を想定していた）。ため、まずは水田の検出を行うことにした。

次に検出した北部のG～I・4～5グリッドでは、上層遺構面を再び検出したところ、遺構の可能性のあるものは水田畦畔しか見られなかった。検出時に南から北へ削るとスムーズに削れ、ガリの刃が引っ掛かるところから、畦畔を検出することができた。逆に北から南へ削った場合には、土が逆立って削れなかった。何度も繰り返すと、全体に粘性が強くなってしまった。このグリッドでは、畦畔が北壁断面でも確認されたことから、調査の検出面は畦の下方でし



第16図 弥生時代前期上層遺構面平面図（1:250）

か検出できていないこともわかった。

このようにして上層遺構面の平面検出を行った。その後、G 4 グリッドの西トレーニング面では、下層の耕作溝にさらさらの砂が入っており見やすいことから、これを目印に全体を下げていくが、上層耕作土層は想像していた以上に粘性が強く、まるで貼り付いているようだった。上層耕作土層が残っているようなので、断面を再精査しながら平面を削って高さを確認しながら下層の検出を行う。この作業によって、上層耕作土層がわずか数cmながら残っていたことが分かった。

なお、北西端の一部では調査指導を受ける以前に耕作溝を検出していた。耕作溝は埋土がさらさらとした均質の砂であったことからこの部分だけは容易に検出できた。そこで、もう一度同じ平面レベルで再検出すると、畦畔が検出された。水田 1（第17図）の西畦畔と水田 1 と水田 2 の間の畦畔がそれであり、これらは断面で確認したV上層 a-2 層上面の畦畔よりも下方に位置していた。また断面では、水田 1 と水田 2 の間の畦畔の下部に、本来の畦畔が下部層序においても転写されて残存する疑似畦畔 B を確認できた。それと平面で検出した畦畔の高さが対応したことから、水田 1 と 2 の間での検出された畦畔は疑似畦畔 B を検出してしまったと考えられる。

G ~ I 6 グリッドでは、上層水田畦畔を除去後に水田面を再検出したところ、耕作溝状のざらざらとした埋土はすぐになくなってしまった。断面で確認していた耕作溝底の高さと異なることから、再度断面を精査したところ耕作溝の入るラインが上層耕作土層よりも低いことが分かった。また、断面をみながら平面検出をすると対応した。これにより、この地区でも北のG ~ I 4 ~ 5 グリッドと同様に上層耕作土層が数cm残っており、その下に耕作溝があることが分かった。また、上層耕作土層上面で縦横無尽の切り合いと錯覚したのは、断面との対応から土圧により凹凸がついていたものを誤認したと考えられる。

S D 41 南部の再検出時には、断面であらかじめ畦畔を検出していたので、平面で対応する畦畔を目指して検出した。北から南へガリで削っていくと畦畔で止まったが、すでに H ~ I 9 グリッドでは削りすぎた部分があり、そのために土堤から畦畔までの間

をつなげることができなかつた。

土質と地形 水田耕作土層（V上層 a-2 層）の土質は S D 41 に近接する地点でシルト質細砂で、遠ざかるにつれて粘質シルトへと粒度が細くなることから、その供給源が S D 41 であったことが知られる。水田耕作土層（V上層 a-2 層）の土質と V 上層 b 層の土質を比較すると、各地点ごとの粒度は同様であり、水田耕作土層（V上層 a-2 層）は V 上層 b 層を母層とする土壤化層と考えられる。また、S D 41 に近いほど堆積量が厚いために、S D 41 の北部の地形は南西方向から北東方向へのゆるやかな傾斜に変化し、弥生前期下層遺構面（V下層 a 層）上面より平坦な地形となる。

大溝 S D 41 S D 41 最上層に含まれている遺物は極めて少ないが、明確な時期差は認められないことから、同型式内に収まる時期に埋没すると考えられる。

S D 41 土堤 中央トレーニングの S D 41 北部では、下層遺構面に伴う土堤（V下層 a-2 層）とその崩落土（V上層 b-2 層）を覆うように土が盛り上げられていた。南部でも下層遺構面に伴う土堤（V下層 a-2 層）を覆う形で土が盛られていた。上層遺構面に伴う土堤（V上層 a-2-3 層）は砂質度が高い。下層遺構面の土堤よりも規模が大きくなっている。再度積み上げられている。

溝 S D 44 (国版4)・溝 S D 46 中央トレーニング断面および調査区北壁では、S D 44 の両肩に畦畔が盛り上げられていた。粒度は上層耕作土（V上層 a-2-4 層）と同様に、下層耕作土（V下層 a-3 層）および下層土堤（V下層 a-1 層）と比べ粗くなっている。調査区北部の S D 44-3 层は、下層土堤（V下層 a-2 層）からの崩落土の混じっていた S D 44-4 層の堆積後に再掘削されている可能性があり、埋土にはラミナがみられた。S D 44-2 層は、畦畔（V上層 a-2-2 層）にかかるように均質な褐色シルト層が堆積していた。埋土に均質なシルトがみられることから、滲水状態にあったと考えられる。また、畦畔にかかっていることから V 上層 a-2 層よりは後出といえる。つまり、この段階には下層遺構面において掘削された S D 44 はほとんど埋没している。さらに、IV 層下部 b-2 層が堆積するまでに S D 44-1 層

が堆積している。SD 44-1 層は粗砂～細砂と粒度に差が大きく、明瞭なラミナがみられた。水流に勢いがあるようと考えられる。なお、中央トレーニチにはみられなかった。

水田 (第17・18図・巻頭1・図版9・10)

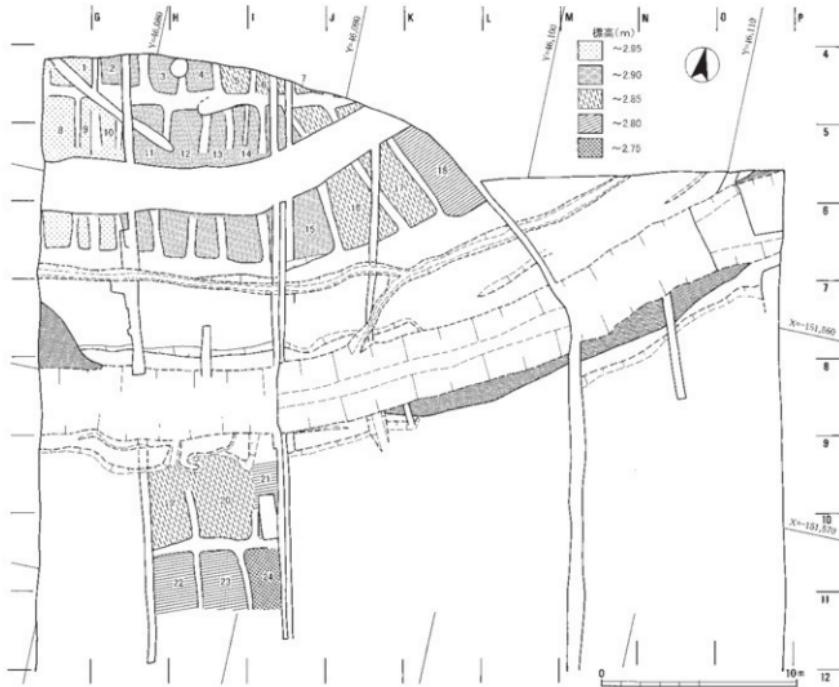
(土質) 基本的に水田耕作土層 (V上層 a-2-4層) の土質は SD 41 に近接する地点でシルト質細砂で、遠ざかるにつれて粘質シルトへと粒度が細かくなる。ただし、基本層序の部分でも取り上げているが、調査区東壁の SD 41 南部での V 上層 a' 層の土質は粘性が強く、下層耕作土層 (V 下層 a 層) に近い印象を受けた。

(畦畔) G 6 グリッドでは畦畔の断面を断ち割ってみたが、SD 44 に平行する長軸方向の畦畔と短軸方向の畦畔を分層することができなかった。ちょうど、畦畔の部分には石があった。当造構面での畦畔は、

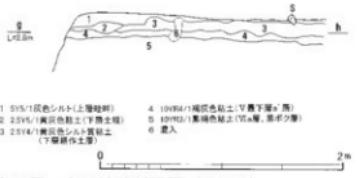
| 番号 | 面積(m ²) | 標高(m) | 長辺×短辺(m) |
|----|---------------------|--------|-------------|
| 1 | | 断面2.94 | ×2.05 |
| 2 | | 2.89 | ×1.9 |
| 3 | | 2.88 | ×1.6 |
| 4 | | 2.86 | ×1.4 |
| 5 | | 2.85 | ×1.45 |
| 6 | | 2.84 | ×(1.4) |
| 7 | | 2.85 | ×1.4 |
| 8 | 11.62 | 平面2.91 | 7.75×1.5 |
| 9 | 4.26 | 平面2.91 | 7.75×0.55 |
| 10 | 6.16 | 平面2.91 | 7.7×0.8 |
| 11 | 13.65 | 平面2.9 | 7.8×1.5×2.0 |
| 12 | 11.55 | 平面2.9 | 7.7×1.5 |
| 13 | | 平面2.88 | ×1.3 |
| 14 | 11.75 | 平面2.86 | 8.1×1.3×1.6 |
| 15 | 19.6 | 2.88 | 8.0×1.9×3.0 |
| 16 | 15.58 | 平面2.84 | 7.6×1.6×2.5 |
| 17 | 10.65 | 平面2.81 | 7.1×1.5 |
| 18 | | 2.78 | |
| 19 | | 平面2.84 | (4.0)× |
| 20 | (11.83) | 平面2.82 | (4.3)×2.75 |
| 21 | | 平面2.8 | |
| 22 | | 平面2.8 | |
| 23 | | 平面2.8 | ×2.2 |
| 24 | | 2.73 | |

(数字) は推定値 平均面積14.81m²

第7表 弥生時代前期上層水田一覧表



第17図 弥生時代前期上層水田図 (1:250)



第18図 水田畦畔断面図（1:40）

基本的に耕作土を盛り上げて作られており、耕作土層上面と畦畔下面に分層の線を入れることでできることが多かった。一部、分層できていないのは不明瞭であったためと考えられる。ただし、調査区北壁32m付近での畦畔（V上層a-2・1層）は上層耕作土層（V上層a-2・4層）に覆われており、この畦畔だけは他の地点と異なっていた。

（形態） SD41の北部では、それと平行方向に這るSD44ならびに幅約1mの長軸方向の大畦畔により大きく分けられており、その間は幅約40cmの短軸方向の畦畔で区画されている。

平面的には疑似畦畔Bを検出した水田1・2を合わせて復原することができた。水田9と10の間の畦畔は、他の畦畔と比べて耕作土内にめり込んでいるようで検出にくかった。また、水田9・10は面積が他に比べ狭く半分程度しかないことから、他の畦畔より古い時期の畦畔を検出してしまったとも考えられる。

平面検出できた部分の中でも、F～G・4～5グリッドで耕作土層上面ではなく下層の疑似畦畔Bを検出したり、断面にて確認できる耕作土層の下方で検出しており、遺構の本来の高さは断面でしか確認できなかった。

SD41の南部も、SD41と同方向の畦畔の規模が大きいことから、北部と同様に長軸方向の畦畔により区画された間に短軸方向の畦畔で細分している可能性がある。

平面的には、短軸方向の畦畔は長軸方向の畦畔から南へ3mほどの所で検出できなくなってしまった。中央トレーンチ断面でも土層が不安定になって分層出来なくなったことから、後世に擾乱を受けたために検出できなかったと考えられる。また、奈良時代の井戸SE26を断ち割った際にも同様であった。この状況は、おおむねI11・12グリッド付近で確認したことにな

るが、この付近だけの部分的な状況であるのか調査区南部にかけて同様の状態が続いているのかは確認できていない。

この遺構面では、調査区壁面にて畦畔状の高まりを数カ所で確認している。さらに、O11グリッドにおいては、両肩部分に畦畔を伴う溝SD57を検出した。溝は幅約0.7m深さ10cmの規模であり、埋土にはラミナが認められた。これらのことから、調査区内には水田が広がっていた可能性が高いと考えられる。

耕作土内から出土した突帯文系土器14・15は、IV層下部b-1層・IV層下部b-2層出土の破片と接合した（第15図）。

（水口） SD41南部においては、土堤の途切れる部分を3カ所確認している。付け替えの痕跡のないところから、下層遺構面の水口を踏襲している可能性も考えられるが、下層遺構面と分層して検出することができなかつたことから詳細はわからなかった。なお、各水田畦畔の水口も確認できなかつた。

（時期） 上層遺構面の出土遺物は少量の細片しか出土していないが、時期的には下層遺構面と同型式の遺物のみが認められ、突帯文系土器が馬見塚式、速賀川系土器が金剛坂遺跡SK57と並行する時期に限定される。

（問題点） 地層の堆積状況が類似していたために、SD41とSD44の間では遺構の平面検出ができなかつた。G～H7グリッドでは再検出すると、IV層下部b-1層とIV層下部b-2層の粒度が上層耕作土層（V上層a-2層）と類似していたために層相を把握できずに下げすぎていた。中央トレーンチ断面ではSD41の土堤とSD44肩部の畦畔が確認できている。

F～G7グリッドでも平面的には同様である。西壁断面図の原図は、SD44南部と北部での層序が食い違っており、南部は平面レベルとも対応していないかった。平面レベルとの対応からすると、1層ずつ下げて考えた方が対応しやすく、北部での層序とも一致する。このように、1層繰り下げて考えた場合には、SD44上層部の取り扱いが問題となるが、SD44掘削時に認識していた上層は深さがわずか5cm程度で細かい粒度の漸移的な堆積層であったことからすれば、SD44下層として分層している中の上部

がそれに対応していると考えてもおかしくない。これらの点から問題の層序は1層ずつ下げた方が理解しやすいために、修正して報告することにした。

F 4・F 5・G 4・K 13地点では、平面検出以前に試料採取を実施している。その時点ではV上層～VI a層の4層を2層に分層し、その上下あるいは上方のみを採取していた。

水田1部分では断面図作成時に上層耕作土層と下層耕作土層の分層ができず、北壁断面図ではV下層a-3層という表現になっている。調査の最終段階まで分層ができなかった点ではV上層b層の堆積のなかった可能性も考えられるが、平面検出時には耕作溝にさらさらとした均質の埋土が入っている点を確認していることから、下層の耕作土と上層の耕作土の間に自然堆積のあったことがわかる。また、疑似畦畔Bによる検出は調査ミスで検出レベルを下げすぎたために生じたことであり、本来の上層耕作土層は断面での高さから残存していたと判断できる。したがって、F 4地点のV下層a-3層⁽¹⁾は上層耕作土層の可能性が高いので、断面図ではグラデーションで表現した。ただ、この地点での層厚は極めて薄いことから、V上層b層の堆積が少ないと判断される。

F 5地点は、試料採取時の記録により各層の上方で採取していることや平面検出時の高さの対応から試料採取した土壤はV上層a-2-4層とV最下層a'層に相当する可能性が高い。

G 4地点は、試料採取時の記録により各層の上方で採取していることからV上層a-2-4層とV最下層a'層に相当する可能性が高い。

調査区南部のK 13地点は、調査区中央部から連続して層序を把握できず、試料採取地点での検証を行えなかった。

弥生時代前期上層遺構面として、V上層a-2層上面を検出したが、V上層a-1層をわずかばかりではあるが断面で確認しており、これはV上層a-2層（上層畦畔と上層耕作土層）が崩れる過程を示す層序と考えられる。したがって、V上層a-2層上面がIV層下部b-1層およびIV層下部b-2層の洪水砂に

覆われるまでに時間があり、平面検出できたのはV上層の最後の水田プランにすぎない。

(3) 弥生時代前期の遺構等

縄属時期の特定できない遺構等をまとめておく。

S D 41有機物層（第19図・図版7） 調査区東部のN～O 6グリッドの東部トレーンチにおいて、SD 41底部付近で灰色粘土層（粗砂含む）がみられた。この層には有機物が残存していたために、一部を洗浄した。その結果、植物の種子や葉が含まれていることが確認されたため、タッパー（35×30×10cm）1個分を切り取り分析試料として採取した。採取した分析試料からは、花粉分析（寄生虫分析含む）・珪藻分析・種実同定・C¹⁴年代測定を実施した。

また、下層確認トレーンチでSD 41を断ち割った際にも有機物包含層の存在を確認したが、I 8～L 7グリッドと西部トレーンチでは確認できなかった。

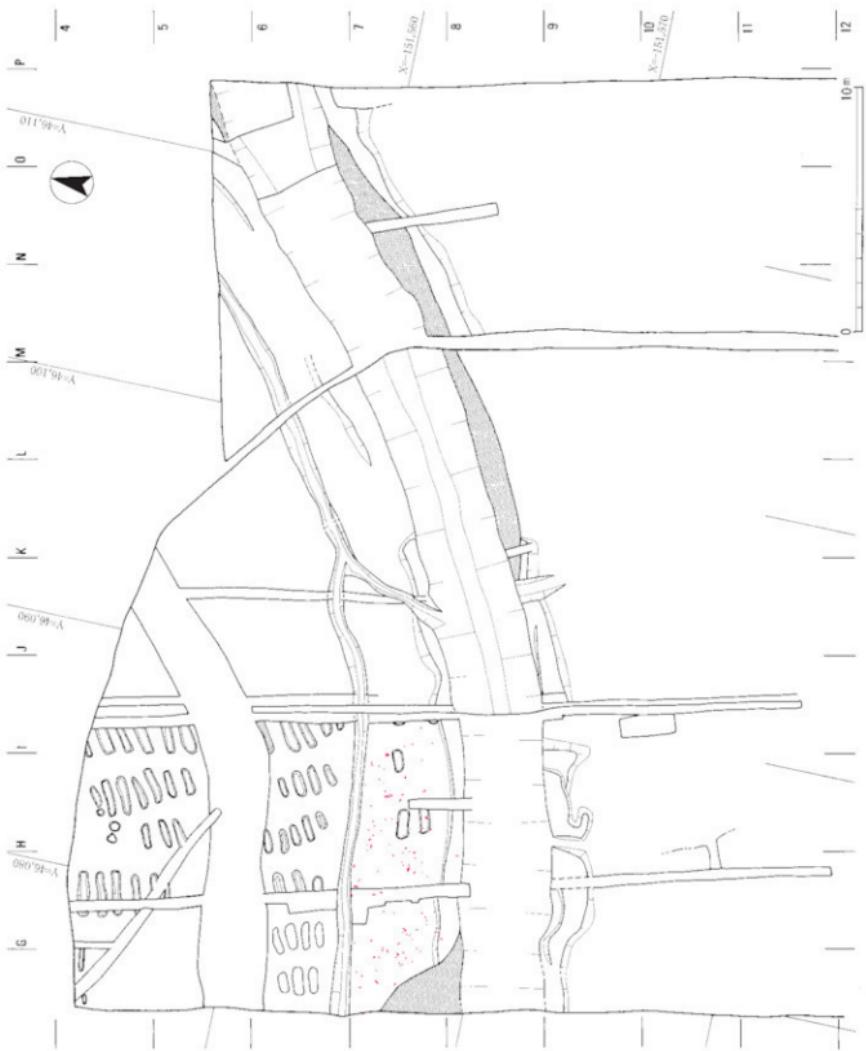


第19図 大溝 S D 41 東トレーンチ断面図 (1:80)

耕起痕等の小穴（第20・21図・図版8・11） 第20・21図は上層遺構面の検出中に図化を行った。図化作業時には、2面の遺構面の存在を把握できていなかったため、結果的に一部では下層遺構面を削りすぎたレベルでの図化となっている。しかし、図化作業直後に遺構面を把握できたため、図化時点の層序を意識し製図は2枚に分けることにした。

下層遺構面において、H 6グリッドでは長方形の小穴が帶状に延びる所（図版8）が存在した。埋土は粗砂を含むことから直上のV上層b-1層や上層耕作土層（V上層a-2層）ではなく、より上方からの埋土と認識した。また、当遺構面での確認となったが、現地調査時には本来は上層遺構面に関連する痕跡と捉え、上層遺構面の畦畔に伴う耕起痕の可能性を考えた。しかし実際には、上層遺構面で検出した畦畔の位置からは外れていた。

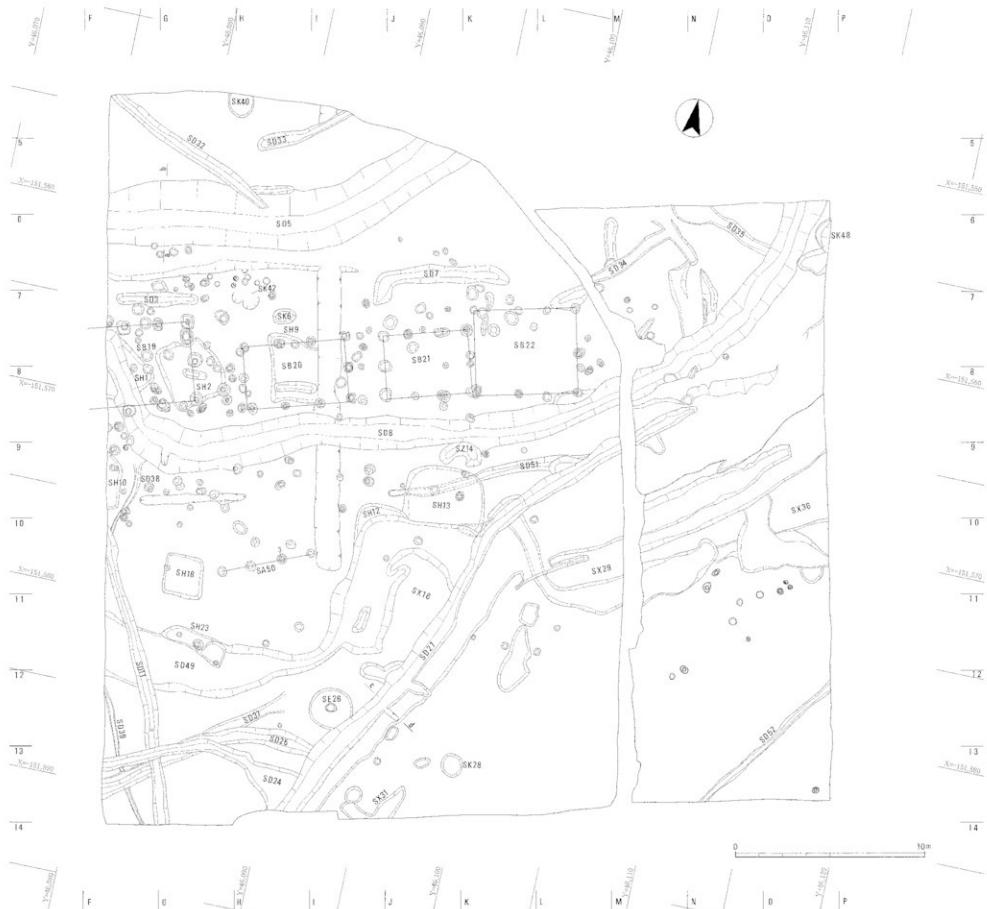
図版11は小穴の断ち割り状況である。平面的には7×13cmの形状である。断面は長軸を断ち割ったところ、写真的左方が1cm、右方が5cmであった。



第20図 弥生時代前期耕起痕等平面図(1) (1 : 200) (●: V上層a - 2層)



第21図 弥生時代前期耕起痕等平面図(2) (1:200) (●はIV下層b-1層、●はIV下層b-2層)



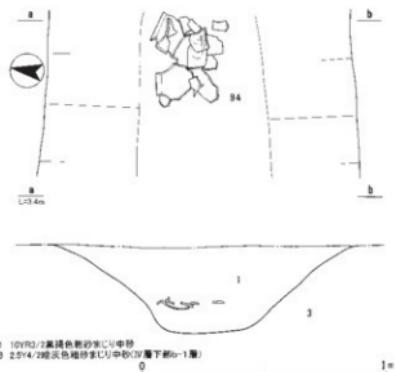
第22図 弥生時代中期後葉～中世前期遺構平面図（1:200）

(4) 弥生時代中期後葉～中世前期の遺構

a 弥生時代中期後葉

溝 S D 8 (第23・24図・図版17) 調査区中央部のIV層下部 b-1 層上面にて検出した。弥生時代前期の溝 S D 41 をほぼ踏襲する形で、平面的には円弧状に巡っている。断面形は逆台形であり、幅約2.1m深さ約0.42mの規模を測る。溝底では、長軸約20cm強・短軸約10cm弱の隅丸の長方形の痕跡が2列に並行して検出された。これらは整然と並んでいることや埋土に差がないことから鋤などによる掘削痕跡と考えられる。掘削痕跡は砂質部分では判然とせず、粘性の強いV上層 a-2 層にくい込む部分でのみ検出できた。

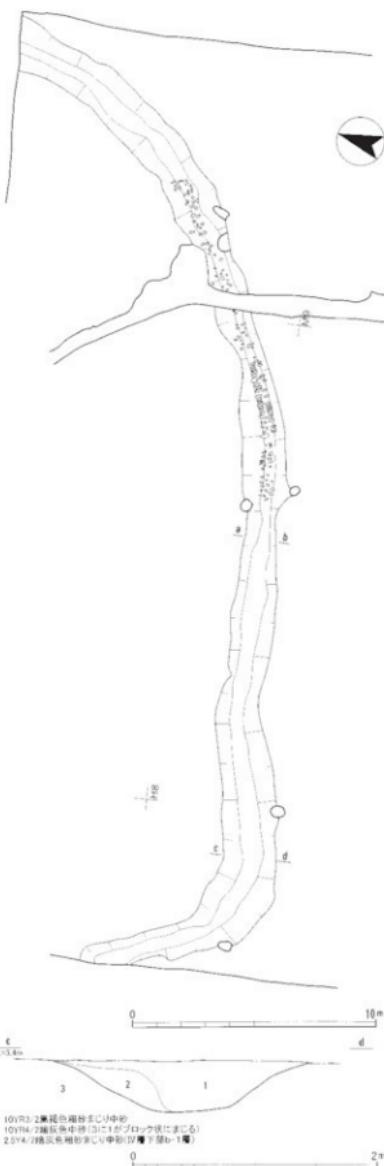
時期的には、溝の下方より弥生時代中期後葉のはば完形の甕94が出土している点から、中期後葉に掘削された溝と判断した。なお、古墳時代前期の高杯95・脚付土器96が上方から出土している点からは、当該期まで浅い溝状を呈していたと考えられる。



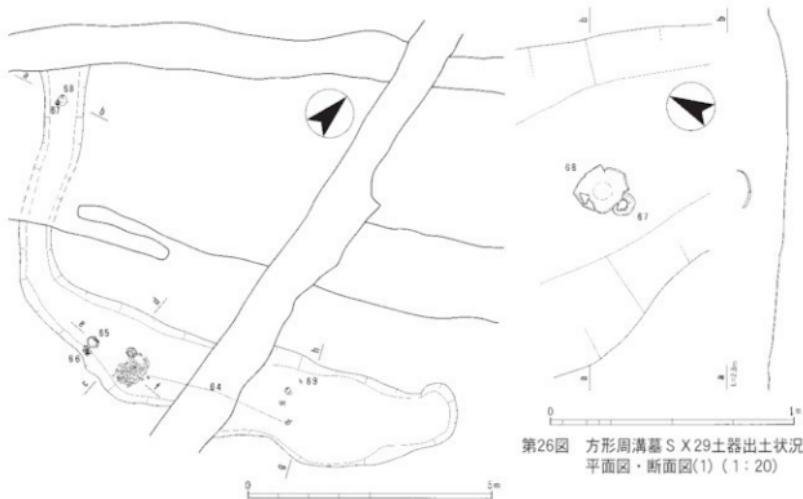
第23図 溝 S D 8 土器出土状況平面図・断面図 (1:20)

方形周溝墓 S X29 (第25～28図・図版17) 調査区東部のK 9～I 10グリッド付近で、IV層下部 b-1 層上面にて検出した。周溝は残存状況の良好な地点できえ、深さ約0.2mしか残存していないかった。埴丘部分は東西8.0m (埴丘規模は、周溝の内側法尻の距離を計測。以下、同様) の周溝である。

遺物は、周溝外側寄りから出土した。いずれも遺構底面からやや浮いており、検出したIV層下部 b-1 層上面で土器が欠損していた。特に64は細片となつ

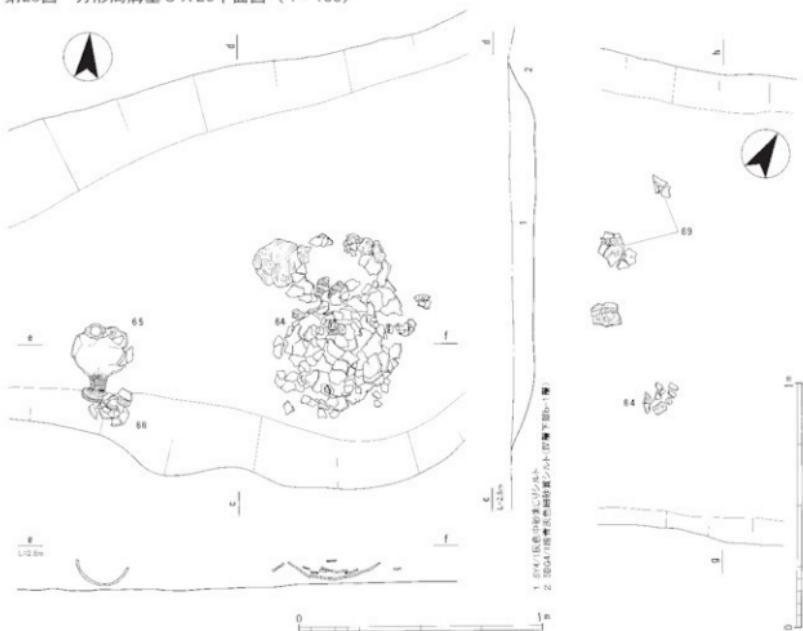


第24図 溝 S D 8 平面図 (1:200)・断面図 (1:40)



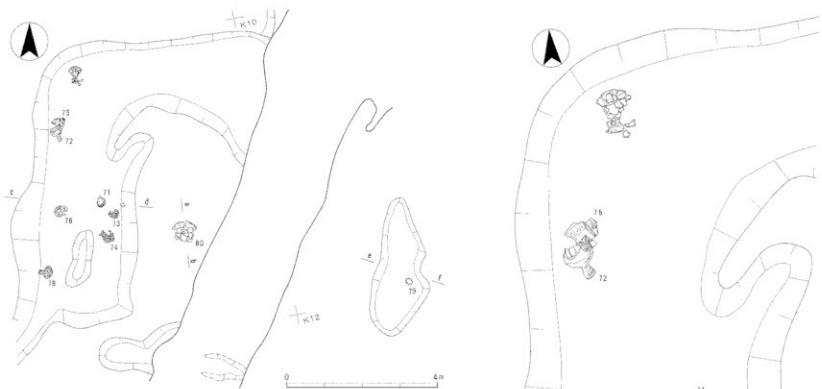
第26図 方形周溝墓 S X 29土器出土状況
平面図・断面図(1) (1: 20)

第25図 方形周溝墓 S X 29平面図 (1: 100)

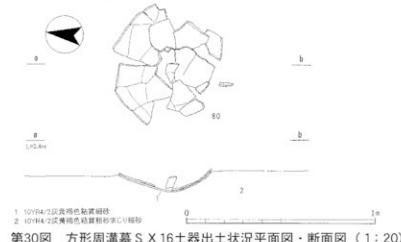


第27図 方形周溝墓 S X 29土器出土状況平面図・断面図(2) (1: 20)

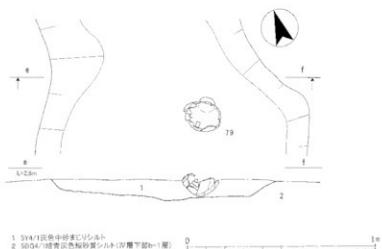
第28図 方形周溝墓 S X 29
土器出土状況平面図 (1: 20)



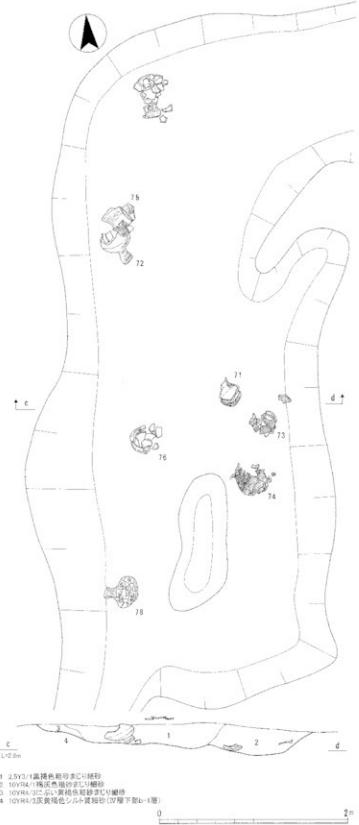
第29図 方形周溝墓 S X 16平面図 (1: 100)



第30図 方形周溝墓 S X 16土器出土状況平面図・断面図 (1: 20)



第31図 方形周溝墓 S X 16土器出土状況平面図・立面図(1) (1: 20)



第32図 方形周溝墓 S X 16土器出土状況平面図・立面図(2) (1: 40)

て出土した。時期的には、中期後葉の遺物が出土した。
方形周溝墓 S X16 (第29～32図・図版16) 調査区中央部の I 10～K 12グリッド付近で、IV層下部 b-1 層上面にて検出した。埴丘部分は東西7.1m、南北6.5mの周溝である。埴丘を東西に分割する後世の S D27 を境に東辺と南辺は削平が著しい。

埴丘の中心から西に偏った地点では、大形壺80が出土した。80は体部下のみが正立の状態で検出され、上半部は削平を受けていた。掘方は検出できなかつたが、埴丘上に、正立している点から元位置を保っていると考えられる。当該期の遺構としては方形周溝墓と考えられ、埴丘部の土器は大形土器が使用されている点で主体部の可能性がある。

周溝からは残存状況のよい土器が出土したが、いずれも遺構床面からやや浮いた状態で出土している。また、西側の周溝には重複が認められ、分層することができた。

時期的には、中期後葉の遺物が出土した。

方形周溝墓 S X31 調査区南部の I ～ J 13グリッド付近で、IV層下部 b-1 層上面にて検出した。周溝埋土が一定量の遺物の出土している S X16や S X29 と類似していることから、一連の方形周溝墓の可能性が考えられる。

方形周溝墓 S X36 N～O 10グリッド付近で、IV層下部 b-1 層上面にて検出した。

土坑 SK 6 (第33図・図版17) H 7 グリッド付近で、IV層下部 b-1 層上面にて検出した。遺構掘方の検出は比較的容易であり、残存状況のよい土器が横転した状態で出土した。

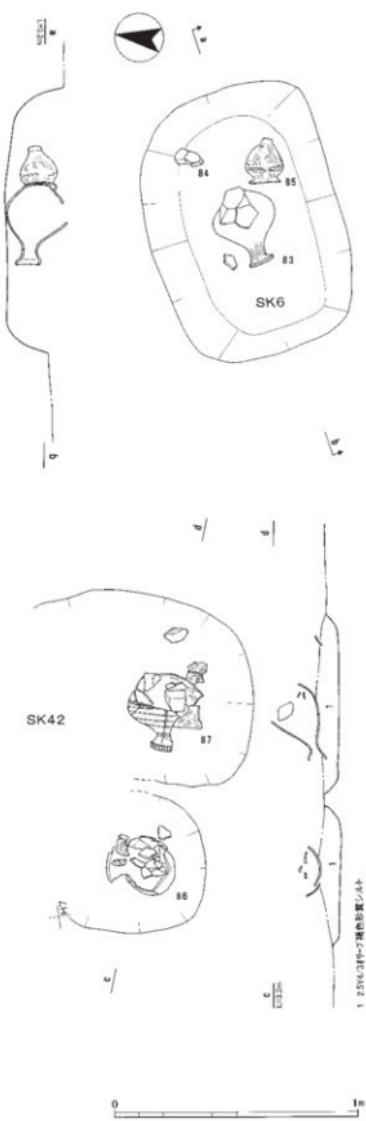
時期的には、中期後葉の遺物が出土した。

土坑 SK 42 (第33図・図版17) H 7 グリッド付近で、IV層下部 b-1 層上面にて検出した。残存状況のよい土器が出土した。しかし、SK 6とは異なり遺構掘方は不鮮明であった。遺物の時期は中期後葉である。

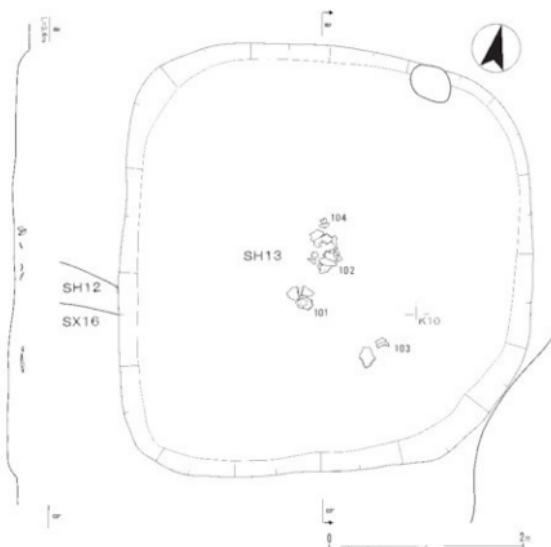
溝 S D49 F～L 11グリッドで、IV層下部 b-1 層上面にて検出した。深さは浅く、平面的には S X16 に接続する。埋土からの出土遺物は少ないが、81・82が出土した。

時期的には、中期後葉の遺物が出土した。

溝 S D34 L 7～M 6 グリッド付近で、IV層下部 b-1 層上面にて検出した。



第33図 土坑 SK 6・42土器出土状況
平面図・断面図・立面図 (1:20)



第34図 穴住居SH13土器出土状況平面図・断面図 (1:50)

埋土が黒褐色の砂質土であった点で、ほかの中後葉の埋土と類似する。遺物の出土はないが、層序や土質の類似性から中期後葉の遺構の可能性がある。

b 弥生時代後期

穴住居SH12 調査区中央部のI9グリッドで、IV層上部a-1層下部にて検出した。SX16・SH13と重複し、前者より後出であり、後者よりは前出である。

c 古墳時代前期

穴住居SH13 (第34図・図版18) 調査区中央部のJ 9～K10グリッドで、IV層上部a-1層下部にて検出した。東西4.3m、4.5mを測る。SX16・SH12・SD27と重複し、前二者よりは後出であり、後者より先行する。床面には、101が倒立していた。
溝SD5 (第22・35図・図版18) 調査区北部のF 6～7グリッドで、IV層上部a-2層下部にて検出した。平面的には、緩やかに円弧を描く。また、断面(第6・35図)にて両肩に土堤を伴うことを確認した。出土遺物はわずかであるが、下層ではS字甕片106

などの古墳時代前期初頭の遺物を包含していた。上層には初期須恵器や双孔円盤が含まれることから、古墳時代中期には埋没してわずかに窪む状態になっていたと考えられる。

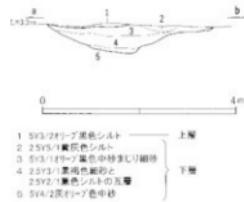
d 古墳時代中期～後期

穴住居SH9 調査区北西部のH 7～8グリッドで、IV層上部a-1層内にて検出した。南北3.5mの規模を測る。

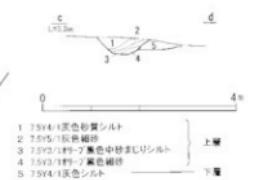
溝SD32 調査区北部のH 4～5グリッドで、IV層上部a-2層下部にて検出した。主軸がN66°Wの直線的な構造である。埋土からは109が出土した。

風倒木SK40 調査区北部のG～H 4グリッドで、IV層上部a-2層下部にて検出した。15cm下げて検討したところ、中央部付近に円形の埋土がみられた。

溝SD27 (第22・36図) 調査区南西部から北東部にかけて、H 13～M 9グリッドでⅢb層上面にて検出した。溝埋土は上下の2層に大別される。調査区東壁で確認したSD59と同一遺構の可能性がある。下層埋土にはほとんど遺物が含まれないが、藤原宮以前の7世紀後半の瓦が出土した。上層からは、



第35図 溝SD5土層断面図 (1:100)



第36図 溝SD27土層断面図 (1:100)

陶器碗などの13世紀前半の遺物が少量出土した。

溝 S D 37 調査区南西部のF～H13グリッドで、IV層上部a-1層下部にて検出した。主軸はN54°Eである。新旧関係はSD39より後出であり、SD11・25・24より前出である。

溝 S D 11 (第22図) 調査区南西部のF10～G14グリッドで、IV層上部a-1層内にて検出した。主軸はN23°Wである。新旧関係は、SD24よりは前出でSD25・37よりは後出である。ラミナの観察された下層では遺物の出土を見なかったが、最終的な埋没段階は上層(SD11-1層)であり、猿投窓編年のK90型式⁽¹²⁾と推定される灰釉陶器細片が出土していることから9世紀ごろと考えられる。

溝 S D 25 調査区南西部のF13～H12グリッドで、IV層上部a-1層下部にて検出した。主軸はN54°Eである。新旧関係は、SD39・37より後出で、SD11・24より前出である。

時期的には破片であるが、6世紀代と推定される遺物が出土している。

溝 S D 24 調査区南西部のF～H13グリッドで、IV層上部a-1層下部にて検出した。主軸はN67°Eであり、SD11より後出である。

時期的には、MT15型式⁽¹³⁾の須恵器杯身が出土している。

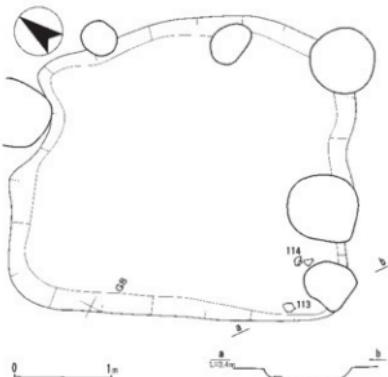
溝 S D 51 調査区中央部のJ～L9グリッドで、IV層下部b-1層内で検出した。SH13と重複するが、現地では新旧関係を確認できていない。主軸はN67°Eである。

柵 S A 50 調査区西部のG～H10グリッドで、IV層上部a-1層下部にて検出した。主軸はN67°Eである。

e 奈良時代中期～後期

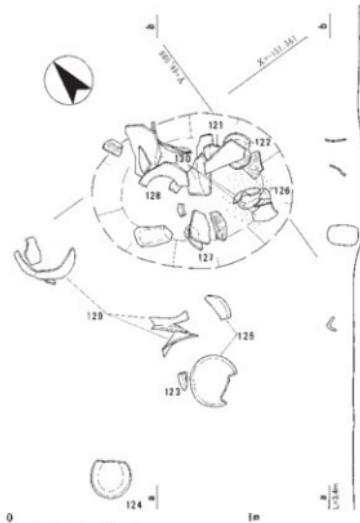
竪穴住居 SH2 (第37図、図版19) 調査区北西部のG7～8グリッドで、IV層上部a-1層内にて検出した。掘立柱建物SB19と重複するが、先行する。床面直上付近から113・114が出土した。時期的には、都城編年⁽¹⁴⁾ (以下省略) の平城II～III期に相当し、近隣遺跡の編年⁽¹⁵⁾ (雲出島貢遺跡での編年、以下略) では島貢E期古相2～中相1に相当する。

竪穴住居 SH18 調査区南西部のF～G10グリッド



第37図 竪穴住居 SH 2 土器出土状況平面図・断面図 (1:50)
で、IV層上部a-1層下部にて検出した。当該グリッドからは、177・181等の都城編年の平城II～III期に相当する遺物が出土している。包含層遺物として取り上げているが、検出時に削り込んでいることから、本来はSH18埋土に包含されていた可能性がある。

土器群 SZ 4 (第38図、図版19) 調査区北部のK



第38図 土器群 SZ 4 土器出土状況平面図・断面図 (1:20)

7グリッドで、IV層上部a-1層内にて検出した。遺構の輪郭は不鮮明であり、土坑状に浅く落ち込む。土器群は、平面的に広がる形で確認された。また、土器群の下部においては竈の支柱石の可能性のある立石を確認した。

遺物の器種組成は土師器杯・皿・甕である。時期的には、都城編年の平成Ⅱ～Ⅲ期に相当し、近隣遺跡の編年では島貫E期中相1に相当する。

竈S F 15 (第39図) 調査区中央部のJ 10グリッドのIV層上部a-1層内で検出した。焼土や炭が集中して認められ、被熱を帯びた土器片141が出土した。



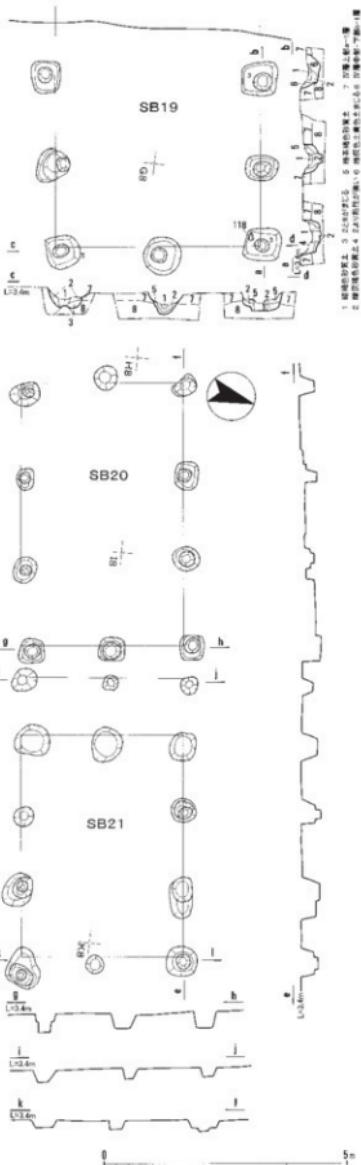
第39図 竈S F 15土器出土状況平面図・断面図 (1:40)

掘立柱建物SB 19 (第40図) 調査区北西部のF 7～G 8グリッドでIV層上部a-1層内にて検出した。東西3間 (1間約2.1m) 以上南北2間 (1間約1.5m) の東西棟の側柱建物である。主軸はN16° Wである。柱掘形は長方形で、最大のもので一辺約80cm程度である。遺物は柱掘方から土師器皿118が出土している。

時期的には、都城編年の平成IV～V期に相当し、近隣遺跡の編年では島貫E期中相3に相当する。

掘立柱建物SB 20 (第40図) 調査区中央部のH 7～I 8グリッドでIV層上部a-1層内にて検出した。東西3間 (1間約1.8m) 南北2間 (北側の1間約1.8m、南側の1間約1.5m) の東西棟の側柱建物である。主軸はN16° Wである。柱掘形は長方形で、最大のもので一辺約50cm程度である。

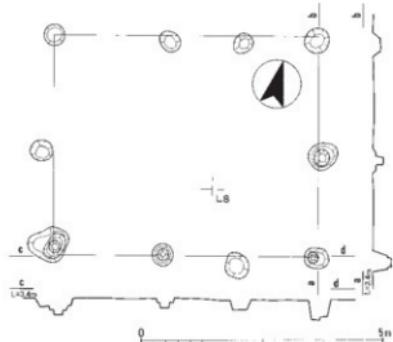
掘立柱建物SB 21 (第40図) 調査区中央部のJ 7～K 8グリッドでIV層上部a-1層内にて検出した。東西3間 (1間約1.5m) 南北2間 (北側の1間約1.8m、南側の1間約1.5m) の東西棟の側柱建物である。主軸はN16° Wである。柱掘形は長方形で、最大のもので一辺約50cm程度である。遺物は土師器皿117が出土している。



第40図 掘立柱建物SB 19・20・21平面図・断面図 (1:100)

時期的には、都城編年の平城IV～V期に相当し、近隣遺跡の編年では島賀E期中相3に相当する。

掘立柱建物 S B 22 (第41図) 調査区中央部のK7～8グリッドでIV層上部a-1層内にて検出した。東西3間（東から1.5+1.5+2.4m）南北2間（南から2.1+2.4m）の東西棟の側柱建物である。主軸はN13°Wである。柱掘形は長方形で、最大のもので一辺約40cm程度である。

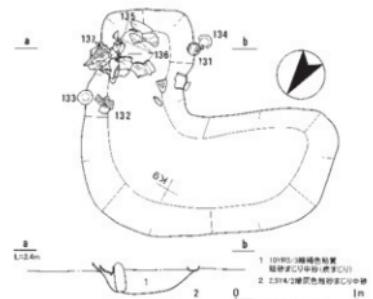


第41図 掘立柱建物SB 22平面図・断面図 (1:100)

溝S D 3 F～G 7グリッドで、IV層上部a-1層内にて検出した。

溝S D 7 J～K 9グリッドで、IV層上部a-1層内にて検出した。西端部では南部へ屈折し、不明瞭になった。

土器群S Z 14 (第42図・図版19) 調査区中央部のJ～K 10グリッドで、IV層上部a-1層内にて検



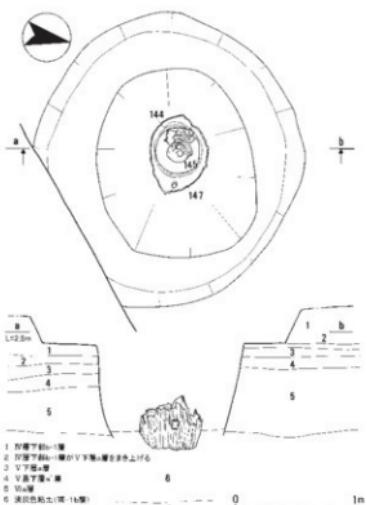
第42図 土器群S Z 14出土状況
平面図・断面図 (1:40)

出した。S Z 4と同様に土器群が平面的に広がって検出された。土器群下には不整形の土坑が検出され、支柱石のような立石が埋められていたが、当該期の遺物は包含されていなかった。

遺物の器種組成は、供膳具が土師器杯・皿・碗・須恵器杯、煮沸具が土師器壺・鍋である。時期的には、都城編年の平城IV～V期に相当し、近隣遺跡の編年では島賀E期中相3に相当する。

井戸S E 26 (第43図・図版19) 調査区南部のI 12グリッドで、IV層上部a-1層下部にて検出した。掘方はいびつな円形である。井戸枠は確認できなかったが、井筒は丸太削り抜きのものが据えられていた。井筒内からはほぼ完存の甕2点（144・145）が出土した。時期的には、都城編年の平城V期、島賀編年のE期中相3に相当する。

土坑S K 48 (第8図) 調査区北東部のO 6グリッドで、IV層上部a-1層下部にて検出した。上下層に分層でき、下層からは底部の欠損した甕139が出土した。

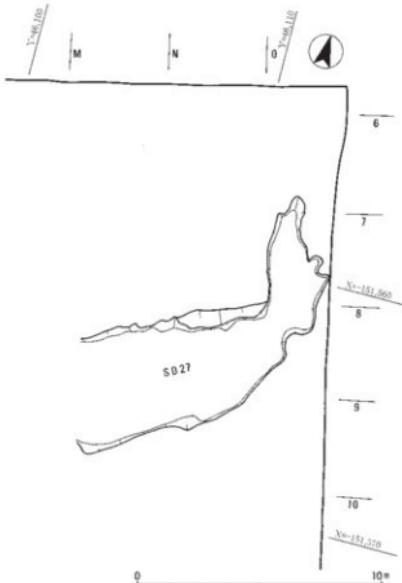


第43図 井戸S E 26平面図・断面図 (1:40)

f 中世前期

p i t群 調査区南東部のIII a下面にて検出した。直径約20cmの円形の柱穴群である。

溝SD27（第44図） 平面的には、東端で北方へ角度を大きく振る。調査区の東方ではII-3-1層の粗砂で満たされていた。II-3-1層はSD27の最上層であり、SD27の埋土としては東方でしか見られなかつた。（川崎志乃）



第44図 溝SD27平面図（Ⅲb層上面）（1:200）

註

- (1) 池島・福万寺遺跡で実施されている地層観察方法を参照した。外山秀一「池島・福万寺遺跡の立地と環境I—遺跡の立地と環境の復原ー」（『池島・福万寺遺跡発掘調査概要X-1』（財）大阪文化財センター 1995年）
- (2) 藤澤良祐「瀬戸地方の北部系山茶碗窯」（『尾呂瀬戸市教育委員会 1990年）
- (3) 高橋学氏の御教示による。
- (4) 鈴木克彦「伊勢湾沿岸地方における凸帯文土器の様相—伊勢地方からの視点ー」（『三重県史研究』6 三重県 1990年）
- (5) 萩原義彦・川崎志乃『金剛坂遺跡（第4次）・辰の口古墳群（第2次）発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター 1999年）
- (6) 外山秀一氏に簡易分析を依頼。
- (7) 詳細は第2分冊を参照。
- (8) 佐藤甲二「畑跡の耕作痕に関する問題点と今後の課題—仙台市域の調査事例をとおしてー」（『はたけの考古学』日本考古学会2000年度鹿児島大会実行委員会編 2000年）
- (9) 前掲（8）
- (10) 斎野裕彦「第7章 検出された遺構と遺物」（『富沢（富沢遺跡第15次発掘調査報告書）』仙台市教育委員会 1987年）
- (11) 詳細は第2分冊を参照。
- (12) 齋藤孝正「東海地方の施釉陶器生産・旅投窯を中心にして」（『古代の土器研究・律令的土器様式の西東ー』古代の土器研究会 1994年）
- (13) 平安学園考古学クラブ『陶邑古窯跡群I』（1966年）
- (14) 古代の土器研究会編『古代の土器I 都城の土器集成』（1992年）
- (15) 伊藤裕格「雲出島貢遺跡における古代の土器」（『晴坂III』三重県埋蔵文化財センター 2001年）

IV 13工区調査の成果—出土遺物—

1 繩文時代晚期～弥生時代前期の遺物

V最下層a'層出土土器（1） 1は深鉢の体部片である。外面に下方からと横位のヘラケズリが見られることから、器形の最大径付近に相当すると考えられる。弥生時代前期下層S D41土堤（V下層a-2層）出土土器（2～5） 2・3は突帯文系の鉢である。いずれも突帯は退化して低く、口縁端部はやや肥厚する。2の突帯の下方は、縦位のヘラケズリで仕上げられる。4・5は遠賀川系壺である。

弥生時代前期下層畦畔出土土器（6） 6は遠賀川系壺であり、内外面共にヘラミガキで仕上げられている。弥生時代前期下層耕作土層（V下層a-3層）出土土器（7～10） 7は粗製鉢である。この時期の伊勢湾西岸地城での出土は少ない。8～10は遠賀川系壺である。8は頸胴部境を段と沈線で、9はヘラ描き直線文で区画する。10の口縁端部にはヘラ描き直線文が巡らされる。

S D44下層出土土器（11） 11は遠賀川系の壺の底部である。

弥生時代前期下層畝間（V上層b-1層）出土土器（12） 12は遠賀川系甕部である。体部外面にはハケ調整が残る。横位のヘラ描き直線文の下部には、2条のヘラ描きにより山形状の施文が施されている。

弥生時代前期上層大畦畔（V上層a-2-2層）出土遺物（13） サヌカイト製の無茎の石鏃である。

弥生時代前期上層耕作土層（V上層a-2-4層）出土遺物（14～16） 土器は、突帯文系の鉢（14）・深鉢（15）が出土している。14は素文突帯、15は突帯上に貝殻腹縫による刻目が施文され、突帯下方には条痕文が見られる。突帯の貼り付け後には、突帯上方を丁寧になでて仕上げるが、突帯下方は手を加えられておらずそのままである。

16は緑色岩製の石器片。1面が整形されている。研磨はみられないが、石材や形態から磨製石斧片の可能性が考えられる。剥片としての整形はされていない。なお、表面が摩耗しているために使用痕の観察は不能である。⁽¹⁾

弥生時代前期上層上面（V上層a-2-4層上面）出土

土器（17～19） 17は遠賀川系の壺底部である。外面には、ハケ調整がわずかに残存する。18は突帯文系の変容壺である。素文突帯の高さは突出している。19は遠賀川系の壺である。頸胴部境にヘラ描き直線文が施文される。

S D44上層出土土器（20） 20は遠賀川系の壺である。ヘラ描き直線文が施されている。

S D45出土土器（21） 21は遠賀川系の壺である。外面には、板ナデの痕跡が明瞭に残り、起伏が激しい。S D41（S D8と小地区重複）出土遺物（22～26） 22は突帯文系の深鉢である。23～25は遠賀川系の壺である。23は口頸部境の接合痕が段となっている。24は、頸胴部境の段の上にヘラ描き直線文が施される。25も口縁端部にヘラ描き直線文が施される。26はサヌカイト製の無茎石鏃である。

弥生時代前期層（V上層・下層）出土遺物（27） 27は下呂石製の無茎石鏃である。

IV層下部b-2層出土遺物（28～33） 28～30は遠賀川系の壺である。28は、頸胴部境の段の上にヘラ描き直線文を施し区画する。29は口頸部境をヘラ描き直線文で区画する。30は、内面に板状工具によるナデがみられる。31・32は無茎石鏃である。石材は前者が下呂石製、後者がサヌカイト製である。33は浮線文系の浅鉢である。胎土は白色を帯びており、他の土器と比較して異質である。内外面に発色のよい赤色顔料がわずかに残存しており、その発色からは水銀朱が塗布されている可能性が考えられる。

IV層下部b-1・2層（S D41と小地区重複）出土土器（34・35） 34は遠賀川系の鉢である。口縁部外面には把手が貼り付けられており、ヘラ描き直線文が巡らされる。35は遠賀川系の壺である。体部上端にヘラ描き直線文が施される。

IV層下部b-1・2層（S D41・8と小地区重複）出土遺物（36～43） 36はサヌカイト製の有茎石鏃である。37・38は突帯文系の鉢である。口縁部からやや下がった位置に素文突帯が貼付されている。38の口縁端部は肥厚する。39・40は遠賀川系の壺である。39は体部上端にヘラ描き直線文が巡らされ、口

縁端部に細い工具による押圧が刻まれている。40の体部外面はハケ調整で仕上げられ、体部上端にはヘラ描き直線文が巡らされる。41～43は遠賀川系の壺である。41は頸部境を段で区画する。内外面ともにハケ調整後ヘラミガキで仕上げられる。42の外面も、ハケ調整後ヘラミガキで仕上げられる。43は口頭部境を削り出し、その上にヘラ描き直線文が巡らされる。頸部境と胸部下方は2条のヘラ描き直線文で区画され、頭部には3条のヘラ描き直線文が8方向に刻まれる。胸部も3条のヘラ描き直線文で区画され、その間に有輪木葉文が配される。残存状況から、12方向に区画されていると推定される。胸部下方には、2条のヘラ描き直線文で重弧文が配される。

IV層下部 b-1・2層出土土器 (44～56) 44～47・55は突帯文系土器であり、44は深鉢、45・47は鉢、46は変容壺である。44は口縁端部からやや下がった位置に素文突帯が貼付され、下方には条痕文で仕上げられる。口縁端部は肥厚する。45も素文突帯が貼付されている。55は胎土や焼成が極めて類似する。55は底部であり、内外面ともにヘラケズリで仕上げられている。46は変容壺の肩部の突帶片である。突帶上には、貝殻腹縫による刻目が刻まれる。47は口縁端部に突帯が貼付され、突帯外面ではなく上方から指による押圧が施される。

48～52・54・56は遠賀川系の壺である。48・50は頸部境をヘラ描き直線文で、49・51は削り出し後ヘラ描き直線文で区画する。51はさらに刻目を施す。刻目には細かい点状の痕跡がみられ、施文原体の形状が残存する。52はヘラ描き直線文で区画し、その上方を板状工具により羽状に刻み、下方をヘラミガキに類似する沈線を施す。54はハケ調整後ランダムなヘラミガキで仕上げられる。頸部境と口縁端部にはヘラ描き直線文を巡らせる。56は外面に板状工具によるナデがみられる。

53は遠賀川系の壺である。体部上端にはヘラ描き直線文が施され、口縁端部には押圧が刻まれる。

包含層出土土器 (57～63) 57～60は突帯文系土器である。57・59は深鉢で条痕文が施される。57は素文突帯が口縁部直下に貼付される。59は扁平な突帯が貼付され、貝殻腹縫による刻目が刻まれる。58・

60は鉢であり、58の口縁端部には退化した突帯が貼付されている。60は口縁部直下に素文突帯が貼付されている。口縁端部は肥厚する。61～63は遠賀川系の壺である。61は頸部境を削り出し後ヘラ描き直線文で区画する。62は口頭部境に1本単位のヘラ描き直線文を2条巡らせる。63の内面は摩滅が著しい。

2 弥生時代中期後葉の遺物

中期後葉の遺物はバリエーションに富み、各個体の調整技法や文様構成が煩雑であることから、調整技法や各施文毎に下表のような簡単な分類を行い、それに従って執筆を進める。施文は各特徴から原体を推定した。

調整技法 (図版34)

〈体部内面調整〉

a 手法 体部内面をナデ消して仕上げる。板状工具によるナデ痕跡の部分的に残る例もみられるが、基本的にはナデ消す。

b 手法 体部内面にハケ調整がそのまま残る。
〈体部下半外表面調整〉

a 手法 底部から上方に向かうハケ調整後に、ヘラミガキを横位に施す。ヘラミガキの施されるのは体部最大径から下方へ1/3から1/2程度の幅である。ヘラミガキの単位はランダムであり、揃っていない。

b 手法 横位のヘラミガキ後に、底部付近に縦方向のナデが放射状に施される。ヘラミガキの単位は揃っており、器壁をほぼヘラミガキで埋める。

施文の特徴 (図版33・34)

〈直線文・波状文〉

沈線 1本ずつ施文される。ヘラミガキのような幅で、壁面への食い込みも浅くゆるやかである。

櫛 a 1本ずつがそれぞれ独立しており、固定が弱く弾力性がある。

櫛 b 1本ずつがそれぞれ独立しているが、隙間なくしっかりと固定されている。

櫛 c 1本ずつ独立した原体を2～3本まとめて施文する。(複合櫛描文)

櫛 c 2 櫛b状の固定のしっかりしたもののが同

時に2～3単位ずつ施文されている。(複合櫛描文)

板状工具 木口がみられることから、板状工具とみなされる。

(簾状文)

櫛b 直線文・波状文と同様。

(斜格子文)

ヘラ 先端部の鋭利なヘラ状の工具。1本ずつ施文される。

櫛c1 1本ずつ独立した原体を2本ずつ固定しまして施文する。(複合櫛描文)

(刺突文)

貝a 二枚貝の貝殻腹縁による施文。

貝b 二枚貝の貝殻腹縁による施文。

櫛b 直線文・波状文・簾状文と同様の原体。これにより、施文原体の端部が円管状であることが分かる。

板状工具 木口の木目が観察できる。

(浮文等)

瘤状突起 粘土塊を貼付し、指で整形し突出させる。爪痕跡がよく残る例が多い。

棒状浮文 棒状の浮文の上に刻目を施す。

円形浮文 円形の浮文の上に竹管文を施す。

竹管文 直接、竹管文を施す。

面からは目立たないが、内面には明瞭に痕跡が残る。

67・68は細頭壺である。67の口縁部は凹線文が見られる。68は体部内外面ともにa手法。頭部が隆起する。櫛描直線文は櫛aによる。

69は台付甕である。脚台端部に面取りを施す。

70は砂岩製の砥石である。

方形周溝墓S X 16出土土器 (71～80) 71・72・

77・78・79は細頭壺である。71・72は体部内外面ともにb手法。71の櫛描文と体部上半の直線文は櫛c2、簾状文と波状文は櫛bによる。72の櫛描文は体部上半が櫛c2、頭部の簾状文から口縁部までは櫛bと使い分けられている。体部下半には焼成後穿孔されている。73は短頭壺である。体部内外面ともにb手法。体部上半は丁寧なナデで仕上げられている。口縁部はシャープな凹線文で仕上げられる。74は太頭壺である。体部内外面ともにa手法。頭部から体部上半は沈線文が施され、口縁端部の下方には指による押圧が刻まれている。体部外面には龍目の痕跡が残存しており、体部内面の下方は器壁の剥離が著しい。75は広口壺である。ヘラ描きの斜格子文を施文後に板状工具による直線文で区画する。瘤状突起は3個1単位で4方向の施文と推定される。施文時の爪痕跡が明瞭に残る。76は体部内外面ともにa手法。頭部の隆起は内面に明瞭に残る。77は体部内外面ともにa手法。櫛描直線文は櫛c1により、縦位の後横位に施される。口縁部と頭部には板状工具による刺突文が刻まれ、口縁部には棒状浮文も施される。78は体部内外面ともにa手法。外面はハケ調整で仕上げられる。体部下半には焼成後穿孔されている。79の体部下半の外面調整はハケ調整のみ。内面はa手法。加飾の施文工具はすべて同一工具であり、刺突文が個々わずかに独立していないことから、相当本目の浮き出した板状工具と判断した。波状文は上下の振幅が均一ではなく、厳密には連弧文が連続するという点から複合連弧文と称すべき文様である。底部は凹み底状を呈する。80の体部下半の外面調整はヘラミガキのみ。内面はb手法。櫛描直線文と波状文は櫛b、斜格子文は櫛c1による。

溝S D 49出土土器 (81・82) 81は粗製の高杯。

内外面ともにハケ調整で仕上げられる。82は広口壺。体部内外面ともにa手法。斜格子文はヘラ、櫛描文

は櫛a、刺突文は貝bによる。口縁部内面には、竹管文が3個1單位で施文される。

土坑SK6出土土器 (83~85) 83は細頸壺である。体部調整は内外面ともにb手法。体部上半は丁寧にナデ消すが、頸部には上向きのハケメが残る。また口縁部には、強い横ナデがみられる。84は内外面ともにa手法。櫛描直線文は櫛c Iにより、縦位の直線文は5方向に配置される。85はいわゆる大和型甕である。器壁は極めて薄く、底部は上げ底に持ち上がっている。体部外面はナナメ方向、横方向のハケ調整の後に、下半部の上向きのハケ調整で仕上げられている。口縁部内面にはハケ調整が残り、端部には板状工具による押圧が上下2段に刻まれている。内面調整はa手法である。

土坑SK42出土土器 (86・87) 86は広口壺である。体部調整は内外面ともにb手法。櫛描文は櫛bで、最大径部に沈線文が1本のみ刻まれる。87は細頸壺である。体部調整は内外面ともにb手法。櫛描直線文は櫛c 2であるが、簾状文・波状文・刺突文は櫛bが用いられている。

溝SD8出土遺物 (88~98) 88・91は広口壺である。88は体部調整は外面はb手法、内面はa手法である。体部外面は頸部を中心にナデ消されるが、ハケ調整が残る。体部下半には焼成後穿孔されている。91はヘラ描きの斜格子文と櫛aによる直線文が施文される。口縁部内面には、瘤状突起が均等に配置されており、12方向と推定される。頸部の隆起は明瞭である。92は記号文がヘラ状工具により刻まれている。内面調整はa手法。93の外面はハケ調整のみ、内面手法はa手法である。記号文がヘラ状工具により刻まれている。94の底部には焼成前に穿孔されており、瓢として使われている。体部外面は、ハケ調整後板状工具によりナデされている。内面の下半部には炭化物が付着しており、3mm程度の粒状の剥離痕が観察できる。95は有稜高杯である。杯端部は肥厚する。脚部には3方向の透孔が穿たれており、その上部には形数化した櫛描直線文が施文される。96は脚付土器の杯部と考えられる。97は台付甕脚台部。98はサスカイト製無茎石瓶である。

3 弥生時代後期～古墳時代前期の遺物

竪穴住居SH12出土遺物 (99・100) 99は高杯脚部である。脚の形状や透孔が比較的高い位置に穿たれている点および櫛描直線文が2単位施文されている点から、同じ雲出川下流域の雲出島貴遺跡の時期区分⁽²⁾では、おむね島貴C II期古相に相当すると考えられる。100は嵌石であり、中央部に弱い敲打痕がみられる。

竪穴住居SH13出土土器 (101~104) 101・102は土師器壺。ハケ調整仕上げの短頸壺である。103はS字状口縁台付甕であり、口縁部にしっかりとした面を残し外面を定型化したハケ調整で仕上げる点から、B類に相当する。104は有稜高杯である。時期的には、S字甕B類および短脚化した有稜高杯が出土していることから、島貴C III期古相に相当する。

溝SD5下層出土土器 (105・106) 105は土師器壺である。106はS字状口縁台付甕の脚台部である。脚部内面の折り返しがない。脚部の形態からはA類以前に相当し、おむね島貴C II期に相当する。

4 古墳時代中期～中世前期の遺物

溝SD5上層出土遺物 (107・108) 107は初期須恵器の甕である。焼成は堅緻であるが、色調は橙色である。外面には縄目タキヒ後ハケメが、内面にはハケ調整がみられる。108は滑石製双孔円盤である。

溝SD32出土土器 (109) 109は土師器高杯と考えられる。頭部がくびれており、類をみない形状であるが、脚部の欠損している点や杯部の接合痕などが古墳時代前期後半から中期にかけての高杯と類似する。

溝SD24出土土器 (110) 須恵器杯身である。体部の1/2程度にヘラケズリが施される。陶邑編年MT15型式⁽³⁾に並行する。

溝SD25出土土器 (111・112) 111は形数化しているS字甕のE類である。112は須恵器甕である。

竪穴住居SH2出土土器 (113~115) 113・114は土師器杯である。113は口縁端部は内面向かって肥厚する。内面には暗文が施されている精製品である。114は外面に指押さえが残る。115は土師器杯あるいは皿であり、外面に墨書きが記されている。時期的には、杯の口縁端部の肥厚やヘラミガキなどから、都城編年の平城II～III期⁽⁴⁾に、近隣の遺跡

の編年では島貴E期古相2～中相1⁽⁵⁾に相当する。豊穴住居S H 18出土土器（116） 116は志摩式製塩土器である。概ね奈良時代とみられる。

掘立柱建物S B 21出土土器（117） 117は土師器皿である。口縁端部は面状をなす。内外面ともにヘラミガキで仕上げられている精製品である。

掘立柱建物S B 19掘方出土土器（118） 118は土師器皿である。精製品であるが、底部内外面の広範囲に黒斑がみられる。

掘立柱建物S B 19出土土器（119・120） 119は土師器皿である。底部内外面の広範囲に黒斑がみられる。120は土師器甕。口縁部は内弯する。

土器群S Z 4出土土器（121～130） 121～124・126は土師器杯である。121・122・124は精製品であり、口縁端部が内面に向かって肥厚する。121の底部には、細いヘラ描きが3本見られる。124の底部外面には、「知」と墨書きされていた。123・126は粗製の杯である。126の外面には指押さえ痕が残る。125は土師器皿である。内面に暗文が施されている精製品。127は把手付鉢。内外面ハケ調整で、内面の下半部をヘラケズリする。128～130は土師器甕。時期的には、杯の口縁端部が肥厚するものから面が形成されるようになるものが見られる点やヘラミガキが丁寧に施されている点などから、都城編年の平城II～III期に、近隣の遺跡の編年では島貴E期古相2～中相1に相当する。

土器群S Z 14出土土器（131～137） 131は精製の土師器杯。外面にヘラ描きが刻まれている。132は土師器皿。精製品であり、口縁部は強いヨコナデにより外反する。133は土師器杯。粗製品であり、外面には指押さえが残る。134は須恵器杯であるが、焼成不良のために灰黄色を呈する。135・136は土師器甕。135の外面は、ナデ後に頭部からやや下方にハケ調整が施されており、頭部直下までハケ調整が及ばない。137は土師器鍋。時期的には、杯の口縁端部が外反することなどから、都城編年の平城IV～V期に、近隣の遺跡の編年では島貴E期中相2～3に相当する。

土坑S K 48出土土器（138） 138は土師器杯である。精製品であり、口縁部は強いヨコナデにより外反する。

土坑S K 48下層出土土器（139） 139は土師器甕である。体部内面の下半はハケ調整後ヘラケズリで仕上げる。

土坑S K 48上層出土土器（140） 140は土師器高杯である。精製品であり、脚柱部を面取りする。

窯S F 15出土土器（141） 141は土師器甕である。外面にヘラ描きが記される。被熱による変色が著しい。

井戸S E 26井筒内出土土器（142～146） 143は須恵器杯、142は土師器杯、144・145は土師器甕である。144はハケ調整後ヘラケズリは外のみである。また、頭部内面の凌が銳利であることが特徴的である。145は内外面ともハケ調整後ヘラケズリの定型化した調整手法である。底部付近には接合痕が明瞭に認められ、器壁が厚い点が特徴的である。粗製樹柵の底部に粘土紐が積み上げられている可能性が考えられる。146は土師質の土鍤である。時期的には、杯の口縁端部が外反する点や甕が扁平化していることなどから、都城編年の平城V期に、近隣の遺跡の編年では島貴E期中相3に相当する。

井戸S E 26井筒（147） 147は丸太を削り抜かれており、外面には樹皮が残存しない。樹種はクスノキ。筒状でなく底付近は厚く、残存状況のよい部分で7.2cmを計る。内面には幅約3.7cmの手斧痕が残る。側面の1ヶ所に縦7.9cm横5.7cmの方形の孔が穿たれている。

溝S D 27下層出土遺物（148） 布目瓦である。端部には切断後に2面の面取りが施され、外面は繩タタキ後に丁寧にナデ消されている。焼成は極めてよく焼き締まっており、時期的には藤原宮までの7世紀後半に相当する。⁽⁶⁾

溝S D 27上層出土土器（149～151） 149は南伊勢系の土師器小皿である。器壁が薄く、底部に指押さえ痕が多く残る。150は陶器椀である。時期的には、藤澤編年⁽⁷⁾Ⅲ型式6段階に相当し、13世紀前半の所産と考えられる。151は土師質の土鍤である。

Ⅳ層上部a-1層出土土器（152～154） 152は布目瓦である。端部には切断後に2面の面取りが施され、外面は繩タタキ後に丁寧にナデ消されている。148と同様に、焼成は極めてよく焼き締まっており、時期的には藤原宮までの7世紀後半に相当する。153は円面鏡の陸部である。陸部は厚く、比較的径の大きな硯と推定される。焼成の方向は正立焼成で

あり、一般的な倒立焼成と異なる。陸部上面には墨痕がみられ、摩滅していることから、よく使い込まれていることがわかる。154は土師質の土鍤である。
Ⅲa層出土土器（155・156） 155・156は陶器椀である。時期的には、藤澤編年Ⅲ型式6段階に相当し、13世紀前半の所産と考えられる。

5 包含層等出土の遺物

包含層出土遺物（157～204） 157～159は弥生土器壺である。157は廉状文・刺突文は櫛b、斜格子文は櫛c 1による直線文は櫛bとc 1が使われている。口縁部内面には均等に瘤状突起が、頸部には竹管文が配置される。158・159は体部内外面ともにa手法による。160・161は弥生土器甕である。160は頸部を銳利に屈曲させ、口縁部を跳ね上げる。器壁は薄く、内外面ともにハケ調整で仕上げる。161も器壁は極めて薄い。内面にはヘラケズりがみられる。

162～164は土師器壺である。162・163は口縁端部を折り返し、その外面には繩文が施文されている。土器の形状と施文に繩文が用いられている点では東遠江から駿河地方の大廓式土器と共通する。胎土はやや粗く、色調は暗褐色を帯びている。搬入品と考えられる雲出島貫遺跡出土の大廓式土器と比較すると、雲出島貫例⁽⁸⁾ほどの異質さはなく模倣品の可能性が考えられる。165はS字甕A類である。166は有稜高杯である。脚部には3方向の透孔が穿たれており、その上部には形鉄化した櫛描直線文が施文される。167は中空の小型器台である。時期的には、162～167は古墳時代前期初頭に相当する。

168・169は土師器高杯である。168はいわゆる屈折脚高杯であり、169は椀形高杯の杯部になる。170は古代の甕と類似するが、器形が肩部から丸みをおびて張り出しており、ハケ調整のハケメも細かく定型化した典型的なものではないことから、時期的には古墳時代の所産の可能性が考えられ、器種は壺の可能性が考えられる。171はS字甕E類である。172の外面はS字甕E類と同様に粗いハケ調整が施されている。高茶屋式⁽⁹⁾の大型鉢である。173はいわゆるコップ型の初期須恵器である。体部内面の底部付近にはカキメが、外面上には手持ちヘラケズりがみられる。稜が甘く、波状文も洗練されていない

が、焼成は良好である。174は須恵器杯蓋である。175は須恵器杯身である。内面には、工具痕が残る。

176・177は土師器杯A、178・180は土師器皿である。177の底部外面には、墨書による記号が記されている。179は須恵器皿、181は須恵器杯、182は須恵器長頸壺である。183～186は土師器甕である。187・188は土師質の移動式甕である。時期的には、176～188は奈良時代に相当する。

189は土師器皿である。いわゆる南伊勢系土師器ではなく、中勢地域でみられる土器である。雲出島貫遺跡の土師皿a 2⁽¹⁰⁾に相当し、時期的には島貫F 2期新相にある。190～193は陶器小皿、194～197は陶器椀である。藤澤編年Ⅲ型式5～6段階に相当する。197の底部外面には墨書が記されており、「儀」の可能性が挙げられる。198は土師質土鍤である。

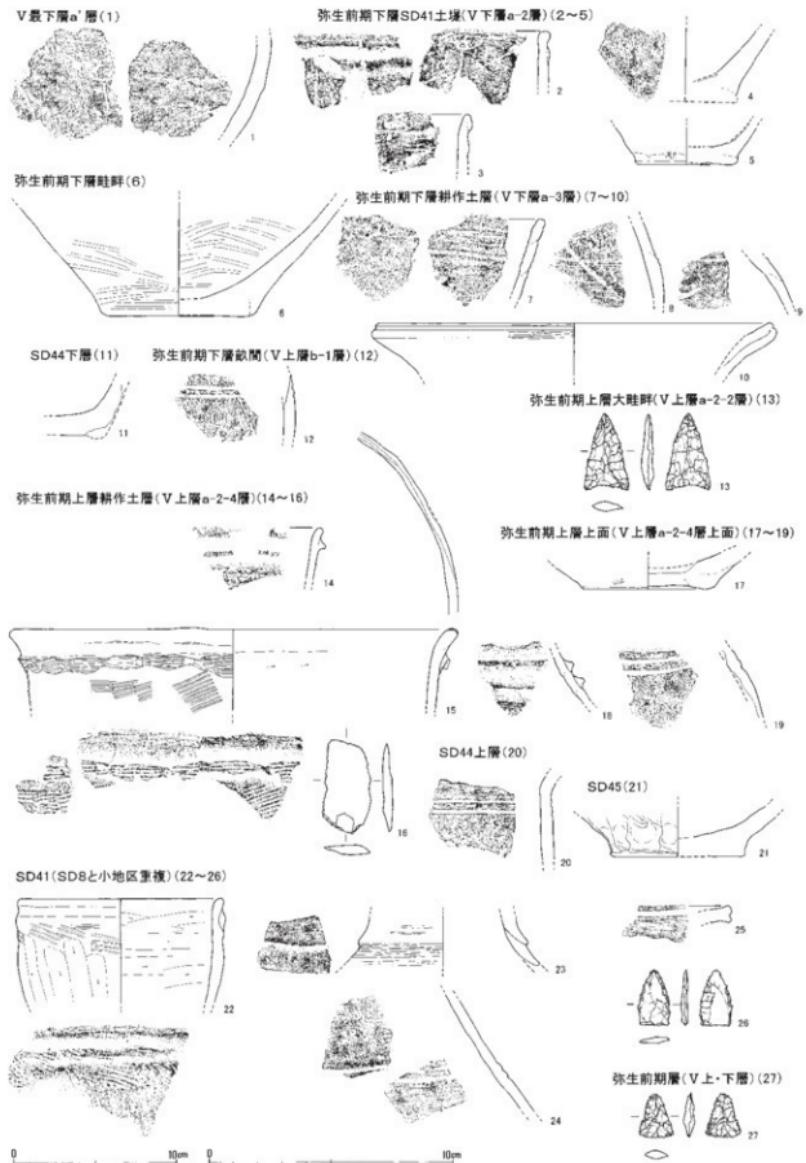
199はサヌカイト製の無茎石鍤である。200・201は蔽石で、蔽打痕がみられる。202は軽石製の砥石で、平面的な研磨痕が2面にみられる。203は滑石製双孔円板である。204は携帯用の砥石である。端部1力所に穿孔がある。

試掘時出土遺物（205～207） 205は布目瓦である。焼成は甘く、摩滅気味である。206は奈良時代の土師器皿である。207は陶器椀である。高台には初殻痕が付着する。時期的には、藤澤編年Ⅲ型式5～6段階に相当する。

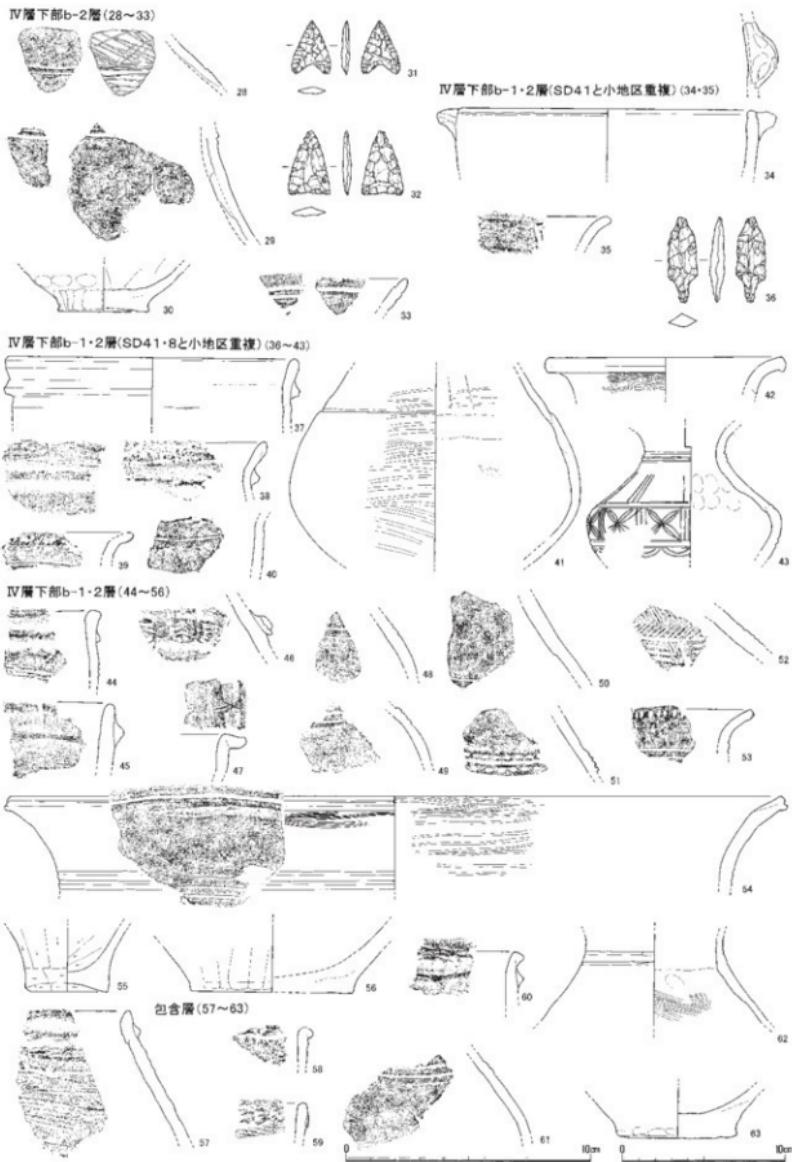
（川崎志乃）

註

- (1) 原田幹氏のご教示による。
- (2) 川崎志乃「古墳時代前期の雲出島貫遺跡」（『鳴抜III』三重県埋蔵文化財センター 2001年）
- (3) 平安学園考古学クラブ『陶邑古窯址群I』 1966年）
- (4) 古代の土器研究会編『古代の土器 I 都城の土器集成』（1992年）
- (5) 伊藤裕偉「雲出島貫遺跡における古代の土器」（『鳴抜III』三重県埋蔵文化財センター 2001年）
- (6) 山田猛氏のご教示による。
- (7) 藤澤良祐「瀬戸地方の北部系山茶窯」（『尾呂』瀬戸市教育委員会 1990年）
- (8) 雲出島貫遺跡遺物番号113・114・404など。（三重県埋蔵文化財センター『鳴抜III』2001年）
- (9) 伊藤裕偉「雲出島貫遺跡における古墳時代中後期の土師器」（『鳴抜III』三重県埋蔵文化財センター 2001年）
- (10) 伊藤裕偉「中世成立期における伊勢の土器相～雲出島貫遺跡出土資料を中心～」（『鳴抜II』三重県埋蔵文化財センター 2000年）

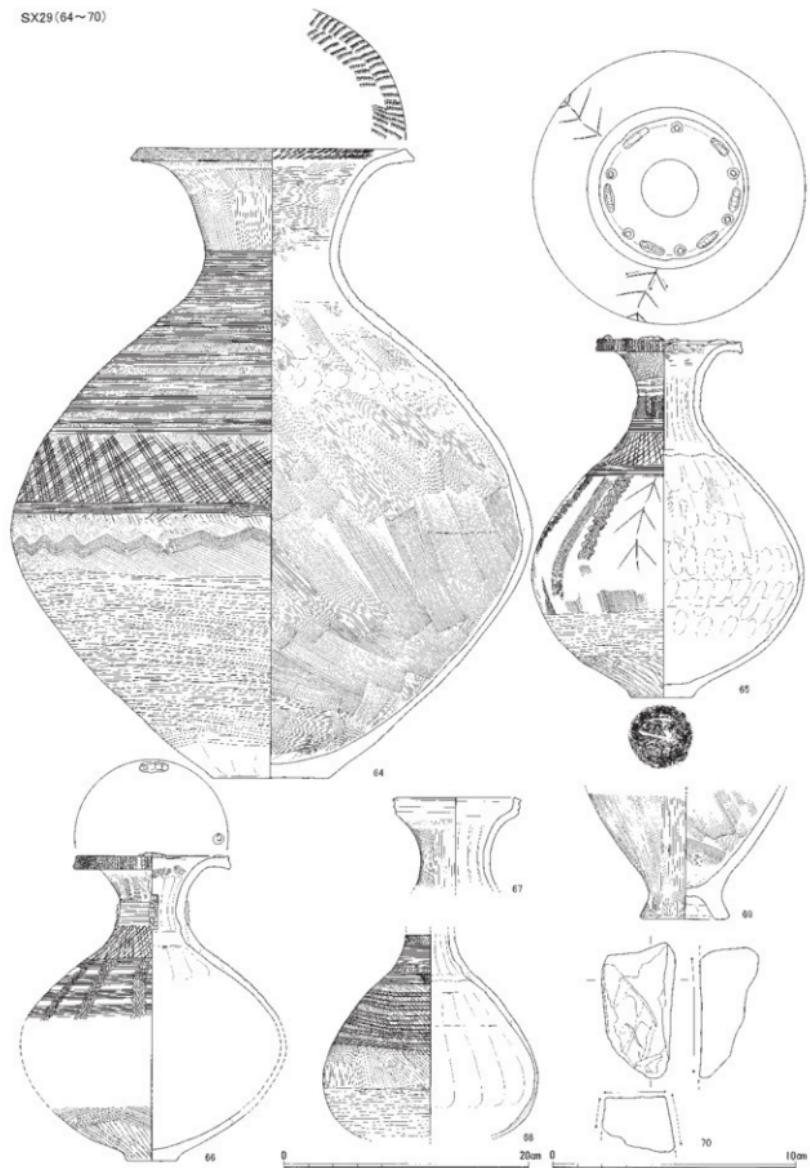


第45図 出土遺物実測図(1) (13・16・26・27は1:2、その他1:3)

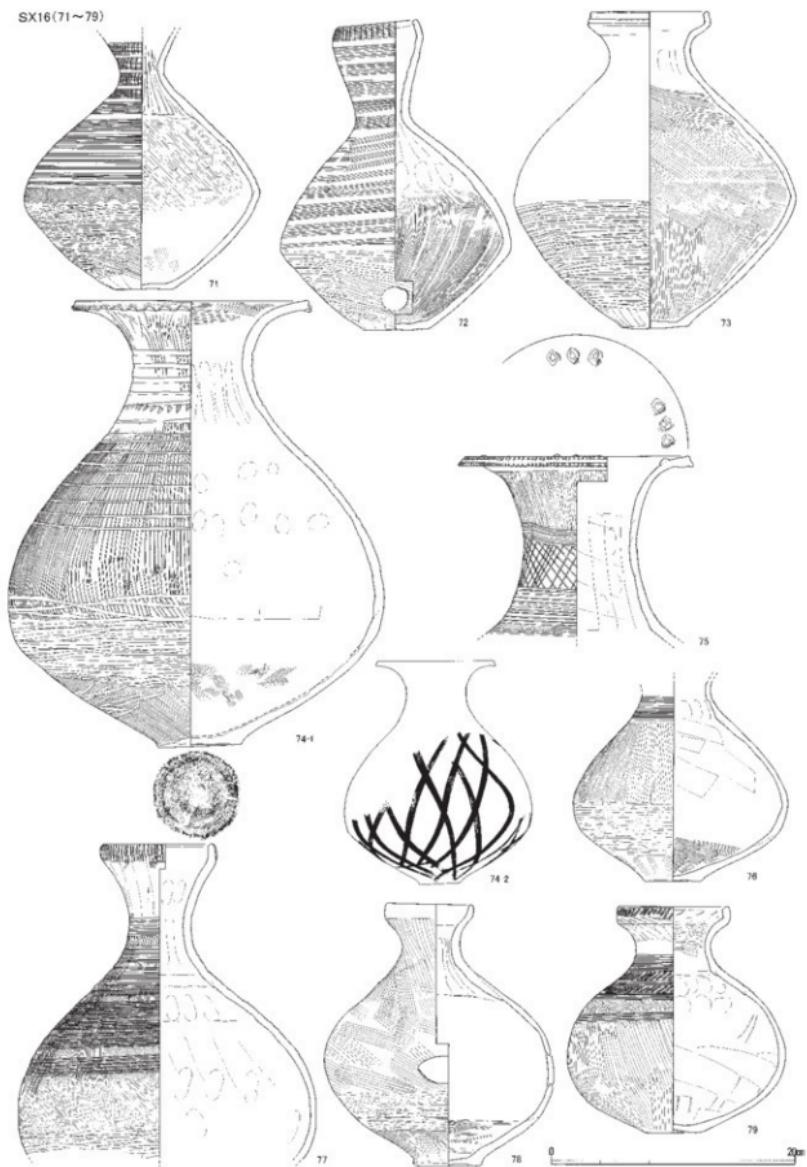


第46図 出土遺物実測図(2) (31・32・36は1:2、その他1:3)

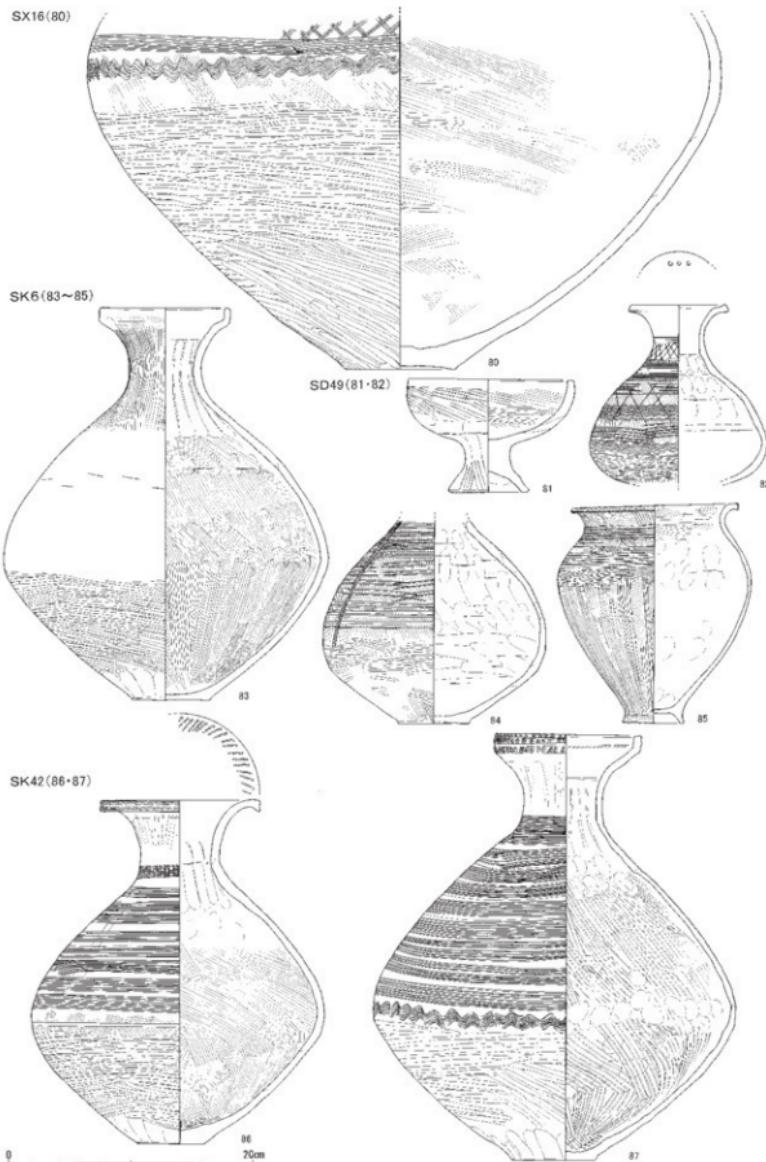
SX29(64~70)



第47図 出土遺物実測図(3) (70は1:2、その他1:4)

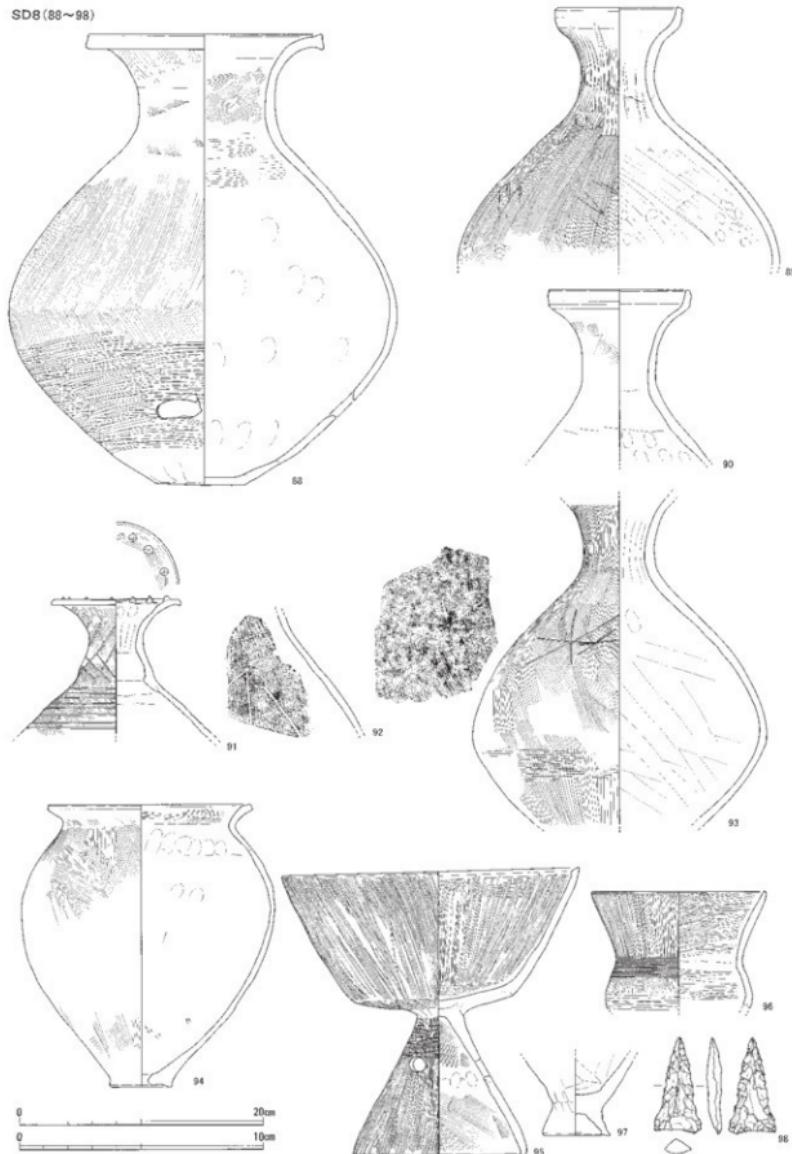


第48図 出土遺物実測図(4) (74-2は1:8、その他1:4)

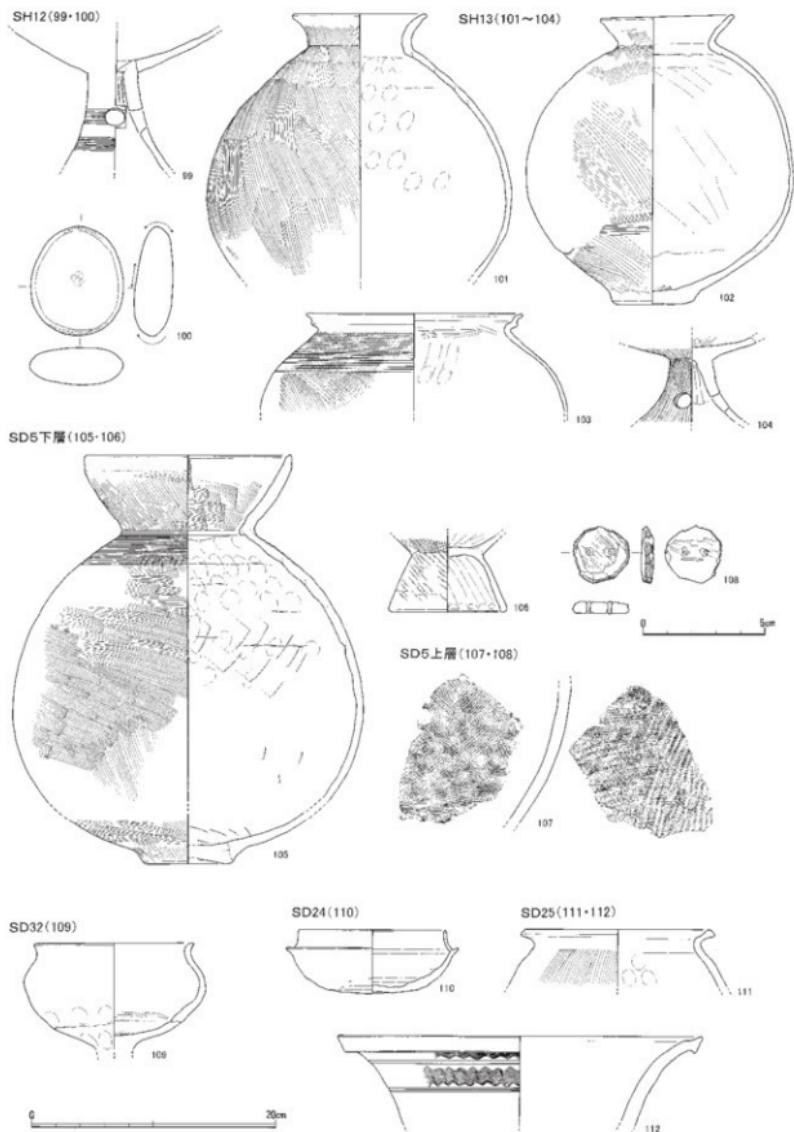


第49図 出土遺物実測図(5) (1:4)

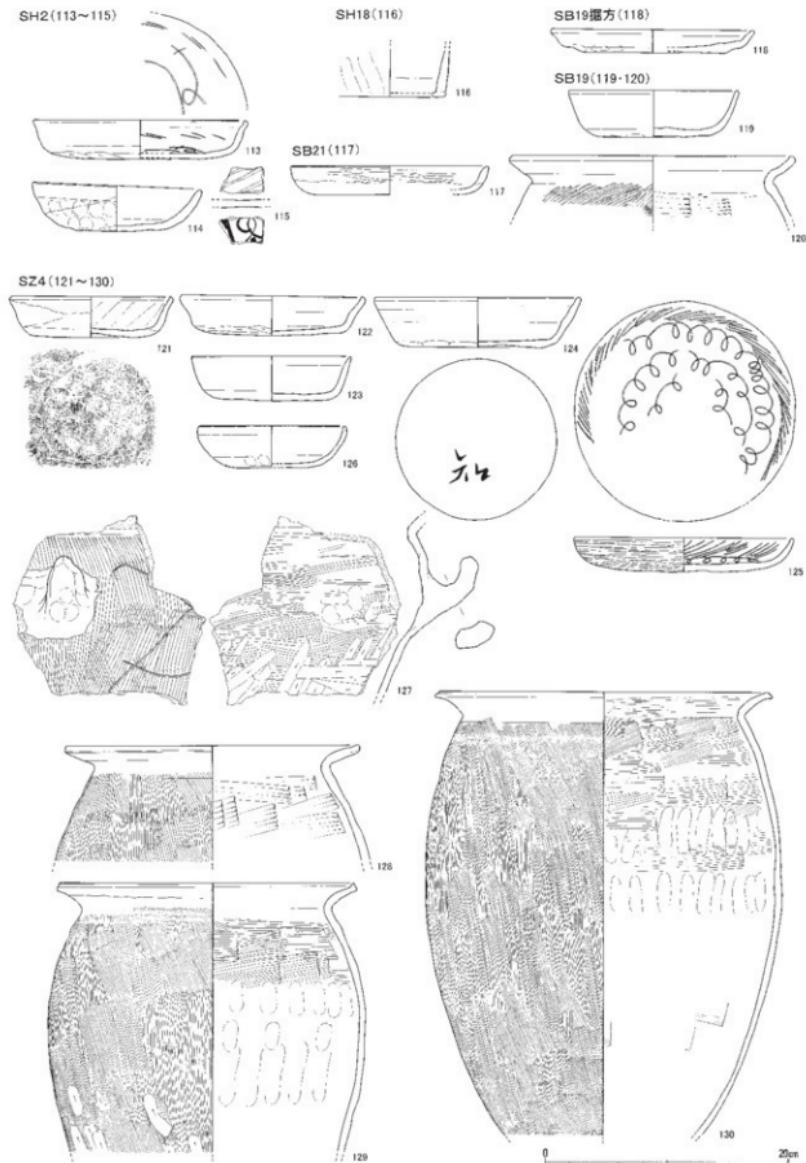
SD8(88~98)



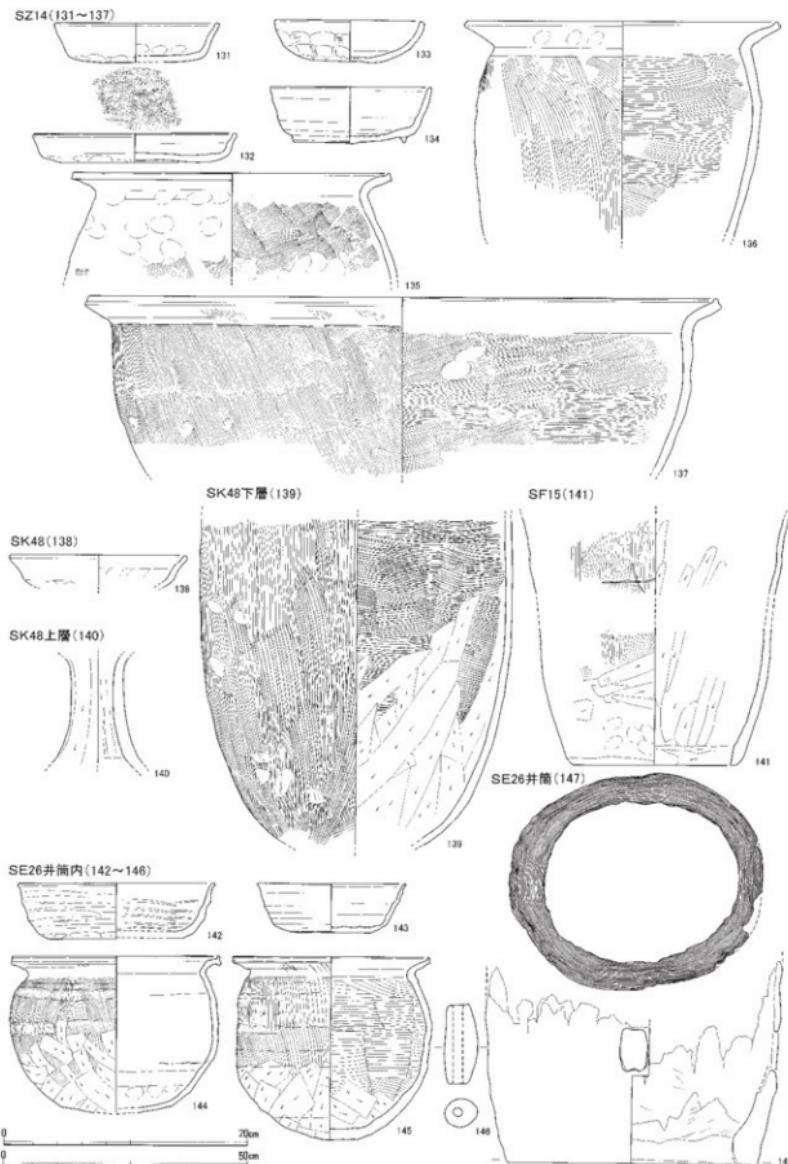
第50図 出土遺物実測図(6) (98は1:2、その他1:4)



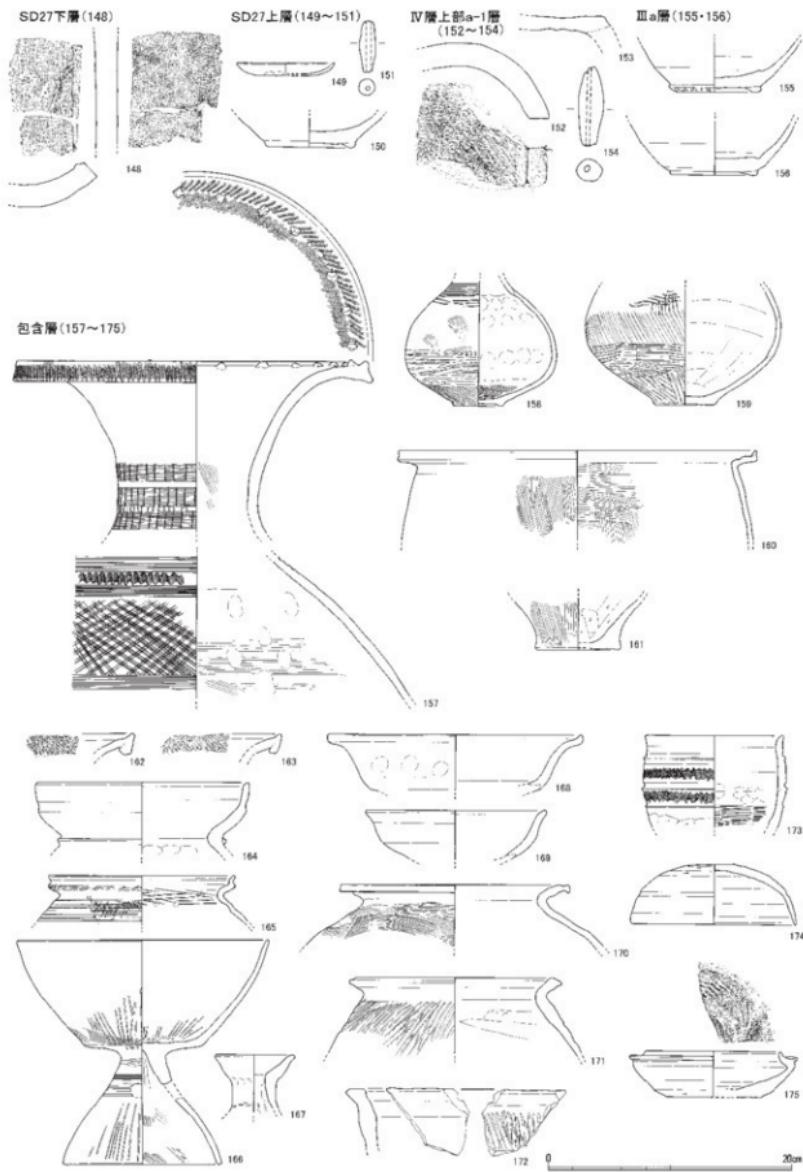
第51図 出土遺物実測図(7) (108は1:2、その他1:4)



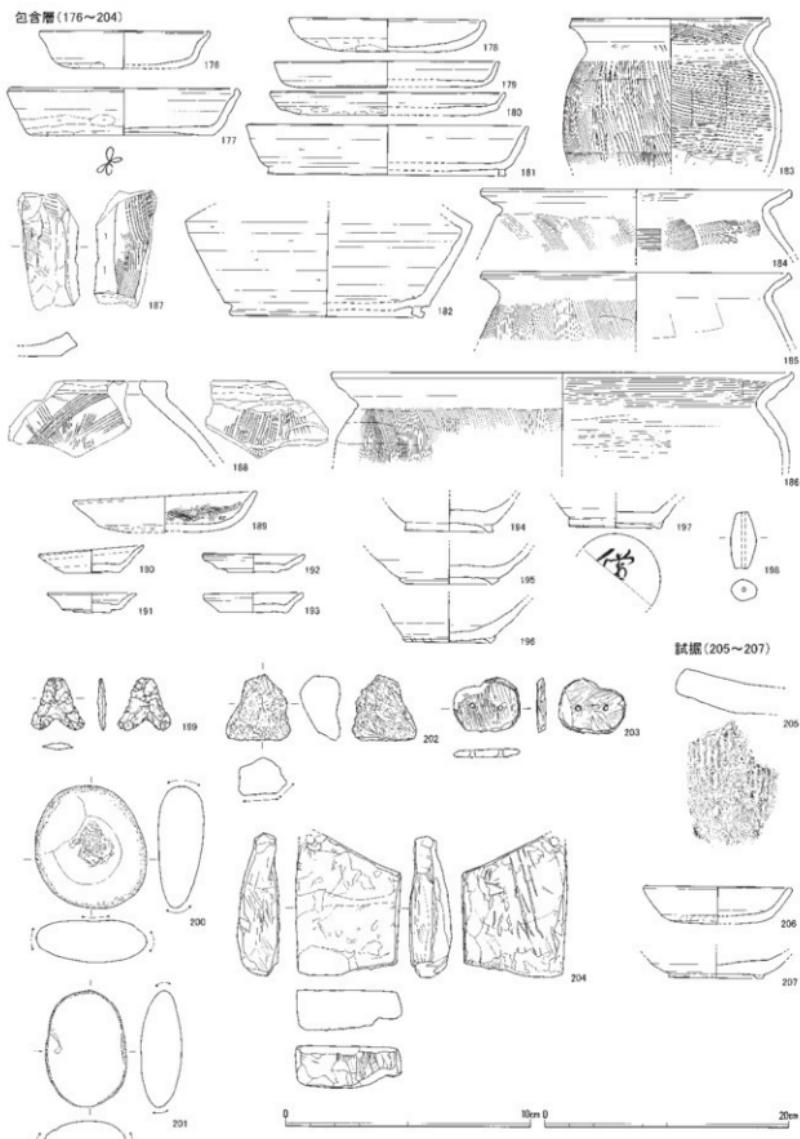
第52図 出土遺物実測図(8) (1:4)



第53図 出土遺物実測図(9) (147は1:10、その他1:4)



第54図 出土遺物実測図(10) (1:4)



第55図 出土遺物実測図(11) (199・203・204は1:2、その他1:4)

遺物観察表　凡例

遺物観察表については、以下のような方法によって表記している。

1 出土土器観察表

報告番号：図版に対する番号である。

実測番号：実測図製作段階の番号である。3桁以上の数字が実測用紙番号、下2桁が実測用紙内の番号である。（例）12304→123-04

器種等：弥生土器・土師器などの別と、器種（壺・甕・杯）などを記した。

地区：調査区内のグリッド（4×4m）である。

遺構・層位等：出土した遺構および層位を記した。pは取り上げ番号である。

計測値：特記のないものは、口径（口縁部径）および器高を記した。

調整・技法の特徴：土器製作技法を簡易に記した。ただし、弥生時代中期の土器については煩雑なため、別途本文の分類（P.46～47参照）に準じて項目を独立させた。

胎土：粗・やや粗・やや密・密の4段階で記した。胎土中に見られる重要な特徴については「特記事項」に記した。

色調：『新版標準土色帖』（小山・竹原編 2001前期版）を基準とした色調を表記した。

残存：口縁部・脚部など残存状況のよい部位を分数で記した。律令期の土器の口縁部残存度については1/12単位で記した。

特記事項：土器に見られる特徴的な要素を記した。

2 出土石器観察表

報告番号、実測番号、地区・層位等：1に同じ。

器種：想定される器種を記した。

計測値：（ ）表記は残存部を計測したものである。

残存：完存およびほぼ完存のもののみ記した。

特記事項：石器に見られる特徴的な要素を記した。

3 出土木器観察表

報告番号、実測番号、地区・層位等：1に同じ。

種別：遺構構造材について用途を記した。

名称：器種を記した。

計測値：2に同じ。

木取り：現状での材断面に現れた木目を基準としている。

特記事項：木器に見られる特徴的な要素を記した。

| 報告 番号 | 実測 番号 | 器種類等 | | 地区 | 遺跡・調査等 | 計測値(cm) | | 調整・接法の特徴 | 軸土 | 色調 | 残存 | 特記事項 |
|----------|----------|------|-----|-----------------|---------------------|---------|----|----------------------|-----|------------------|----------|-------|
| | | 質 | 器形 | | | 口径 | 器高 | | | | | |
| 1 | 7202 | 陶土器 | 深鉢 | M8 | 3b層 | - | - | ヘリケン | 粗 | 外10YR7/41-5v黄褐色 | 体部小片 | 外面焼付着 |
| 2 | 7101 | 陶土器 | 鉢 | G8 | 3下層SD41北 盛土 SD41 | - | - | 貼付契帯(素文) | 密 | 内10YR5/41-5v黄褐色 | 口縁部小片 | 外面焼付着 |
| 3 | 7102 | 陶土器 | 鉢 | G8 | 3下層SD41北 盛土 | - | - | 貼付契帯(素文) | やや粗 | 7.5YR5/41-5v褐色 | 口縁部小片 | |
| 4 | 7104 | 陶土器 | 壺 | G9 | 3下層SD41北 盛土 | - | - | ヘリケン | やや粗 | 外10YR6/31-5v黄褐色 | 小片 | |
| 5 | 7103 | 陶土器 | 壺 | G8 | 3下層SD41北 盛土 | 底径5.8 | - | ヘリケン | やや密 | 外7.5YR7/41-5v黄褐色 | 底部1/4 | |
| 6 | 7201 | 陶土器 | 壺 | G11 | 3下層地畔 | 底径6.6 | - | ヘリミガキ | 密 | 7.5YR6/41-5v褐色 | 底部4/12 | |
| 7 | 7105 | 陶土器 | 鉢 | G6 | 3下層耕作土 | - | - | ナデ | やや粗 | 外10YR7/31-5v黄褐色 | 口縁部小片 | |
| 8 | 7107 | 陶土器 | 壺 | F5 | 3下層耕作土 | - | - | 段+ヘラ描 | やや粗 | 内10YR5/41-5v黄褐色 | 小片 | |
| 9 | 7106 | 陶土器 | 壺 | F4 | 3下層耕作土 | - | - | ヘラ描 | 密 | 外7.5YR7/41-5v黄褐色 | 小片 | |
| 10 | 7108 | 陶土器 | 壺 | F4 | 3下層耕作土 | (24.0) | - | ヘラ描 | やや密 | 内10YR7/31-5v黄褐色 | 口縁部小片 | |
| 11 | 7106 | 陶土器 | 壺 | M6 | SD44下層 | - | - | ナデ | 粗 | 外5YR6/41-5v黄褐色 | 底部小片 | |
| 12 | 7203 | 陶土器 | 甕 | I5 | 3下層軟間隣 | - | - | ヘラ描 | やや粗 | 外10YR6/31-5v黄褐色 | 小片 | |
| 14 | 7301 | 陶土器 | 鉢 | G10 | 3上層耕作土・2b包含 | - | - | 貼付契帯(素文) | やや密 | 5Y6/46 | 口縁部小片 | |
| 15 | 7302 | 陶土器 | 深鉢 | G5 F5 D32 | 3上層耕作土・2b包含 層 | 27.0 | - | 貼付契帯(1), 条 直 | やや粗 | 10YR5/31-5v黄褐色 | 口縁部1/6 | |
| 17 | 7305 | 陶土器 | 壺 | G8 | 水田面 P1 | 底径8.0 | - | ヘリケン | やや密 | 10YR7/31-5v黄褐色 | 底部3/4 | |
| 18 | 7304 | 陶土器 | 変容甕 | G5 | 3層上面 | - | - | 貼付契帯(素文) | 粗 | 10YR7/21-5v黄褐色 | 小片 | |
| 19 | 7303 | 陶土器 | 壺 | F7 | 3層上面 | - | - | ヘラ描 | 粗 | 10YR8/31-5v黄褐色 | 小片 | |
| 20 | 7405 | 陶土器 | 甕 | F7 | SD44上層 | - | - | ヘラ描 | やや粗 | 外7.5YR7/31-5v黄褐色 | 小片 | |
| 21 | 7407 | 陶土器 | 壺 | H9 | SD45 | 底径7.8 | - | ヘリミガキ | やや密 | 外7.5YR7/41-5v黄褐色 | 底部1/5 | |
| 22 | 7404 | 陶土器 | 深鉢 | H8 | SD41レンヂ (SD8+重複) | 12.3 | - | 貼付契帯(素文)、 条質+ヘリケン | やや粗 | 外5YR6/31-5v黄褐色 | 口縁部外面部付着 | |
| 23 | 7402 | 陶土器 | 壺 | I8 | SD41 (SD8+重複) | 梗径10.4 | - | 段 | やや密 | 外7.5YR7/41-5v黄褐色 | 小片 | |
| 24 | 7403 | 陶土器 | 壺 | I8 | (SD8+重複) | - | - | ヘラ描 | やや密 | 外2.5YR7/31-5v白 | 小片 | |
| 25 | 7401 | 陶土器 | 壺 | I8 | (SD8+重複) | - | - | ヘラ描 | 密 | 5Y3/1オーブー黒 | 口縁部小片 | |
| 26 | 7503 | 陶土器 | 壺 | J6 | 2b下層 | - | - | 段+ヘラ描 | やや密 | 5Y4/1灰 | 小片 | |
| 29 | 7502 | 陶土器 | 壺 | J6 | 2b下層 | - | - | ヘラ描 | やや密 | 外7.5YR7/41-5v灰白 | 小片 | |
| 30 | 7501 | 陶土器 | 壺 | G6 | 2b下層 | 底径5.6 | - | ナデ | やや密 | 外2.5Y7/31-5v黄 | 底部1/4 | |

出土土器総観察表(1)

| 報告 番号 | 実測 番号 | 器種類等 質 | 器形 | 地区 | 遺跡・層位等 口径 | 計測値(cm) | | 調整・技法の特徴 | 刷土: | 色調 | 残存 | 特記・事項 |
|----------|----------|-----------|-----|--------|------------------------|-----------|----|-----------------|-----|-----------------------------------|--------|-----------------|
| | | | | | | 器高 | 内径 | | | | | |
| 33 | 7504 | 縄文土器 | 深鉢 | M10 | 南25下層 | - | - | 沈線 | やや密 | 外10YR5/2-5V 黄褐 P310YR8/1-灰黄褐 | 口縁部小片 | 内外面に水痕朱竹付裏、始土異質 |
| 34 | 7702 | 弥生土器 | 鉢 | K7 | 28.5cm含層 (SD41重複) | 17.6 | - | ヘラ描、把手貼付 | やや粗 | 10YR7/4-5V 黄褐 | 口縁部小片 | 把手部1ヶ所残 |
| 35 | 7704 | 弥生土器 | 甕 | L7 | 28.5cm含層 (SD41重複) | - | - | ヘラ描 | やや粗 | 7.5YR8/6V 棕 | 口縁部小片 | |
| 37 | 7705 | 縄文土器 | 鉢 | N6 | 28.5cm含層 (SD41-8重複) | 17.6 | - | 貼付突唇(素文) | 粗 | 7.5YR8/6V 棕 | 口縁部小片 | 1/2 |
| 38 | 7706 | 縄文土器 | 鉢 | N7 | 28.5cm含層 (SD41-8重複) | - | - | 貼付突唇(素文) | 粗 | 10YR8/4-5V 黄褐 | 口縁部小片 | |
| 39 | 7603 | 弥生土器 | 甕 | F7 | 28.5cm含層 (SD41-8重複) | - | - | ヘラ描、押圧 | やや粗 | 10YR8/4-5V 黄褐 | 口縁部小片 | 口縁部外面部剥付着 |
| 40 | 7605 | 弥生土器 | 甕 | F9 | 28.5cm含層 (SD41-8重複) | - | - | ヘラ描 | やや粗 | 7.5YR7/6V 棕 | 小片 | |
| 41 | 7601 | 弥生土器 | 甕 | G8-G10 | 28.5cm含層 (SD41-8重複) | 頭4.2 | - | 段 | 密 | 10YR7/4-5V 黄褐 | 頭刷削1/4 | |
| 42 | 7602 | 弥生土器 | 甕 | G8 | 28.5cm含層 (SD41重複) | 12.4~14.4 | - | ヘラギヤ | やや密 | P2.5V/7/2-5V 黄灰 P10YR7/2-5V 黄褐 | 口縁部小片 | |
| 43 | 7701 | 弥生土器 | 甕 | K7-K8 | 28.5cm含層 (SD41重複) | 頭45.0 | - | 削出し+ヘラ描 | やや密 | 10YR7/3-5V 黄褐 | 頭削完存 | |
| 44 | 7801 | 縄文土器 | 深鉢 | H10 | 28.5cm含層 | - | - | 貼付突唇(素文)、 条痕 | やや粗 | 10YR7/2-5V 黄褐 | 口縁部小片 | |
| 45 | 7805 | 縄文土器 | 鉢 | M9 | 28.5cm含層 | - | - | 貼付突唇(素文) | やや粗 | 10YR8/3-5V 黄褐 | 口縁部小片 | |
| 46 | 7803 | 縄文土器 | 変容甕 | L.9 | 28.5cm含層 | - | - | 貼付突唇(目) | 粗 | 7.5YR7/6V 棕 | 小片 | |
| 47 | 7804 | 縄文土器 | 鉢 | 1.9 | 28.5cm含層 | - | - | 貼付突唇(指) | やや粗 | 10YR7/2-5V 黄褐 | 口縁部小片 | |
| 48 | 7901 | 弥生土器 | 甕 | K12 | 28.5cm含層 | - | - | ヘラ描 | やや密 | 外10YR7/4-5V 黄褐 内2.5YR7/4-5V 黄 | 小片 | |
| 49 | 7904 | 弥生土器 | 甕 | L.7 | 28.5cm含層 | - | - | 削出し+ヘラ描 | やや密 | 10YR8/2-5V 白 | 小片 | |
| 50 | 7902 | 弥生土器 | 甕 | L.6 | 28.5cm含層 | - | - | ヘラ描 | やや密 | 8.7.5YR7/6V 棕 P2.5YR7/3-5V 黄褐 | 小片 | |
| 51 | 7807 | 弥生土器 | 甕 | G7 | 28.5cm含層 | - | - | ヘラ描、軋突 (質?) | やや粗 | 外7.5YR7/6V 棕 内SY2/黑 | 小片 | |
| 52 | 7703 | 弥生土器 | 甕 | 11.0 | 28.5cm含層 | - | - | ヘラ描、軋突(板) | やや粗 | 5YR8/6V 棕 | 小片 | |
| 53 | 8006 | 弥生土器 | 甕 | H7 | 28.5cm含層 | - | - | ヘラ描、押圧 | やや粗 | 10YR8/4-5V 黄褐 | 口縁部小片 | |
| 54 | 7905 | 弥生土器 | 甕 | L.9 | 28.5cm含層 | 47.0~55.0 | - | ヘラ描 | やや密 | 外2.5YR7/4-5V 黑 内SY2/黑 | 底筋部小片 | |
| 55 | 7806 | 縄文土器 | 鉢 | M9 | 28.5cm含層 | 底径4.7 | - | ヘラケズリ | やや粗 | 10YR7/3-5V 黄褐 | 口縁部小片 | |
| 56 | 7903 | 弥生土器 | 甕 | G7 | 28.5cm含層 | 底径9.8 | - | ヘラギヤ | やや密 | 外7.5YR7/4-5V 黄褐 内SY2/黑 | 底筋部小片 | |
| 57 | 8001 | 縄文土器 | 深鉢 | 11.3 | SD27下層 | - | - | 貼付突唇(素文)、 条痕 | 粗 | 10YR8/3-5V 黄褐 | 口縁部小片 | 黒茎・口縁端部煤付着 |
| 58 | 8004 | 縄文土器 | 鉢 | F13 | SD11(下層) | - | - | 貼付突唇(目)、条 痕 | やや粗 | 10YR7/3-5V 黄褐 | 口縁部小片 | |
| 59 | 8005 | 縄文土器 | 深鉢 | H6 | 28.5cm含層 | - | - | 貼付突唇(目)、条 痕 | やや粗 | 10YR7/3-5V 黄褐 | 口縁部小片 | |

第9表 出土土器調査表(2)

| 報告 番号 | 実測 番号 | 器種類等 質 | 器形 | 地区 | 遺跡・調査等 | | 計測値(cm) | 測定・接法の特徴 | 軸土 | 色調 | 残存 | 特記事項 |
|----------|----------|-----------|--------|-----|--------------|--------|---------|------------------------|-----|---|---------|-------------|
| | | | | | 口径 | 器高 | | | | | | |
| 60 | 8002 | 陶土器 | 鉢 | N8 | SD8 | - | - | 貼付契帯(素文) | 粗 | 7.5VR5/41.5v4 黄褐色 | 口縁部小片 | 外面焼付着 |
| 61 | 8008 | 陶土器 | 壺 | O8 | 2匁含層 | - | - | 削り出し+ヘラ彫 | やや粗 | 10YR7/31.5v4 黄褐色 | 小片 | |
| 62 | 1302 | 陶土器 | 壺 | K8 | SD8 | 頸径11.2 | - | ヘラ彫 | やや粗 | 10YR6/41.5v4 黄褐色 | 頸部/6 | 内面焼成 |
| 63 | 8007 | 陶土器 | 壺 | J5 | 包含層 | 底径7.2 | - | ナデ | やや粗 | 10YR8/31.5v4 黄褐色 | 底部完全 | 内面焼成 |
| 81 | 4602 | 陶土器 | 高杯 | G11 | SD9(SD17)P10 | 13.5 | 9.4 | ハケ彫 | やや粗 | 5YR6/6v6 | 口縁部直立完全 | |
| 95 | 1401 | 土瓶器 | 高杯 | G9 | SD8 | 24.2 | 23.3 | 孔(3.0mm) | やや密 | 5YR7/6v6 | 完全 | |
| 96 | 1102 | 土瓶器 | 脚付壺 | 不明 | SD8 | 14.2 | - | ナデ・ガキ | 密 | 10YR8/4明黄褐色 | 口縁部5/12 | |
| 99 | 3104 | 土瓶器 | 高杯 | J10 | SH12 P5 | 脚柱径4.1 | - | 施面部文・透孔 (1.0mm) | やや粗 | 7.5YR7/6v6 | 脚柱部完全 | |
| 101 | 3001 | 土瓶器 | 壺 | J9 | SH13 P3 | 10.7 | - | ナデ・ガキ | 粗 | 内7.5YR7/6v6 | 体部5/3 | |
| 102 | 2901 | 土瓶器 | 壺 | J9 | SH13 P2 | 10.8 | 23.0 | ナデ・ナタ・板ナデ | やや密 | 7.5YR7/41.5v4 黄褐色 | 3/4 | 外面摩耗 |
| 103 | 3201 | 土瓶器 | S字壺 | J10 | SH13 P4 | 17.5 | - | ナデ・ナタ | やや粗 | 10YR7/31.5v4 黄褐色 | 口縁部外側付着 | |
| 104 | 3105 | 土瓶器 | 高杯 | J9 | SH13 P1 | 脚柱径3.5 | - | ナデ・ナタ・ガキ・透 孔(3.0mm) | やや粗 | 5YR8/6v6 | 脚柱部完全 | 透孔3.3方向 |
| 105 | 4403 | 土瓶器 | 壺 | G6 | SD6下層 | 16.7 | - | ナデ・ナタ・板ナデ | 密 | 7.5YR7/41.5v4 黄褐色 | 口縁部5/12 | 口縁部に黑色釉料付着? |
| 106 | 4401 | 土瓶器 | 壺 | G6 | SD6下層 | 底径9.0 | - | ナデ・ナタ | やや粗 | 10YR8/1櫻灰 | 底部5/3 | 外面一部焼付着 |
| 107 | 4402 | 切妻須恵器 | 壺 | F6 | SD5上層 | - | - | ナタ・ナタ | やや密 | 外10YR7/31.5v4 黄褐色 内7.5YR6/41.5v4 黄褐色 | 体部小片 | 燒成不良 |
| 109 | 4603 | 土瓶器 | 高杯 | H5 | SD32 | 12.8 | - | ナデ・工具ナデ | やや粗 | 10YR7/41.5v4 黄褐色 | 口縁部1/4 | |
| 110 | 4501 | 須恵器 | 杯身 | G13 | SD24 | 11.9 | 5.2 | 回轉ナデ・回転ナタ | やや粗 | N5/灰 | 1/2 | |
| 111 | 4502 | 土瓶器 | 壺 | H12 | SD25 | 15.0 | - | ナデ・ナタ | やや粗 | 10YR8/2灰白 | 口縁部1/12 | |
| 112 | 4503 | 須恵器 | 壺 | G13 | SD25 | 29.8 | - | ナデ・破状文 | 密 | N5/灰 | 口縁部1/12 | |
| 113 | 3102 | 土瓶器 | 杯 | G8 | SH2 P1 | 17.4 | 3.2 | ナデ・アマガリ文 | 密 | 5YR6/6v6 | 口縁部2/12 | |
| 114 | 3103 | 土瓶器 | 杯 | G8 | SH2 P2 | 13.6 | 3.8 | ナデ・工具ナデ | やや粗 | 10YR7/21.5v4 黄褐色 | 口縁部6/12 | 内外面焼付着 |
| 115 | 3101 | 土瓶器 | 杯orIII | G7 | SH12 | - | - | ナデ・暗文 | 密 | 5YR8/4明茶褐色 | 底部小片 | |
| 116 | 3202 | 土瓶器 | 瓶土器 | G10 | SH18 I | - | - | ナデ | 粗 | 5YR6/6v6 | 底部小片 | |
| 117 | 4703 | 土瓶器 | 壺 | J8 | SB31(pit1) | (16.0) | 2.3 | ナデ・ガキ | やや密 | 5YR6/6v6 | 口縁部1/12 | |
| 118 | 4701 | 土瓶器 | 壺 | G7 | SB19(pit3層方) | 16.6 | 1.9 | ナデ | やや粗 | 5YR7/6v6 | 底部内外面黒斑 | |
| 119 | 4702 | 土瓶器 | 杯 | G8 | SB19(pit5) | 13.8 | 4.8 | ナデ | やや粗 | 7.5YR6/31.5v4 黄褐色 | 口縁部1/12 | |

第10表 出土土器観察表(3)

| 報告 番号 | 実測 番号 | 器種類等 質 | 器形 | 地区 | 遺構・層位等 | 計測値(cm) | | 調整・技法の特徴 | 刷上 | 色調 | 焼付 | 特記事項 |
|----------|----------|-----------|----|------|------------------------------|----------|------|------------|-----|----------------|------------|------------------|
| | | | | | | 口径 | 器高 | | | | | |
| 120 | 4704 | 土師器 | 甕 | F7 | SB19(pit3) | 23.0 | - | ナデ・ハタケ | やや密 | 7.5VR/31-5v・褐 | 口縁部2/12 | |
| 121 | 3401 | 土師器 | 杯 | K7 | SZ4 P13 | 13.0 | 3.3 | ナデ・工具ナデ | 密 | 10VR/31-5v・黄褐 | 完存 | 体部外側焼付着 |
| 122 | 3403 | 土師器 | 杯 | K7 | SZ4 P14 | 14.8 | 3.2 | ナデ・ハタケ | 密 | 5VR/6v・褐 | 口縁部9/12 | |
| 123 | 3402 | 土師器 | 杯 | K7 | SZ4 P4 | 13.0 | 3.6 | ナデ | 密 | 10VR/21-5v・黄褐 | 口縁部6/12 | |
| 124 | 3302 | 土師器 | 杯 | K7 | SZ4 P1 | 16.6 | 4.1 | ナデ | 密 | 外5VR/6v・褐 | 口縁部9/12 | |
| 125 | 3301 | 土師器 | 皿 | K7 | SZ4 P2 | 17.8 | 2.8 | ナデ・ハタケ・洗・磨 | 密 | 内7.5VR/5v・洗黄褐 | 底部外側焼付着 | [知] |
| 126 | 3404 | 土師器 | 杯 | K7 | SZ4 P18 | 11.8 | 3.4 | ナデ | 密 | 内10VR/31-5v・黄褐 | 完存 | |
| 127 | 3602 | 土師器 | 鉢 | K7 | SZ4 P10 | - | - | ナデ・ハタケ・カヌリ | やや粗 | 7.5VR/8v・洗黄褐 | 体部小片 | |
| 128 | 3601 | 土師器 | 甕 | K7 | SZ4 P7 | 23.9 | - | ナデ・ハタケ | 粗 | 内10VR/31-5v・黄褐 | 口縁部3/12 | 外側下部少しき焼付着 |
| 129 | 3501 | 土師器 | 甕 | K7 | SZ4 P3-5-6 | 24.1 | - | ナデ・ハタケ・カヌリ | やや密 | 10VR/41-5v・黄褐 | 外側下部少しき焼付着 | |
| 130 | 3701 | 土師器 | 甕 | K7 | SZ4 P8-12-17-19 試掘D1b-1-2 | 27.0 | - | ナデ・ハタケ | 密 | 10VR/41-5v・黄褐 | 口縁部少しき焼付着 | |
| 131 | 3904 | 土師器 | 杯 | K9 | SZ14 P2 | 13.4 | 3.2 | ナデ | やや粗 | 7.5VR/7v・褐 | 口縁部1/6 | 外側下部少しき焼付着 |
| 132 | 3902 | 土師器 | 皿 | K9 | SZ14 P6 | 16.6 | 2.4 | ナデ | やや密 | 2.5VR/6v・褐 | 口縁部1/12 | 外側下部少しき焼付着 |
| 133 | 3903 | 土師器 | 杯 | K9 | SZ14 P6 | 12.2 | 3.4 | ナデ | やや密 | 10VR/31-5v・黄褐 | 口縁部1/24 | 外側下部少しき焼付着 |
| 134 | 3802 | 須恵器 | 杯 | K9 | SZ14 P1 | 13.1 | 4.6 | 回転ナデ・貼付ナデ | 粗 | 2.5VR/7v・灰白 | 6/12 | 焼成不良 |
| 135 | 3901 | 土師器 | 甕 | K9 | SZ14 P8-13 | 26.1 | - | ナデ・ハタケ | やや粗 | 5VR/41-5v・褐 | 口縁部1/12 | 外側及下部断面に一部焼付着 |
| 136 | 3801 | 土師器 | 甕 | K9 | P10-12-17-19-21 | 25.6 | - | ナデ・ハタケ | やや粗 | 10VR/31-5v・黄褐 | 口縁部6/12 | 外側下部少しき焼付着 |
| 137 | 4001 | 土師器 | 鍋 | K9 | SZ14 P1-14-18 | 51.6 | - | ナデ・ハタケ | やや粗 | 5VR/41-5v・褐 | 口縁部1/12 | 体部外側焼付着 |
| 138 | 4103 | 土師器 | 杯 | O6 | SK48 | (14.4) | - | ナデ | やや密 | 2.5VR/6v・淡赤褐 | 口縁部1/12 | |
| 139 | 4201 | 土師器 | 甕 | O6 | SK48下層 P1 | 体最大径25.6 | - | ナデ・ハタケ・カヌリ | やや密 | 7.5VR/41-5v・褐 | 体部3/4 | 体部外側焼付着 |
| 140 | 4101 | 土師器 | 高杯 | O6 | SK48上層 | 脚柱径4.4 | - | ナデ・面取(5方向) | やや粗 | 5VR/6v・褐 | 脚柱部完存 | |
| 141 | 4301 | 土師器 | 甕 | I-10 | SE15 P1-2 包含層 | 底径13.4 | - | ナデ・ハタケ・カヌリ | やや密 | 10VR/6v・淡黄褐 | 底部3/12 | 体部外側へテラ掘、被熱による黄色 |
| 142 | 702 | 土師器 | 杯 | 112 | SE26 柄内 | 16.2 | 4.5 | ナデ・カヌリ | やや密 | 7.5VR/6v・褐 | 1/5 | |
| 143 | 701 | 須恵器 | 杯 | 112 | SE26 柄内 | 12.2 | 4.0 | 回転ナデ・回転カヌリ | やや密 | 5Y6/1灰 | 1/2 | |
| 144 | 801 | 土師器 | 甕 | 113 | SE26 柄内 No.2 | 17.0 | 12.8 | ナデ・ハタケ・カヌリ | 密 | 10VR/31-5v・黄褐 | ほぼ完存 | 外側全体焼付着 内面炭化物附着 |
| 145 | 602 | 土師器 | 甕 | 113 | SE26 柄内 No.1 | 16.2 | 15.0 | ナデ・ハタケ・カヌリ | 密 | 10VR/31-5v・黄褐 | ほぼ完存 | 外側全体焼付着 内面炭化物附着 |

第11表 出土土器総観表(4)

| 報告 番号 | 実測 番号 | 器形 | 地区 | 遺構・層位等 | | 計測値(cm) | 調整・接法の特徴 | 刷土 | 色調 | 残存 | 特記事項 |
|----------|------------|------|-----|----------------|--------|-------------|----------------------------|--------|-----------------------------|-------------|-----------------------------|
| | | | | 口径 | 高さ | | | | | | |
| 146 601 | 土師質 土瓶 | 土瓶 | 113 | SE26 | No.2 | 径2.7 | 長36.5 ナデ | やや密 | 2.5YR7/2E 黄 | 完好 | 重さ47.4g 外面に軽微痕 よく施き土足 |
| 148 4506 | 瓦 | 平瓦 | 112 | SD27下層 | - | - | 内面布目模 | やや粗 | N4/灰 | 小片 | 南伊勢系 |
| 149 4504 | 土師器 | 小皿 | O8 | SD27上層 | 8.0 | 1.1 ナデ | - | 密 | 10YR7/31-5E 黄褐 | 口縁部1/4 | 口縁部1/4 使用痕有 磨美 |
| 150 4507 | 陶器 | 椀 | J12 | SD27上層 | 底径6.7 | - | ロクナデ・貼付ナデ | やや密 | N7 医白 | 底部完存 | 使用痕有 磨美 |
| 151 4505 | 土師質 土瓶 | 土瓶 | N8 | SD27上層 | 径1.3 | 長33.2 ナデ | - | 内面布目模 | やや密 | 10YR6/2E 黄褐 | 完好 |
| 152 6402 | 須恵質 丸瓦 | 丸瓦 | J13 | 2包含層 | - | - | ナデ・脚點付 | やや密 | 2.5Y7/医白 | 小片 | よく施き土足 |
| 153 6401 | 須恵質 円函瓶 | 円函瓶 | J13 | 2包含層 | - | - | ロクナデ・貼付ナデ | やや密 | 2.5Y6/1 黄灰 | 小片 | 正立施成 隆起墨痕・摩毛 |
| 154 6301 | 土師質 土瓶 | 土瓶 | N12 | 2包含層 | 径2.1 | 長36.5 ナデ | - | ナデ・脚點付 | 密 | 10YR6/2E 黄褐 | 完好 |
| 155 5901 | 陶器 | 椀 | K10 | (青灰色砂層) 包含層 | 底径7.2 | - | ロクナデ・貼付ナデ | 密 | 5Y7/医白 | 底部完存 | 稍豊痕 使用痕有 磨美 |
| 156 5902 | 陶器 | 椀 | K10 | (青灰色砂層) 包含層 | 底径7.2 | - | ロクナデ・貼付ナデ | 密 | 5Y7/1 黄褐 | 底部完存 | 砂粒痕 使用痕有 磨美 |
| 161 5002 | 外生土器 | 甕 | 110 | 包含層 | 底径6.8 | - | ナデ・ナメ・ナカニ | やや粗 | 10YR6/31-5E 黄褐 | 底部1/4 | 外部裝付曾 |
| 162 5005 | 土師器 | 壺 | G12 | 包含層 | - | - | ナデ・羽状彫 | やや粗 | 5YR6/6 棕 | 口縁部小片 | 大豐式瓶底一部焼付着 |
| 163 5004 | 土師器 | 壺 | F11 | 包含層 | - | - | ナデ・羽状彫 | やや粗 | 5YR6/6 棕 | 口縁部小片 | 大豐式瓶底 |
| 164 4901 | 土師器 | 壺 | K8 | 包含層 | 17.2 | - | ナデ・脚付ナデ | やや粗 | 5YR6/6 棕 | 口縁部1/6 | |
| 165 5303 | 土師器 | 甕 | K8 | 包含層 | 15.2 | - | ナデ・ナメ・押しきり | やや粗 | 10YR6/1 棕灰 | 口縁部2/12 | |
| 166 5001 | 土師器 | 高杯 | G12 | 包含層 P1 | 20.4 | - | ナデ・ナメ・押しきり・端 擦文・透孔(3方回) | やや粗 | 5YR6/8 棕 | 脚生部完存 | |
| 167 5304 | 土師器 | 小型器台 | H12 | 包含層 | 6.4 | - | ナデ・工具ナデ | やや密 | 5YR7/41-5E 棕 | 口縁部3/12 | |
| 168 5302 | 土師器 | 高杯 | H7 | 包含層 | 20.6 | - | ナデ | やや密 | 2.5YR5/6 明治褐 | 口縁部1/12 | |
| 169 5003 | 土師器 | 高杯 | I7 | 包含層 | 14.6 | - | ナデ | やや粗 | 5YR6/6 棕 | 口縁部2/3 | 外面焼付着 |
| 170 4902 | 土師器 | 壺 | G8 | 包含層 | 18.6 | - | ナデ・ナメナメ | 粗 | 10YR6/2E 黄褐 | 口縁部2/3 | |
| 171 5301 | 土師器 | 甕 | H7 | 包含層 | (16.4) | - | ナデ・ナメナメ | やや粗 | 7.5YR6/31-5E 棕 | 口縁部3/12 | |
| 172 5305 | 土師器 | 鉢 | H7 | 包含層 | - | - | ナデ・ナメナメ | 粗 | 7.5YR7/31-5E 棕 | 口縁部小片 | |
| 173 5103 | 初期須恵器 | 把手付椀 | J5 | 包含層 | 11.2 | - | ナデ・波状文・無ナ ケス | 密 | 10Y5/1 医白 | 口縁部1/12 | |
| 174 5206 | 須恵器 | 杯蓋 | H12 | 包含層 | 13.4 | - | 回転ナデ・回転ナメ | 密 | N6/灰 | 2/12 | |
| 175 5205 | 須恵器 | 杯身 | H12 | 包含層 | 11.0 | 3.8 | 回転ナデ・回転ナメ | やや粗 | 5Y6/1 棕 | 3/12 | 内面に当具痕 |
| 176 5204 | 土師器 | 杯 | 110 | 包含層 | 13.8 | 3.1 | ナデ | 密 | 外5YR6/41-5E 棕 内5YR6/1 棕灰 | 口縁部1/12 | |

第12表 出土土器類総表(5)

| 報告 番号 | 実測 番号 | 器種類等 質 | 器形 | 地区 | 遺構・層位等 | | 計測値(cm) | 測定の特徴 | 土 | 色調 | 残存 | 特記事項 | |
|----------|----------|-----------|-----|-----|----------|--------|---------|-------------|-------------|------------------|---------|------------------|------------|
| | | | | | 口径 | 器高 | | | | | | | |
| 177 | 5702 | 土師器 | 杯 | G10 | 包含層 | 18.7 | 3.9 | ナデ・タガリ | 密 | 2.5TR6/64 | 口縁部4/12 | 外面部付着底部墨書き | |
| 178 | 5701 | 土師器 | 皿 | F10 | 包含層(排水溝) | 15.9 | 2.7 | ナデ・タガリ | やや粗 | 5TR6/64 | 5/12 | | |
| 179 | 5302 | 須恵器 | 皿 | G8 | 包含層 | 18.4 | 2.1 | 回転ナデ・回転タガリ | やや密 | 10YR6/25黄褐色 | 口縁部2/12 | | |
| 180 | 5203 | 土師器 | 皿 | G8 | 包含層 | (19.2) | (1.9) | ナデ | やや密 | 2.5TR6/64 | 口縁部1/12 | | |
| 181 | 5201 | 須恵器 | 杯 | G10 | 包含層 | 23.0 | 4.1 | 回転ナデ・回転タガリ | 密 | 10YR6/25黄褐色 | 口縁部3/12 | 内外面及下方断面に一部焼付着 | |
| 182 | 5703 | 須恵器 | 長頸壺 | M13 | 包含層(排水溝) | 底径15.6 | - | ロカナナデ・貼付けナデ | 密 | N7灰白 | 体部2/12 | | |
| 183 | 5601 | 土師器 | 甕 | F9 | 包含層(排水溝) | 16.2 | - | ナデ・タガリ・タケナシ | やや粗 | 7.5TR6/41-55v・慢 | 口縁部4/12 | 体部内外面及工具痕・少擦 | |
| 184 | 5401 | 土師器 | 甕 | G7 | 包含層 | 25.2 | - | ナデ・タケナシ | 密 | 2.5Y7/3浅黄 | 口縁部2/12 | | |
| 185 | 5402 | 土師器 | 甕 | F10 | 包含層(排水溝) | 25.2 | - | ナデ・タケナシ | 密 | 10YR6/31-55v・黄褐 | 口縁部1/12 | 外面部全面焼付着 | |
| 186 | 5501 | 土師器 | 甕 | O6 | 包含層(排水溝) | 37.6 | - | ナデ・タケナシ | やや密 | 10YR7/41-55v・黄褐色 | 口縁部3/12 | 口縁部全面焼付着 | |
| 187 | 5706 | 土師質 | 甕 | H10 | 包含層 | - | - | ナデ・タケナシ | やや粗 | 7.5TR6/41-55v・慢 | つば部3/12 | 内面焼付着 | |
| 188 | 5704 | 土師質 | 甕 | H10 | 包含層 | - | - | ナデ・タケナシ | やや粗 | 5TR6/41-55v・慢 | 天井部小片 | | |
| 189 | 6302 | 土師器 | 皿 | N8 | 包含層 | 15.0 | 3.3 | ナデ・タケナシ | やや密 | 7.5TR6/64 | 5/6 | | |
| 190 | 6001 | 陶器 | 小皿 | 素採 | - | 8.6 | 2.2 | ロカナナデ | 密 | 5Y7/1灰白 | 完存 | 使用痕有知多 | |
| 191 | 5803 | 陶器 | 小皿 | 虹張区 | 包含層(シルト) | 7.2 | 1.6 | ロカナナデ | 密 | 7.5Y7/1灰白 | 完存 | 使用痕有知多 | |
| 192 | 6002 | 陶器 | 小皿 | F13 | 包含層(排水溝) | 9.8 | 1.3 | ロカナナデ | 密 | 2.5Y7/1灰白 | 1/4 | 使用痕有知多 | |
| 193 | 6003 | 陶器 | 小皿 | L11 | 包含層 | 8.2 | 1.6 | ロカナナデ | 密 | 5Y7/1灰白 | 底部完存 | 使用痕有知多 内面自然剥離 | |
| 194 | 6201 | 陶器 | 椀 | N9 | 包含層 | 底径7.2 | - | ロカナナデ・貼付けナデ | 密 | 5Y7/1灰白 | 底部完存 | 使用痕有知多 | |
| 195 | 5804 | 陶器 | 椀 | I12 | 包含層 | 底径7.0 | - | ロカナナデ・貼付けナデ | 密 | 2.5Y7/1灰白 | 底部完存 | 研磨痕 使用痕有知多 | |
| 196 | 5801 | 陶器 | 椀 | J11 | 包含層 | 底径7.7 | - | ロカナナデ・貼付けナデ | 密 | 5Y7/1灰白 | 底部完存 | 研磨痕 使用痕有知多 | |
| 197 | 6101 | 陶器 | 椀 | I13 | 包含層 | 底径7.2 | - | ロカナナデ・貼付けナデ | 密 | 7.5Y7/1灰白 | 底部1/2 | 使用痕有知多 内面墨脱 | |
| 198 | 5802 | 土師質 | 土鍋 | G12 | 包含層 | 口径2.1 | 長さ4.6 | ナデ | やや密 | 2.5Y6/25黄 | 完存 | 底辺18.8g | |
| 205 | 104 | 瓦 | 平瓦 | A-3 | グリッド | - | - | 外面部全面 | 粗 | 2.5Y7/1灰白 | 小片 | 摩耗激しい、 | |
| 206 | 102 | 土師器 | 皿 | D-1 | トレンチ | 12.0 | 3.0 | ナデ | 密 | 2.5TR6/64 | 口縁部1/12 | | |
| 207 | 103 | 陶器 | 椀 | 試掘 | C-1 | トレンチ | 底径7.7 | - | ロカナナデ・貼付けナデ | やや粗 | N7灰白 | 底部6/12 | 朽變痕 使用痕有知多 |

第13表 出土土器観察表(6)

| 編番 | 実物 番号 | 器種 等分 | 器種 名 | 固有 番号 | 地区 | 遺構・部位等 | 計測値(cm) | 測量・採集の特徴 | 出土 | 色調 | 保存 | 特記事項 | 伝承 | 体部内面 | 体部下部 | 外面部 | 内部裏面 | 体部上部 | 周囲 | |
|-----|----------|----------|-----------|--------------------|---------|--------|---------|----------|-----|--------------------|----------|-----------|----------|------|------|-----|------|------|----|---|
| 64 | 2801 | 学生・湯 瓢 | 1.1.1-M10 | SX39 P4-5-2+13 | 1.1.1.6 | 底板 | 51.7 | | 今々相 | 10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 体部1/4 | | | | | | | | | |
| 65 | 501 | 学生・湯 瓢 | 1.1.1 | SX39 P2 | 11.6 | 底板 | 29.4 | | 今今相 | 7.5/97/4/2-5-1 黄褐色 | 口縁部・底部完存 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 66 | 2802 | 学生・湯 瓢 | 1.1.1 | SX39 P3 2包含層 | 12.3 | 底板 | - | | 今今相 | 10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 口縁部・底部完存 | 記号:222/9 | 今 | a | a | a | a | a | 板 | |
| 67 | 2801 | 学生・湯 瓢 | K10 | SX39 P1 | 9.8 | 底板 | - | | 今今相 | 10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 口縁部完存 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 68 | 2802 | 学生・湯 瓢 | K13 | SX39 P1 | 9.8 | 底板 | - | | 今今相 | 10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 口縁部完存 | 記号:222/9 | 今 | a | a | a | a | a | 板 | |
| 69 | 2802 | 学生・湯 瓢 | M10 | SX39 P12 | 底板 | 8.8 | - | | 今今相 | 10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 被塗上に変形 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 71 | 1901 | 学生・湯 瓢 | 111 | SX16(SD17)P9 | 底板 | 19.3 | - | | 今今相 | 外10/96/4/2-5-1 黄褐色 | 体部完存 | 体部外側下部保付 | 今 | a | b | b | b | b | 板 | |
| 72 | 2101 | 学生・湯 瓢 | 110 | SX16(SD17)P1 | 6.4 | 底板 | 25.4 | | 今今相 | 外10/96/4/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底下部底板充孔 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 73 | 1801 | 学生・湯 瓢 | 111 | SX16(SD17)P10 | 9.7 | 底板 | 25.9 | | 今今相 | 外10/96/4/2-5-1 黄褐色 | 体部外側底板充付 | 記号:222/9 | 今 | a | b | b | b | b | 板 | |
| 74 | 2401 | 学生・湯 瓢 | 111 | SX16(SD17)P7 | 19.0 | 底板 | 26.5 | | 今今相 | 外10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側木漆木質質 | 今 | a | a | a | a | a | 板 | |
| 75 | 2201 | 学生・湯 瓢 | 110 | SX16(SD17)P2 | 18.3 | 底板 | - | | 今今相 | 外10/96/4/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 被塗上に変形 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 76 | 2201 | 学生・湯 瓢 | 110-110 | SX16(SD17) 上ノリテ | 底板4.3 | 底板 | - | | 今今相 | 外10/96/4/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側底板充孔 | 今 | a | a | a | a | a | 板 | |
| 77 | 1701 | 学生・湯 瓢 | 110-111 | SX16(SD17)2包含層 | 8.9 | 底板 | - | | 今今相 | 外10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 底部外側底板充付 | 記号:222/9 | 今 | a | a | a | a | a | 板 | |
| 78 | 2001 | 学生・湯 瓢 | 111 | SX16(SD17)P4 | 8.8 | 底板 | 21.5 | | 今今相 | 外10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側底板充孔 | 今 | a | a | a | a | a | 板 | |
| 79 | 2501 | 学生・湯 瓢 | K11 | SX16(SE20) | 底板 | 17.9 | 18.5 | | 今今相 | 外10/96/4/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 被塗上に変形 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 80 | 1601 | 学生・湯 瓢 | J11 | SX16 P1 | 底板 | 8.9 | | | 今今相 | 外10/96/4/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 被塗上に変形 | 今 | a | a | a | a | a | 板 | |
| 82 | 4601 | 学生・湯 瓢 | G11 | SD49(SD17)P11 | 7.7 | 底板 | - | | 今今相 | 外10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側底板充付 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |
| 83 | 2001 | 学生・湯 瓢 | H7 | SX6 P1 | 10.4 | 底板 | 32.3 | | 今今相 | 外10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側底板充孔 | 今 | a | a | a | a | a | 板 | |
| 84 | 2002 | 学生・湯 瓢 | 117 | SX6 P3 | 10.8.3 | 底板 | - | | 今今相 | 外10/96/4/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側底板充付 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |
| 85 | 301 | 学生・湯 瓢 | H7 | SX6 P2 | 13.6 | 底板 | 17.7 | | 今今相 | 外10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側底板充付 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |
| 86 | 901 | 学生・湯 瓢 | H7 | SX6 P1 | 12.9 | 底板 | 28.3 | | 今今相 | 外10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側底板充付 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |
| 87 | 1001 | 学生・湯 瓢 | 117 | SX6 P2 | 12.0 | 底板 | 34.9 | | 今今相 | 外10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側底板充付 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |
| 88 | 1501 | 学生・湯 瓢 | 119 | SX8 | 19.1 | 底板 | 37.0 | | 今今相 | 10/98/2/2-5-1 黄褐色 | 体部1/2 | 体部下部底板穿孔 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 89 | 4601 | 学生・湯 瓢 | K8 | SX8 P3 | 9.8 | 底板 | - | | 今今相 | 10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 体部1/2 | 体部下部底板穿孔 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 90 | 1101 | 学生・湯 瓢 | G9 | SX8 | 11.4 | 底板 | - | | 今今相 | 10/98/2/2-5-1 黄褐色 | 体部1/2 | 体部下部底板穿孔 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 91 | 1104 | 学生・湯 瓶 | K8 | SX8 | 10.2 | 底板 | - | | 今今相 | 7.5/98/4/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側底板充付 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |
| 92 | 1202 | 学生・湯 瓶 | J8 | SX8 | - | 底板 | - | | 今今相 | 7.5/98/4/2-5-1 黄褐色 | 底部完存 | 底部外側底板充付 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |
| 93 | 1201 | 学生・湯 瓶 | 19-K8 | SX8 | 体部54.1 | - | | | 今今相 | 10/98/2/2-5-1 黄褐色 | 体部1/2 | 体部下部底板穿孔 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 94 | 1201 | 学生・湯 瓶 | J8 | SX8 P1 | 16.4 | 底板 | 23.1 | | 今今相 | 10/97/2/2-5-1 黄褐色 | 体部1/2 | 体部下部底板穿孔 | 今 | b | b | b | b | b | 板 | |
| 95 | 1103 | 学生・湯 瓶 | J8 | SX8 | 底板3.3 | - | | | 今今相 | 7.5/98/4/2-5-1 黄褐色 | 体部1/2 | 体部下部底板充付 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |
| 157 | 1801 | 学生・湯 瓶 | G11 | SX17-3 | 28.6 | 底板 | - | | 今今相 | 7.5/98/4/2-5-1 黄褐色 | 体部1/2 | 体部下部底板充付 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |
| 158 | 1102 | 学生・湯 瓶 | F9 | 包含層 | 底板3.0 | - | | | 今今相 | 10/98/2/2-5-1 黄褐色 | 体部1/2 | 体部下部底板充付 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |
| 160 | 1003 | 学生・湯 瓶 | L7 | SX8 | 底板0.0 | - | | | 今今相 | 7.5/98/4/2-5-1 黄褐色 | 体部1/2 | 体部下部底板穿孔 | 記号:222/9 | 今 | a | a | a | a | a | 板 |
| 161 | 1003 | 学生・湯 瓶 | K8 | 包含層 | 29.1 | - | | | 今今相 | 7.5/98/4/2-5-1 黄褐色 | 体部1/2 | 体部下部底板穿孔 | 記号:222/9 | 今 | b | b | b | b | b | 板 |

第14表 出土土器(弥生中期)観察表(7)

| 報告番号 | 実測番号 | 器種 | 石材 | 地区 | 遺構・層位等 | 計測値 | | | 特記事項 |
|------|------|------|--------------------------|-----|--------------------|--------|--------|--------|------------------------|
| | | | | | | 縦(cm) | 横(cm) | 厚さ(cm) | |
| 13 | 6801 | 石鑿 | サヌカイト 緑色岩 (片岩ではない) | H7 | 3上層大畔 | 3.09 | 1.81 | 0.50 | 1.9 完存 |
| 16 | 6802 | 磨製石斧 | サヌカイト | I6 | 3上層耕作土 | (3.83) | (1.95) | (0.41) | (4.2) — |
| 26 | 6702 | 石鑿 | サヌカイト (片岩ではない) | M8 | SD41 | 2.24 | 1.31 | 0.24 | 0.8 完存 |
| 27 | 7002 | 石鑿 | 下呂石 | I8 | 3層 | (1.78) | 1.38 | 0.45 | (0.8) ほぼ完存 |
| 31 | 6901 | 石鑿 | 下呂石 | H7 | 2b下層 | (2.17) | 1.57 | 0.32 | (0.8) ほぼ完存 |
| 32 | 6902 | 石鑿 | サヌカイト | I6 | 2b下層 (SD41-8重複) | (2.59) | 1.68 | 0.36 | (1.3) ほぼ完存 |
| 36 | 7003 | 石鑿 | サヌカイト | G8 | 2b包含層 | (3.52) | 1.20 | 0.59 | (2.0) ほぼ完存 |
| 70 | 6502 | 砥石 | 砂岩 | N10 | SX29 | (5.50) | (3.00) | (2.40) | (37.4) 小片 3面研磨 |
| 98 | 6701 | 石鑿 | サヌカイト | L8 | SD8 | 3.91 | 1.91 | 0.62 | 3.1 完存 |
| 100 | 6503 | 敲石 | — | H10 | SH12(SD17) | 8.95 | 7.60 | 3.10 | 294.8 敲打痕 完存 |
| 108 | 6501 | 双孔円板 | 滑石 | G6 | SD5上層 | (2.30) | (2.30) | 0.50 | (4.2) ほぼ完存 |
| 199 | 7001 | 石鑿 | サヌカイト | G8 | SH2 | 2.12 | 2.15 | 0.32 | (1.0) 完存 |
| 200 | 6601 | 敲石 | — | I7 | 包含層 | 10.00 | 9.10 | 3.80 | 500 敲打痕 完存 |
| 201 | 6602 | 敲石 | — | K8 | 包含層 | 9.55 | 6.70 | 3.30 | 298 敲打痕 完存 |
| 202 | 6603 | 砥石 | 軽石 | G6 | 包含層 | 5.40 | 5.30 | 3.30 | 22.0 2面研磨 完存 |
| 203 | 5101 | 双孔円板 | 滑石 | G6 | 包含層 | 2.25 | 2.7 | 0.35 | (3.4) ほぼ完存 |
| 204 | 5102 | 砥石 | — | G12 | 包含層 | (5.75) | 4.3 | 1.7 | (59.5) 5面研磨 ほぼ完存 |

第15表 出土石器観察表

| 報告番号 | 実測番号 | 種別 | 名称 | 地区 | 遺構・層位等 | 計測値 | | | 特記事項 |
|------|------|----|----|----|--------|-------------|--------|------|------|
| | | | | | | 径(cm) | 厚さ(cm) | 木取り | |
| 147 | 木101 | 井筒 | 剣物 | I3 | SE26 | 底径51.5×44.8 | 7.2 | 削り抜き | クスノキ |

第16表 出土木器観察表

V 14工区調査の成果－基本層序と遺構－

1 調査区の基本層序

14工区の調査では、調査区東端から検出作業を行ったが、遺構密度が極めて低い状態であったため、再度調査区内にトレンチを設定し、層序の確認および遺構の存在の把握につとめた（第56・57図）。

基本層序は、第1層：灰色シルト、第2層：黄灰色細砂、第3層：灰黄色細砂、第4層：明青灰色砂、第10層：褐灰色粘質土である（第57図）。このうち第2層：黄灰色細砂、第3層：灰黄色細砂が包含層である。検出は第4層：明青灰色砂面上で行った。但し、調査区内に設定したトレンチの土層観察の結果、調査区内においても地点によっては大きく層序が異なることが判明した。調査区の中央をほぼ南北方向に縦断する形で、黄色粗砂層の堆積がみとめられる。この粗砂層は表土直下から第10層：褐灰色粘質土面上まで堆積している。また、粗砂層の堆積がみとめられない調査区東端・西端においては、ほぼ基本層序が確認できるが、包含層は調査区全体に堆積しているのではなく、部分的に残存しているのみである。

なお、排水溝掘削時には、第10層：褐灰色粘質土層まで掘削によよんだが、大量の湧水があった。また、調査区南端部分には、調査開始直前まで建物があり、その建築の際に受けたと考えられる擾乱がみとめられた。

調査区中央の浅黄色粗砂層にも遺物が含まれる。この粗砂は、おそらくは中世あたりにおこった、河川の氾濫によって運ばれてきた土砂と考えられる。したがって、粗砂に含まれる遺物も土砂と共に運ばれてきた可能性も考えられる。

県道をはさんで隣接する、同遺跡内の13工区と14工区とは30mしか離れていないにもかかわらず、層序は大きく異なる。13工区では標高3.0～3.2mで弥生時代から中世にいたる遺構面（上層）と、さらに標高2.8mで弥生時代前期の遺構面が確認されているのに対し、14工区では標高3.0mで中世前期の遺構面を確認している。13工区における包含層及び遺構検出面は、14工区内ではみとめられなかった。

今回の調査以前に、当時の建設者が行ったボーリ

ング調査によれば、旧地形は13工区から14工区に向かって急激に落ち込む谷地形であったことが確認されている。調査終了時に実行した地質調査においても、14工区部分は元来、後背湿地であったことが確認されている。したがって、13工区地区で生活が営まれていた時期にも、当地は居住には適さない地区であったと考えられる。

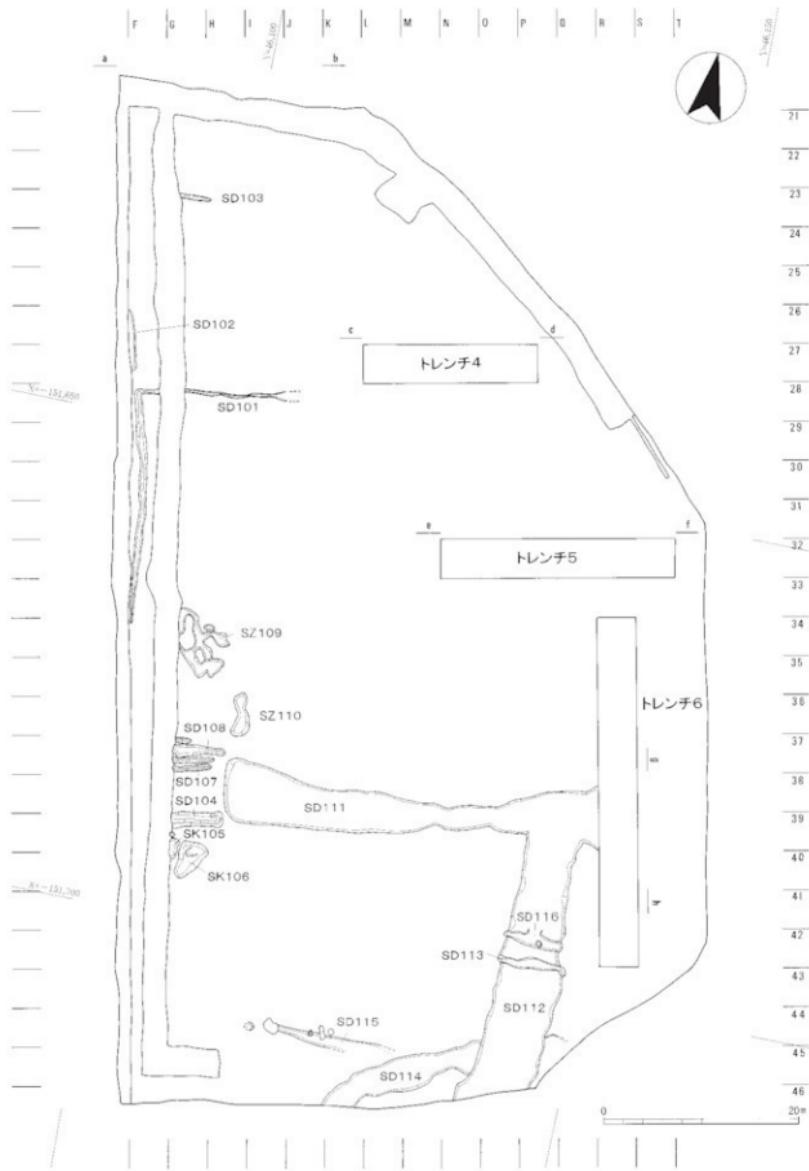
2 遺構

今回の調査では、溝12条、土坑2基、およびピット7基を確認した。ピットも全てが点在する状態であり、建物の存在を示す痕跡は確認できなかった。遺構密度が非常に低いことに加え、遺構からの遺物出土量は極端に少なく、全ての遺構の時期決定が困難であった。出土遺物を概観すれば、中世の遺物が最も多く、おそらくは遺構の時期も中世を中心とし、それよりも古くは遡らないと言えるが、詳細な時期決定を行うことはできない。したがって、ここでは各遺構の形状および出土遺物の内容についてのみ述べることとした。また、ここで述べなかった遺構の概略に関しては、遺構一覧表（第17表）中に示した概要を参照されたい。なお、調査時においては便宜上、13・14工区別個に1から遺構番号を付していたが、本報告に際しては重複を避けるため、14工区内の調査区中の遺構番号は101から付すこととする。

土坑S K 106（第56・58図） 調査区南西に位置する。長軸4.1m、短軸2.7mの不整円形である。底面の中央部はほぼ円形に落ち込み、検出面下0.35mで湧水を確認した。埋土は暗灰黄色砂質土である。遺物は主に遺構肩部に堆積していた埋土中に含まれていた。出土遺物には藤澤良祐氏による山茶椀編年⁽¹⁾（以下、山茶椀編年と省略）の5型式の陶器小皿がみられる。

溝S D 114（第56図） 調査区南端に位置する。幅1.96～3.74m、深さ0.03～0.18mである。平面形はS D 112に切られる。溝方向はE30° Nである。出土遺物には、山茶椀編年5型式の陶器小皿が含まれる。

溝S D 102（第56・59図） 調査区北西に位置する。



第56図 14工区遺構平面図 (1:500)

調査区北壁



トレンチ5北壁



トレンチ5北壁



- 1 ハニカム色シルト
2 25ヤード(真灰色)砂
3 10ヤード(真灰色)砂
4 10ヤード(真灰色)砂
5 10ヤード(真灰色)砂
6 25ヤード(真灰色)砂
7 6ヤード(真灰色)砂
8 6ヤード(真灰色)砂
9 10ヤード(真灰色)砂
10 10ヤード(真灰色)砂
11 25ヤード(真灰色)砂
12 8ヤード(真灰色)砂 (ただし、Pc付箇所)

トレンチ5東壁



第57図 土層断面図（1:100）

S D 101同様に範囲確認調査で検出された遺構である。幅0.2~0.5m、深さ0.03~0.17mである。遺構の大半は調査区外へのびる。溝方向は、N 17° Wであり、S D 101のI 28以南の溝方向とほぼ一致する。あるいは、S D 101の南北方向にのびる部分と同一遺構である可能性も考えられよう。出土遺物は極微量で細片が多いが、陶器焼成片が含まれる。

溝 S D 103（第56図） 調査区北端に位置し、幅約0.6m、深さ0.03~0.17mである。S D 101との間隔は20mであり、溝方向も全長3.2mと短いため不確定ではあるが、ほぼ平行である。出土遺物は全くみとめられず、時期は不明である。溝方向がそろうS D 101と同時期のものか。

溝 S D 104（第56図） 調査区南西に位置し、幅1.4~1.9m、深さ0.06~0.18mである。西半は排水溝に切られる。溝方向は、E 12° Nである。あるいは後述するS D 111と同一遺構の可能性もある。出土遺物には、山茶椀編年の5型式の陶器碗がみられる。

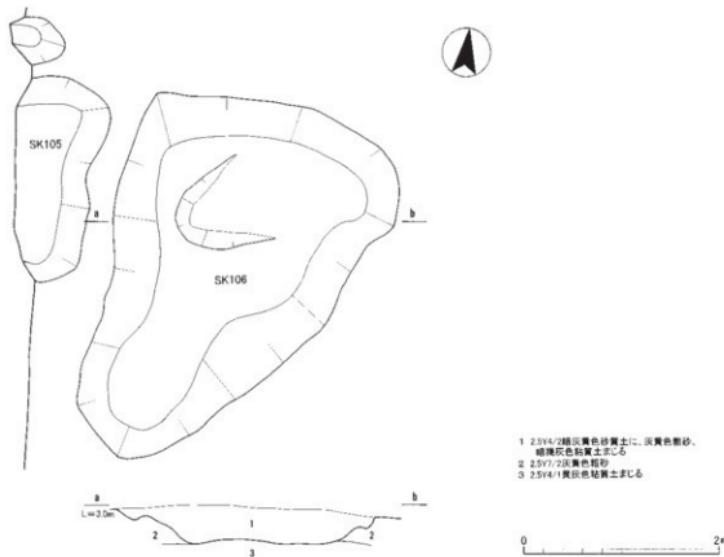
落ち込み S Z 109（第56図） 調査区中央西に位置し、幅0.28~1.4m、深さ0.05~0.19mである。平面

形はほぼ環状にめぐるが、不定形であり、人為的な掘削に伴うものとは考えにくく、落ち込みと判断した。出土遺物には、平安時代の土師器もみとめられるが、山茶椀編年の5型式の陶器碗がみられる。

溝 S D 112（第56・60図） 調査区南端に位置する。幅5.04~6.60m、深さ0.06~0.26mである。後述のS D 111とは、Q39~40グリッドでほぼ直角に合流する。また、S D 113、S D 116に切られる形になっている。溝方向はN 0° Wである。これは後述のS D 111のI 28以南の溝方向とおおむね一致する。出土遺物には、土師器小皿や、陶器などがある。

溝 S D 113（第56図） 調査区南端に位置する。S D 112を切る。出土遺物には伊藤裕氏による南伊勢系鍋の編年⁽²⁾（以下、南伊勢系鍋編年と省略）第1段階b型式の土師器鍋が含まれる。

溝 S D 101（第56・59図） 調査区北西に位置し、幅0.6~1.2m、深さ0.07~0.29mである。I 28グリッドでほぼ直角に屈曲し、東方向にのびる。また遺構の南端は調査区外へのびる。前年度に行った範囲確認調査で検出された遺構である。溝方向は、I 28



第58図 土坑SK 106平面図・断面図（1:50）

グリッド以南がN17°W、128グリッド以東がE10°Nである。出土遺物は極微量であったが、南伊勢系鍋編年第1段階b型式の土師器鍋が含まれる。

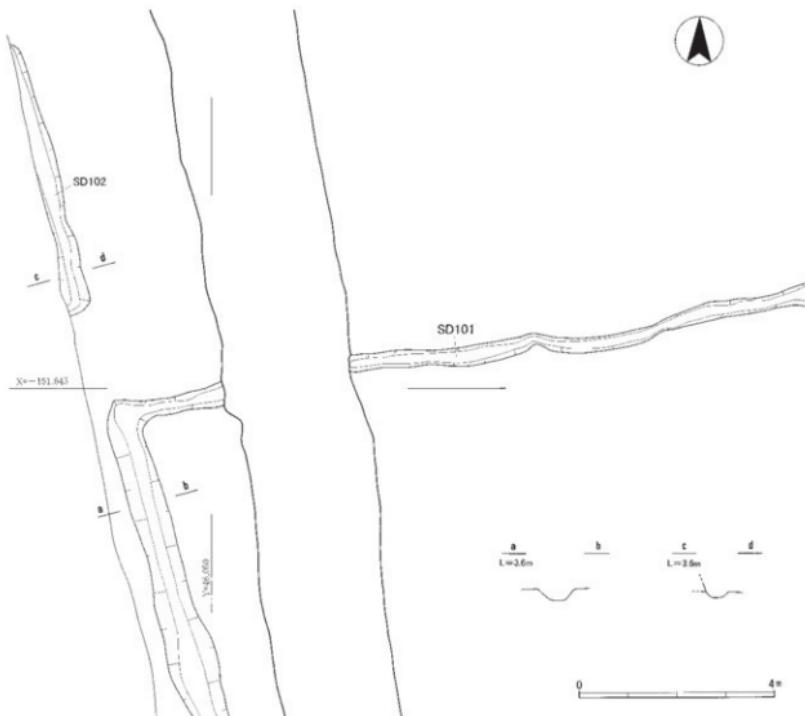
溝SD111(第56・60図) 調査区中央南に位置する。トレンチ6調査時に検出した。幅1.82~6.60m、深さ0.02~0.33mである。埋土は灰色砂混じりシルトであり、完掘時には底面で若干の湧水がみられた。溝方向はE8°Nである。これは前述のSD101、103の溝方向とおおむね一致する。出土遺物には、京都系土師器小皿や、墨書きがみられる陶器碗などがある。

溝SD116(第56・60図) 調査区南端に位置する。幅0.56~1.08m、深さ0.03~0.15mである。SD112を切る。

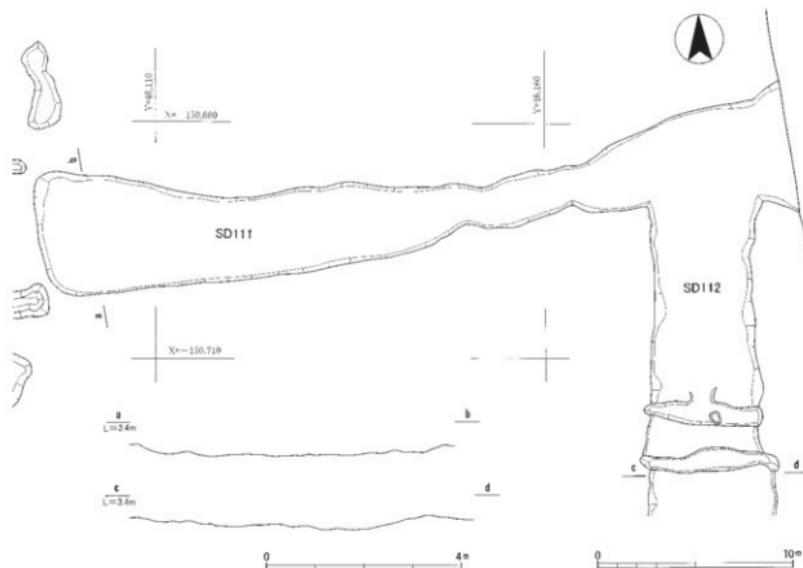
(瀬野弥知世)

註

- (1) 藤澤良祐「瀬戸古窯址群1」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』1号(1982年)
- (2) 藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要 第3号』(三重県埋蔵文化財センター 1994年)
- (3) 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Miehistory vol.1』(三重歴史文化研究会 1990年)



第59図 溝SD101・102平面図・断面図(1:100)



第60図 溝SD 111・112平面図(1:250)・断面図(1:100)

| 遺構番号 | 性格 | 小地区 | 方向・形態 | 調査時遺構番号 | 備考 |
|-------|------|---------|------------------|---------|----------------|
| SD101 | 溝 | F28～I28 | N17° W E10° N | SD1 | 鈎状に屈曲する |
| SD102 | 溝 | E26～F27 | N17° W | SD2 | |
| SD103 | 溝 | G23～H23 | | SD3 | 遺物なし |
| SD104 | 溝 | G38～H39 | E12° N | SD4 | |
| SK105 | 土坑 | F40～G40 | 不整円形 | SK5 | 遺物細片のみ |
| SK106 | 土坑 | G39～40 | 不整円形 | SK6 | |
| SD107 | 溝 | G37～H37 | | SD7 | |
| SD108 | 溝 | G37～H37 | | SD8 | |
| SZ109 | 落ち込み | G33～H35 | 不定形 | SD9 | |
| SZ110 | 落ち込み | H35～37 | 不定形 | SD10 | |
| SD111 | 溝 | H37～R40 | E8° N | SD11 | |
| SD112 | 溝 | N44～Q43 | N0° W | SD12 | SD113・116に切られる |
| SD113 | 溝 | O42～Q43 | | SD13 | SD112を切る |
| SD114 | 溝 | K45～N46 | E30° N | SD14 | SD112に切られる |
| SD115 | 溝 | I44～L44 | E0° N | SD15 | |
| SD116 | 溝 | O42～Q42 | | SD16 | SD112を切る |

第17表 遺構一覧表(2)

VI 14工区調査の成果—出土遺物—

今回の14工区の調査で確認された遺物は、遺構の中心時期である鎌倉時代から室町時代までのもの他に、包含層には古くは弥生時代前期、新しくは近世にいたる遺物までみられる。出土量はコンテナに換算して約6箱である。以下、遺物の概略を述べることとする。個々の遺物の詳細に関しては、第18表の出土土器観察表を参照されたい。

1 遺構出土土器（第61図）

土坑SK106出土土器（208・209） 土師器皿（208）、陶器小皿（209）である。陶器小皿は完存で、底部が糸切り未調整である。時期としては藤澤良祐氏による編年⁽¹⁾（以下山茶椀編年と省略）5型式に比定できよう。

溝SD114出土土器（211） 陶器小皿である。わずかに口縁部が欠けるが、ほぼ完存である。底部外面には板状圧痕がみられる。時期としては山茶椀編年5型式に比定される。SK106出土のものよりは、やや古い時期のものであろう。

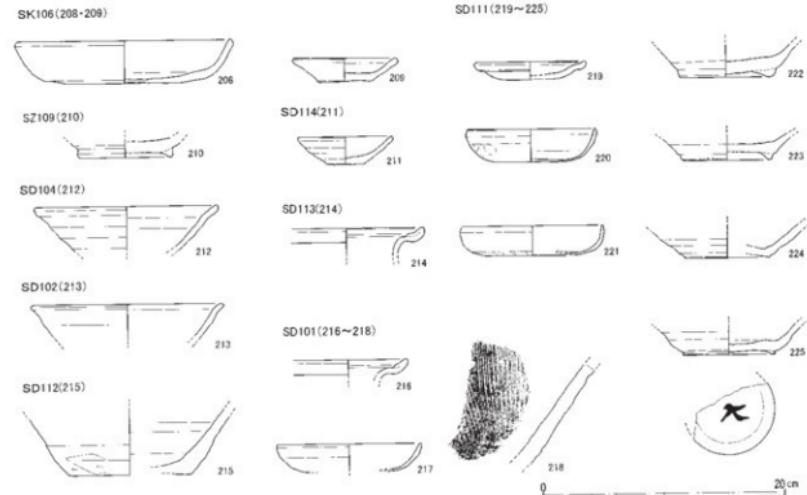
溝SD102出土土器（213） 陶器椀口縁部小片である。

溝SD104出土土器（212） 陶器椀である。口縁端部がやや肥厚し、面がみられる。胎土はやや粗い。落ち込みSZ109出土土器（210） 陶器椀の底部小片である。摩耗が激しい。

溝SD112出土土器（215） 陶器捏鉢である。

溝SD113出土土器（214） 土師器鍋である。伊藤裕偉氏による南伊勢系鍋の編年⁽²⁾（以下、南伊勢系鍋編年と省略）第1段階b型式に相当する。頸部外面には薄く煤が付着している。

溝SD111出土土器（219～225） 今回の調査で最も遺物の出土密度が大きかった遺構である。土師器小皿（219）は口縁部がS字形に屈曲するいわゆる「ての字」小皿である。伊藤裕偉氏による分類⁽³⁾によれば、小皿b 2類に相当しよう。220・221はいずれも南伊勢系の土師器小皿である。陶器椀（222～225）は4点図示した。225は底部外面に「大」と



第61図 出土遺物実測図(12) (1:4)

読める墨書がある。高台は低くつぶれている。224は底部片である。胎土は非常に粗く、無高台の段階のものと考えられる。

溝 S D 101出土土器 (216~218) 土師器小皿 (217) は口縁部が内壘する、南伊勢系のものである。土師器鍋 (216) は SD 113と同時期のものである。掘鉢 (218) は掘目が明確に残る。

2 包含層出土土器 (第62図226~236)

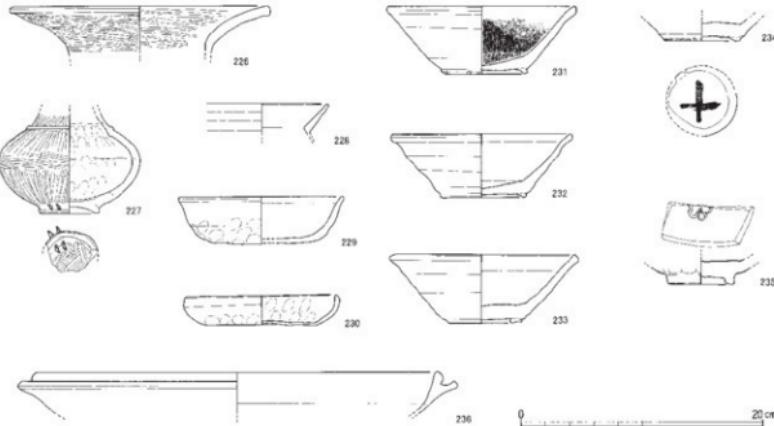
弥生時代から近世の遺物がある。227は弥生前期の広口壺である。底部外縁をえぐるような形の穿孔が、平行して2方所あるのがみとめられる。底部の内側から外縁に向かって穿ってあり、両方とも貫通している。228は古式土師器甕口縁部である。229は口縁端部が外反する土師器杯である。231~234は陶器椀である。234は底部のみ残存しているが、外面に「十」と読める墨書がある。前述のSD 101の上面からの出土であり、当遺構との関連も考えられよう。231は内面全体に煤が付着している。灯明

に使用した可能性が考えられる。232は胎土が粗く、高台は低雑である。233はほぼ完存である。口縁端部が肥厚し、明確な面がみられる。235は青磁碗である。内外面とも暗灰色に焼されており、萼外面には煤が付着している。
(瀬野伸知世)

註

- (1) 藤澤良祐「瀬戸古窯址群1」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』1 (1982年)
藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要 第3号』(三重県埋蔵文化財センター 1994年)
(2) 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Miehistory vol.1』(三重歴史文化研究会 1990年)
(3) 伊藤裕偉「中世成立期における伊勢の土器相~雲出島貢遺跡出土資料を中心に~」(『鳴抜II』三重県埋蔵文化財センター 2000年)

包含層(226~236)



第62図 出土遺物実測図(13) (1:4)

| 報告番号 | 実測器種類等 | 質 | 器形 | 地区 | 遺構・層位等 | 計測値(cm) | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 色調 | 裏存 | 特記事項 |
|----------|--------|----|---------|--------|-----------|------------------|-----------|----------------------------|----------|-----------------|------|
| 208 8208 | 土師器 | Ⅲ | G39 | SK106 | 18.0 | 3.5 ナデ | やや密 | 10YR7/3に5ない黄橙 | 1/4 | 口縁自然輪付着 | |
| 209 8209 | 陶器 | 小皿 | G40 | SK106 | 8.2 | 1.9 クロナナデ | 密 | 2.5Y7/1灰白 | 完存 | 使用痕有 | |
| 210 8106 | 陶器 | 椀 | I35 | SZ109 | 底径7.8 | — クロナナデ | 密 | 7.5Y7/1灰白 | 底部1/8 | | |
| 211 8207 | 陶器 | 小皿 | K45 | SD114 | 7.8 | 2.3 クロナナデ | 密 | 5Y7/2灰白 | ほぼ完存 | 使用痕有 | |
| 212 8105 | 陶器 | 椀 | H39 | SD104 | 15.2 | — クロナナデ | やや粗 | N8/灰白 | 口縁部1/5 | | |
| 213 8104 | 陶器 | 椀 | F26・27 | SD102 | 16.0 | — クロナナデ | 密 | 5Y7/1灰白 | 口縁部1/16 | | |
| 214 8206 | 土師器 | 鍋 | O42 | SD113 | — | ナデ | やや粗 | 10YR7/2に5ない黄橙 | 頭部外面煤付着 | | |
| 215 8205 | 陶器 | 鉢 | O43 | SD112 | 底径10.0 | — クロナナデ・カズリ | 密 | 7.5Y7/1灰白 | 底部1/4 | | |
| 216 8101 | 土師器 | 鍋 | H28 | SD101 | — | ナデ | やや粗 | 10YR6/2灰黄白 | 口縁部小片 | | |
| 217 8102 | 土師器 | 小皿 | F28 | SD101 | 12.0 | — ナデ | やや粗 | 2.5Y7/1灰白 | 口縁部1/6 | | |
| 218 8103 | 陶器 | 擂鉢 | F29 | SD101 | — | 擂目後、施釉 | 密 | 5YR4/2灰褐 | 体部下半小片 | | |
| 219 8109 | 土師器 | 小皿 | Q40 | SD111 | 9.2 | 1.5 ナデ | 密 | 2.5Y6/2灰黄 | 1/4 | | |
| 220 8201 | 土師器 | 小皿 | I36・37 | SD111 | 10.8 | 2.7 ナデ | 密 | 2.5Y7/3灰黄 | 1/4 | | |
| 221 8202 | 土師器 | 小皿 | H38 | SD111 | 11.6 | 2.5 ナデ | 密 | 2.5Y7/3灰黄 | 1/5 | | |
| 222 8204 | 陶器 | 椀 | J38 | SD111 | 底径7.2 | — クロナナデ | 密 | 5Y7/1灰白 | 底部1/3 | 柄臺痕 | |
| 223 8107 | 陶器 | 椀 | P39 | SD111 | 底径7.3 | — クロナナデ | 密 | 10Y7/1灰白 | 底部1/3 | | |
| 224 8108 | 陶器 | 椀 | Q38 | SD111 | 底径7.0 | — クロナナデ | 粗 | 5Y7/1灰白 | 底部1/4 | | |
| 225 8203 | 陶器 | 椀 | L38 | SD111 | 底径5.6 | — クロナナデ | 密 | 5Y7/1灰白 | 底部2/3 | 底部外面墨書「大」 | |
| 226 8401 | 洗生土器 | 壺 | G21・22 | 排水溝拂土中 | 21.5 | — ケズリ・ハケム・ミガキ | やや粗 | 10YR4/1灰黒 | 口縁部1/4 | | |
| 227 8302 | 洗生土器 | 壺 | K29 | 粘土上 | 底径4.5 | — ケズリ出し凸凹・ミガキ | やや密 | 10YR4/3に5ない黄橙 | 底部～体部1/2 | 底部を2本の穿孔が貫通 | |
| 228 8305 | 土師器 | 甕 | J27 | 粘土上 | — | ナデ | やや密 | 10YR5/3に5ない黄橙 | 口縁部小片 | | |
| 229 8306 | 土師器 | 杯 | — | 検出面より上 | 13.6 | 3.9 ナデ | やや粗 | 10YR7/2に5ない黄橙 | 1/4 | | |
| 230 101 | 土師器 | Ⅲ | F-31トシチ | 12.3 | 2.5 ナデ | 密 | 10YR8/2灰白 | ほぼ完存 | | | |
| 231 8303 | 陶器 | 椀 | K27 | 粘土上 | 15.6 | 5.5 クロナナデ | やや密 | 5Y7/1灰白 | 3/4 | 内面炭化物付着多 柄臺痕 | |
| 232 8301 | 陶器 | 椀 | J22 | 粘土上 | 15.0 | 5.3 クロナナデ | 粗 | 7.5Y7/1灰白 | 1/3 | | |
| 233 8403 | 陶器 | 椀 | G25 | 表土直下・砂 | 15.6 | 6.7 クロナナデ | 密 | 5Y7/1灰白 | ほぼ完存 | | |
| 234 8304 | 陶器 | 椀 | K39 | 検出面 | 底径6.2 | — クロナナデ | 密 | 5Y7/1灰白 | 底部ほぼ完存 | 柄臺痕 | |
| 235 8307 | 骨磁 | 椀 | — | 検出面より上 | 底径5.5 | — クロナナデ | 密 | 5Y7/1灰白 種 5GY6/1ナデ | 底部1/2 | 内面見込みに花文 | |
| 236 8402 | 瓦質土器 | 焼烙 | I36・37 | 表土直下 | 35.0 | — ナデ・カズリ | やや密 | 7.5YR7/4に5ない 種 5GY6/1ナデ | 口縁部1/10 | 外面煤付着 | |

第18表 出土土器観察表(8)

VII 14工区調査の成果－小結－

1 遺構について

今回の調査で検出した遺構は、溝12条、土坑2基、ピット7基であり、建物の跡はみとめられなかった。この理由としては、当地区の地形条件が後背湿地と呼ばれる低湿地であったため、居住には適さなかつたと考えられる。また、調査区北東部分に遺構がほとんどみとめられない点に関しては、土地条件のためにもともと利用されていなかったからか、あるいは河川の氾濫による黄色粗砂の流れ込みの影響で、本来の層序が大きく変化したためと考えられる。

2 遺物について

V章でもふれたが、今回の調査においては、包含層・遺構とともに遺物の出土量が少なかった。時期を概観してみると中世の陶器碗・土師器小皿が最も多い。遺構からの出土遺物に限って見ても、やはり中世の陶器碗・土師器小皿がほとんどである。わずかに含まれる弥生土器壺(227)や古式土師器壺(228)といった、弥生時代や古墳時代の遺物は全て包含層出土のものである(第62図)。調査区内壁およびトレンチの土層観察によれば、遺構検出面は中世と考えられる時期の層のみであり、それより古い時期に堆積した層では遺構は検出されなかった。したがってこれらの中世より古い時期の遺物は、おそらくは河川の氾濫による黄色粗砂の流れ込みによるものと考えられる。

(瀬野弥知世)



上空から西山古墳、天花寺を臨む（東から）

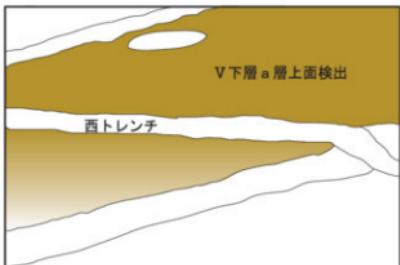


上空から伊勢湾を臨む（西から）

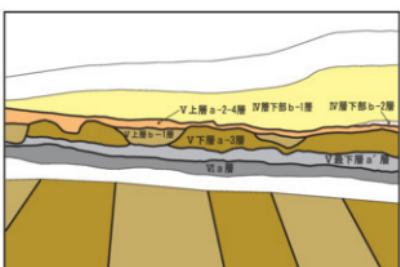
図版 2



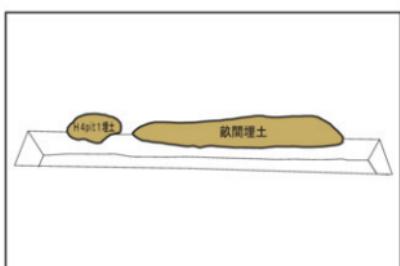
G 4 グリッド検出（西から）



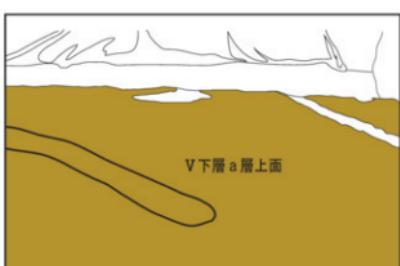
I 8 グリッド検出（西から）



H 4 グリッド p i t 1断面（南から）



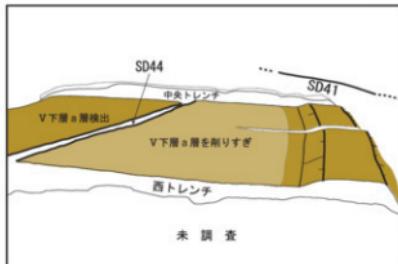
H 4 ~ 5 グリッド発掘（南から）



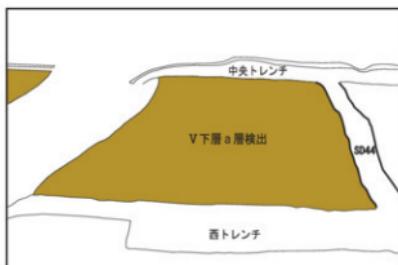
弥生時代前期下層遺構面（島）



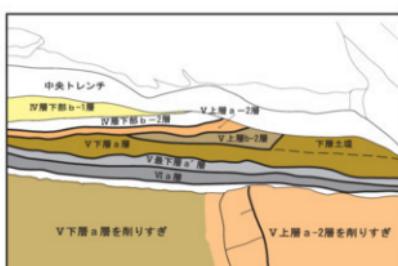
G~H 7 グリッド検出（西から）



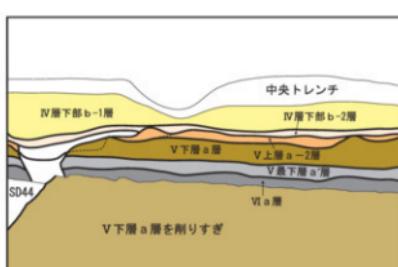
G~H 6 グリッド検出（西から）



中央トレンチ断面 I 7~8 グリッド（西から）



中央トレンチ断面 I 7 グリッド（西から）

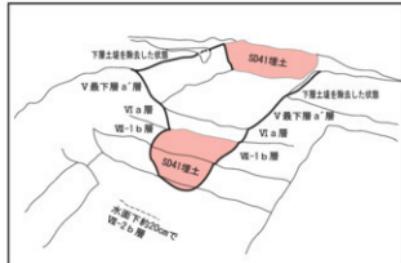


弥生時代前期下層遺構面（島）

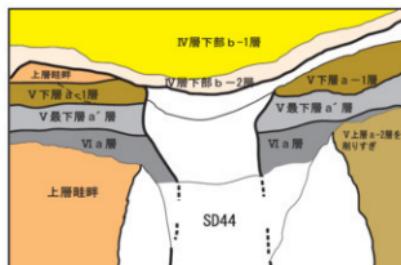
図版 4



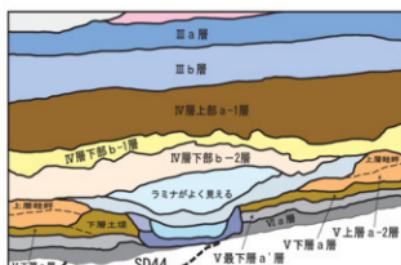
SD 41西トレンチ断面（東から）



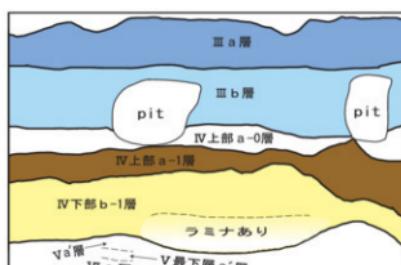
SD 44中央トレンチ断面（西から）



SD 44北壁断面（南から）



東壁断面25m付近（西から）



弥生時代前期関連遺構



筋道遺跡周辺航空写真（1947年撮影、上が南）

図版 6



上空から雲出川を臨む（南から）

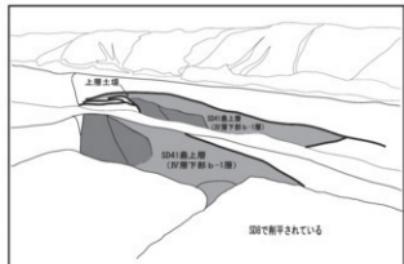


上空から（北から）

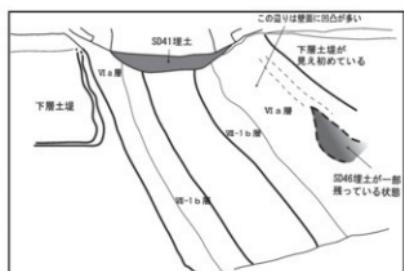
図版 7



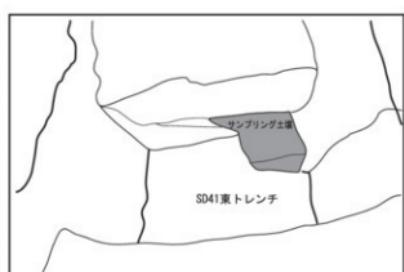
調査区西壁断面（東から）



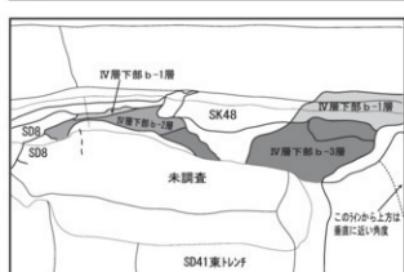
I ~ L, 7 ~ 8 グリッド発掘（東から）



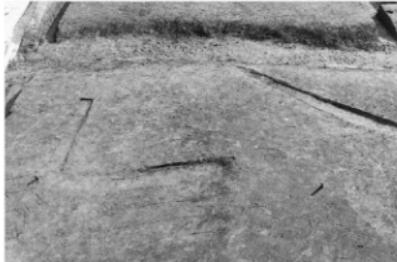
東トレンチ試料採取前（東から）



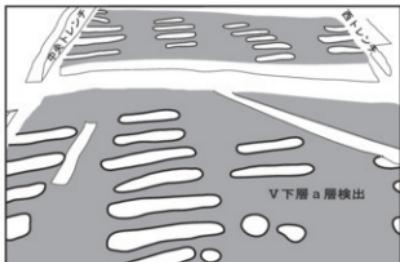
調査区東壁断面（西から）



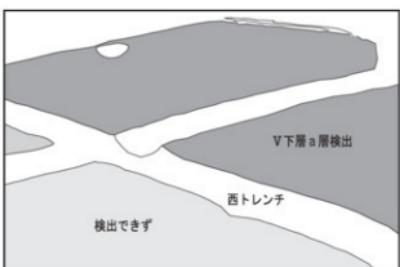
図版 8



検出（北から）



検出（南西から）



H～I・6～7グリッド完掘（北から）



掘削作業（東から）



田嶋博之氏による調査指導

弥生時代前期下層遺構面（島）

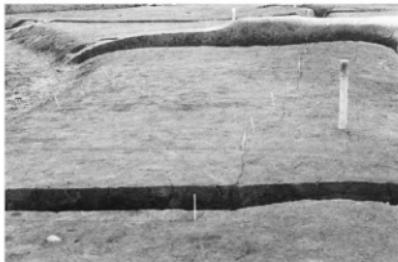
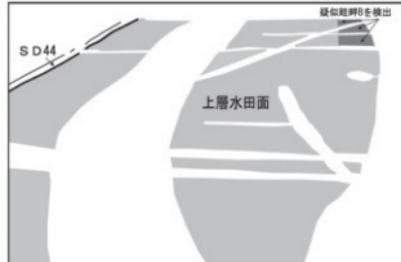


遺物出土状況（鉢間より）

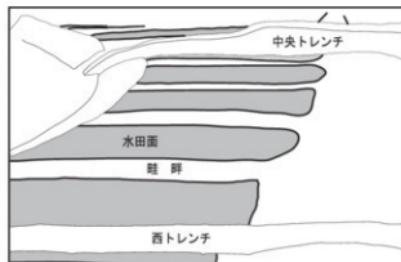
図版 9



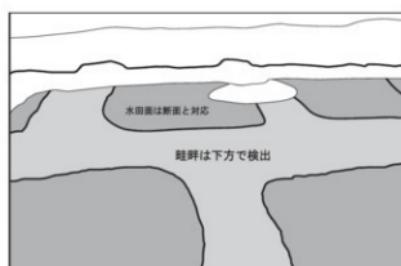
水田完掘（北東から）



水田完掘 G～H 6 グリッド（西から）



水田完掘 G～H 4 グリッド（南から）



G 6 グリッド 袋跡断面（東から）

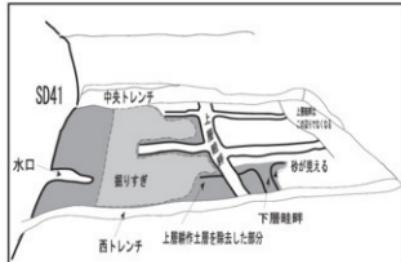


弥生時代前期上層遺構面水田（SD41北部）

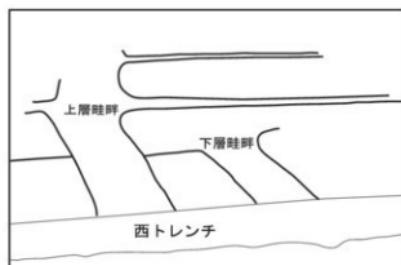
図版10



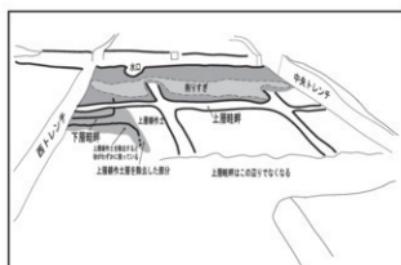
検出（西から）



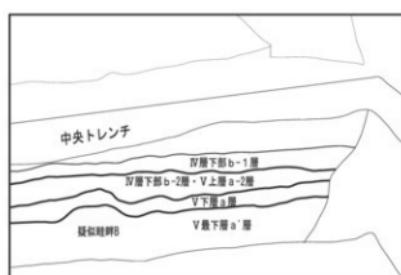
検出（西から）



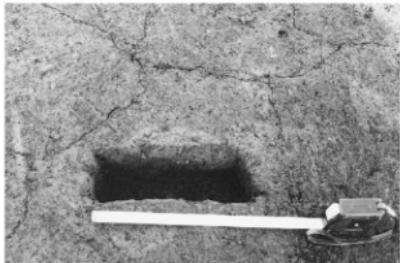
検出（南から）



I 11グリッド疑似畦畔（西から）



弥生時代前期関連（SD41南部）



耕起痕？（弥生時代前期下層遺構面にて）



フローテーション用試料採取（A地点）



耕起痕？（弥生時代前期下層遺構面にて）



フローテーション用試料採取（I 6 グリッド）



下層確認トレンチ北壁（南から）



下層確認トレンチ S D 41付近（西から）

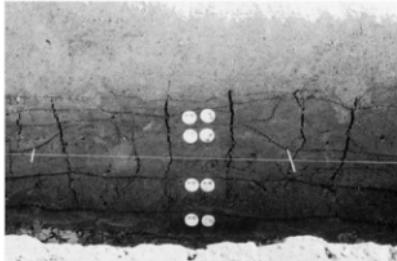


下層確認トレンチ北壁接写（南から）

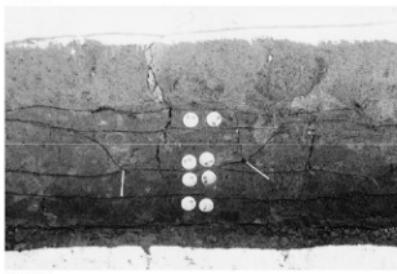
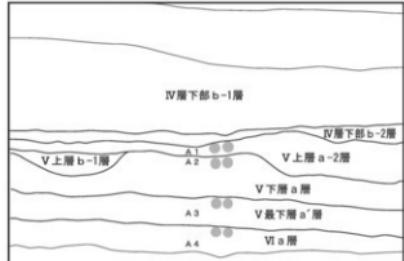


下層確認トレンチ M 9 グリッド付近（西から）

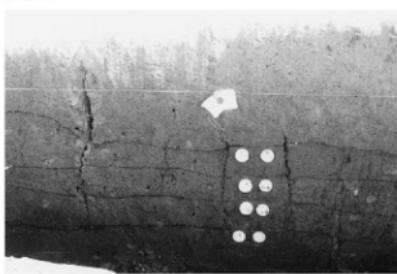
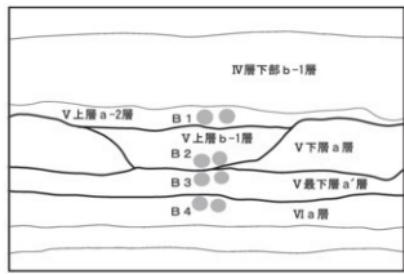
図版12



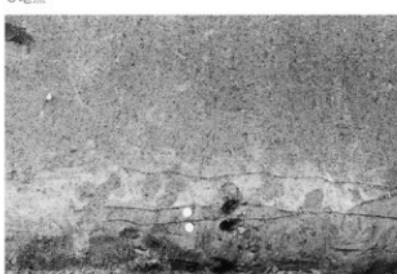
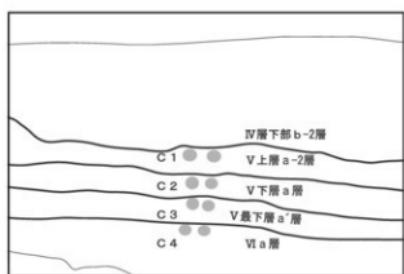
A地点



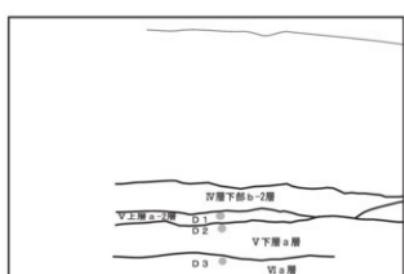
B地点



C地点

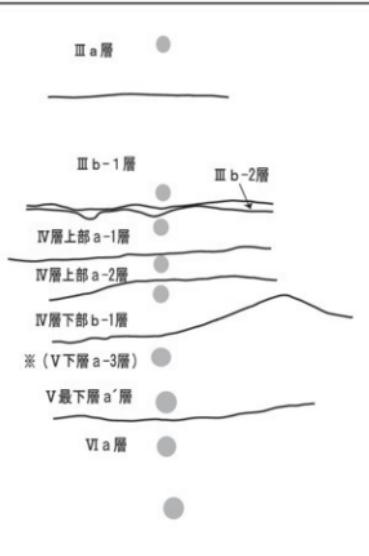
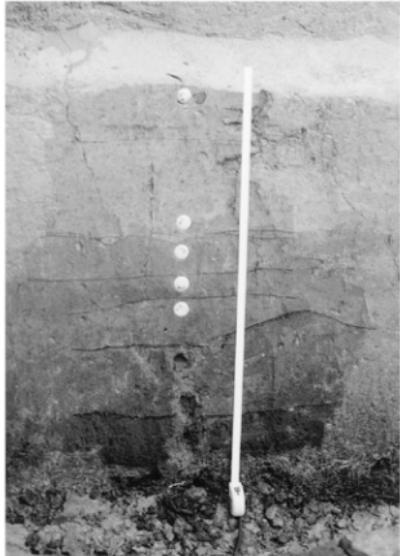


D地点

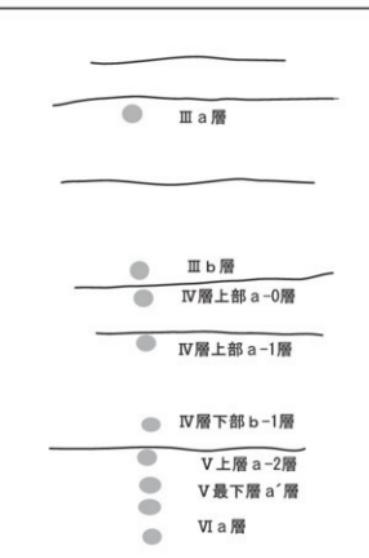
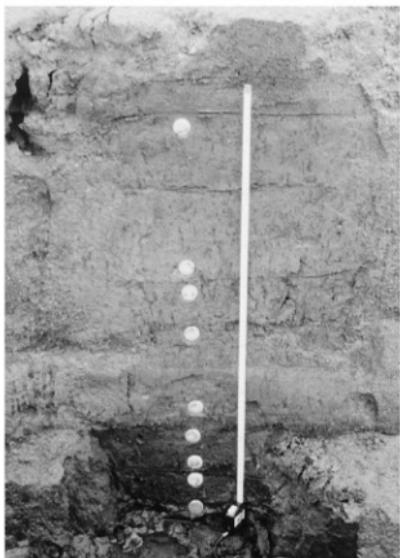


プラント・オパール分析、花粉分析用試料採取

図版13



※上・下層耕作土層分離できず



プラント・オパール分析用試料採取

図版14



弥生時代中期後葉～中世前期遺構面西半部垂直写真（上が南）



弥生時代中期後葉～中世前期遺構面西半部（東から）



弥生時代中期後葉～中世前期遺構面西半部（北から）



弥生時代中期後葉～中世前期遺構面東半部（北から）

図版16



S X 16完掘（東から）



S X 16土器出土状況（南から）



S X 16土器出土状況（南から）



S X 16土器出土状況（北東から）



S X29土器出土状況（西から）



SK 6土器出土状況（北から）



SK 42土器出土状況（南から）



SD 8溝底工具痕完掘（西から）



SD 8完掘（南東から）



SD 8土器出土状況（西から）

図版18



S H 13土器出土状況（西から）



S D 5 完掘（東から）



S D 5 西壁断面（東から）



S D 5 断面（東から）



S H 2 完掘（北西から）



S Z 4 土器出土状況（北から）



掘立柱建物検出状況（北東から）



S Z 14 土器出土状況（北から）



S E 26 井筒検出（東から）



F 12 グリッド西壁断面（東から）



S E 26 断ち割り（東から）



G 6 グリッド付近検出状況（北西から）

図版20



豊田小学校総合学習



現地説明会



高橋 学氏による調査指導



検討会



土壤の乾燥



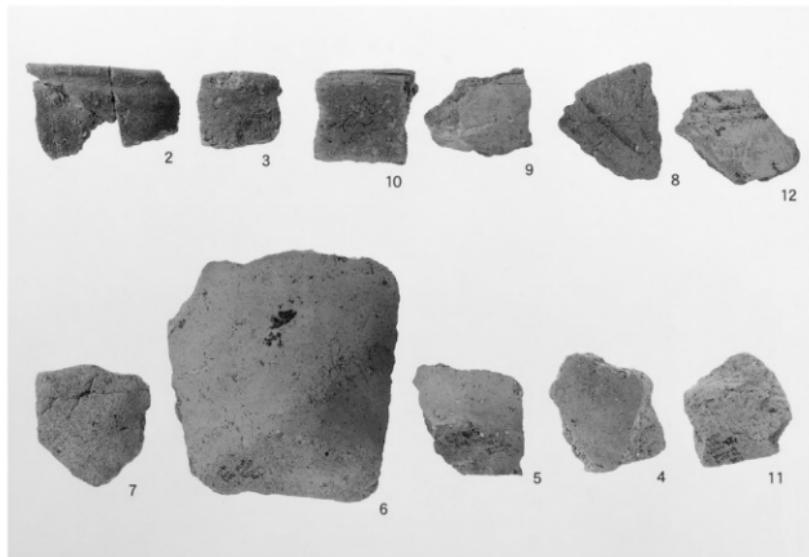
肉眼（ルーペ）での選別



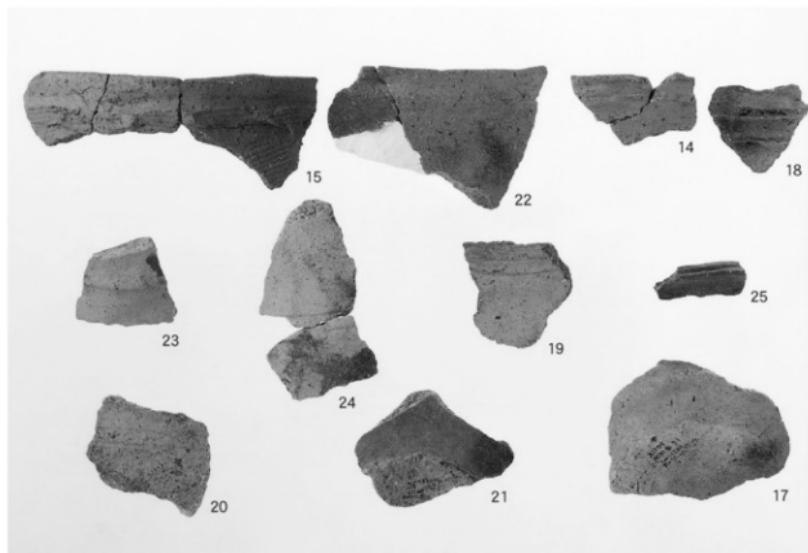
炭化物をすくう



実体顕微鏡での選別



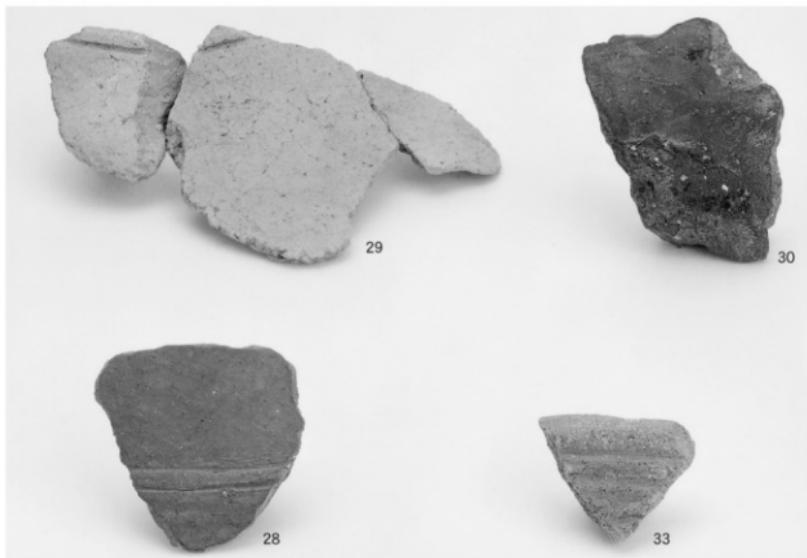
弥生時代前期下層遺構面開連土器



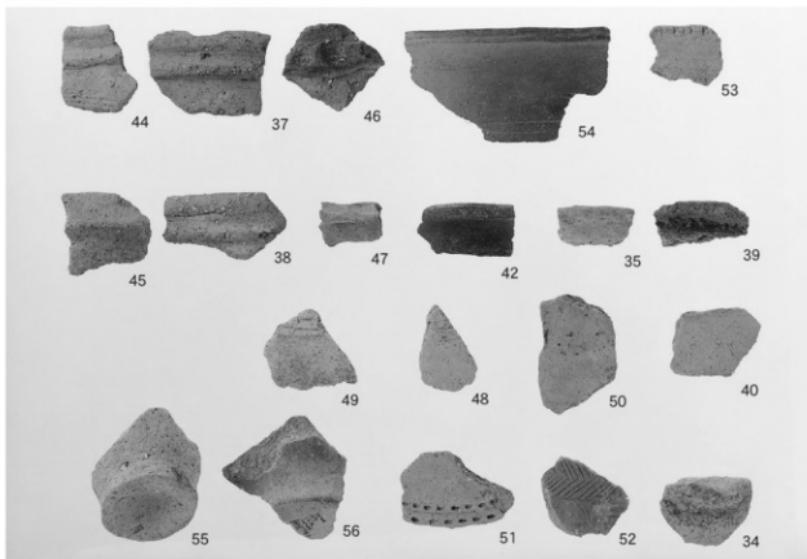
弥生時代前期上層遺構面開連土器

出土遺物(1)

图版22

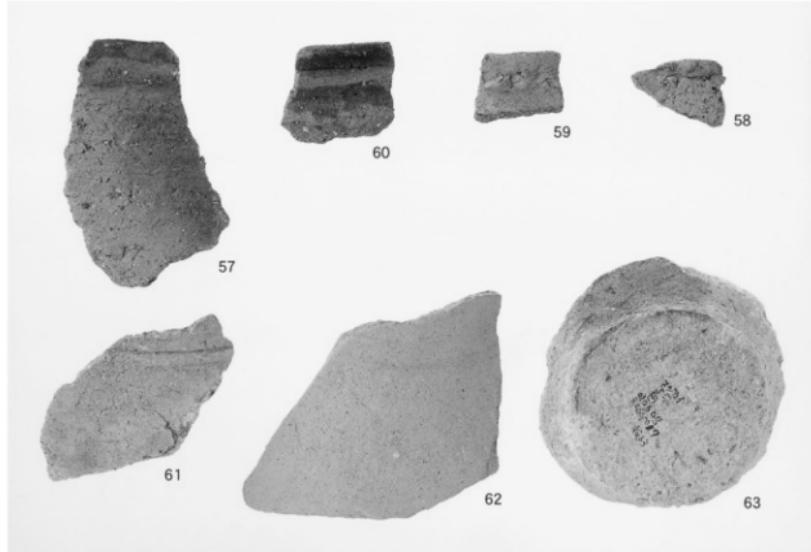


IV层下部b-2层出土土器



IV层下部b-1、2层出土土器

出土遗物(2)



包含層出土土器



弥生時代前期関連石製品

出土遺物(3)

图版24



V最下层a'层出土土器

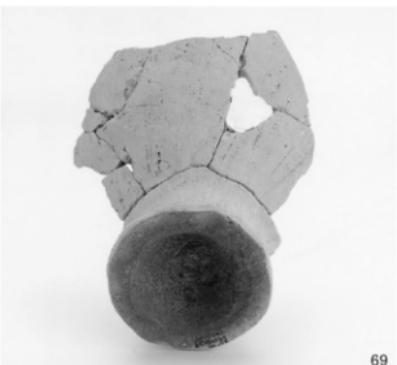


V上层b层出土土器



IV层下部b-1·2层出土土器

出土遗物(4)



S X29出土遗物

出土遗物(5)

图版26



S X 16出土土器

出土遗物(6)



S X 16出土土器

出土遗物(7)

图版28



S D 49出土土器



S K 6 出土土器



S K 6 出土土器



S K 42出土土器
出土遗物(8)





88



89



91



90



94



93

S D 8 出土土器

出土遺物(9)

图版30



114



124



115



124



123



121

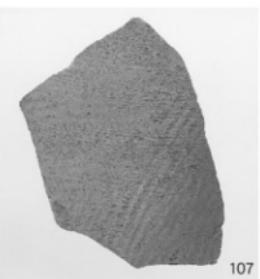
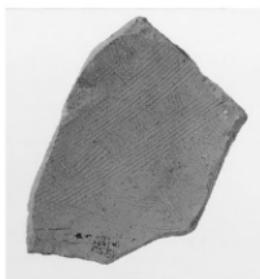


125



122

出土遗物(10)



109



131



133



147 内



144



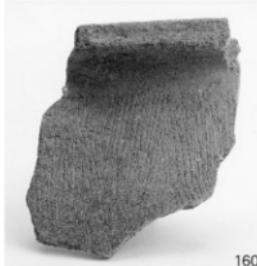
145



147 外

出土遗物(11)

图版32



160



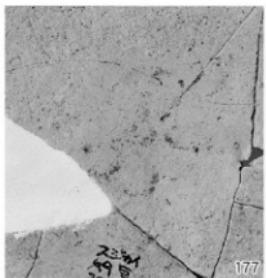
162



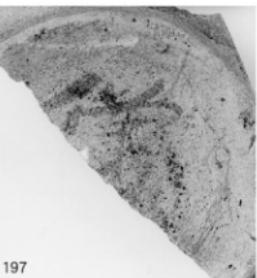
173



153



177



197



148



108



203



200



204

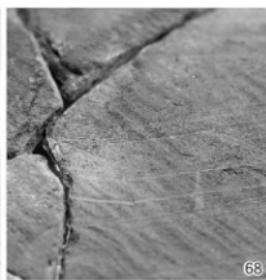
出土遺物(12)

直線文・波状文

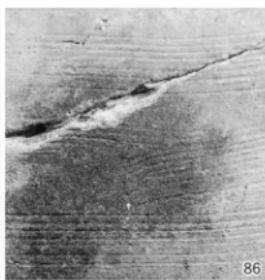
■沈線



■櫛 a



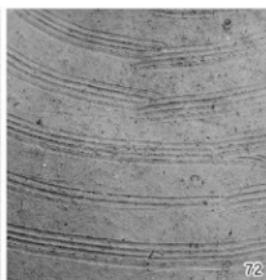
■櫛 b



■櫛 c 1



■櫛 c 2



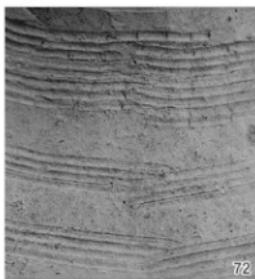
■板



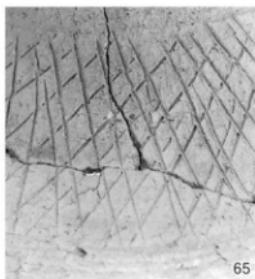
簾状文

斜格子文

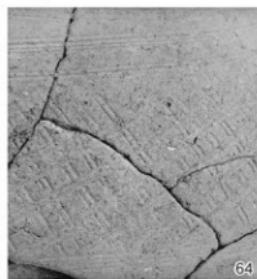
■櫛 b



■ヘラ

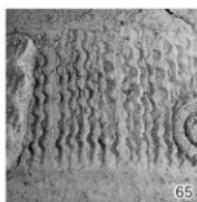


■櫛 c 1



刺突文

■貝 a



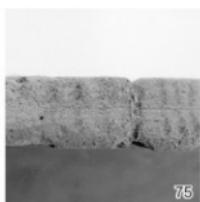
■貝 b



■櫛 b

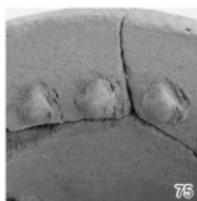


■板

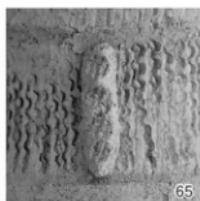


浮文等

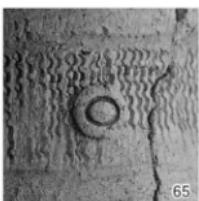
■瘤状突起



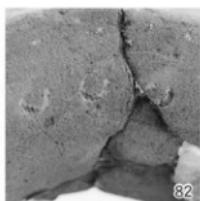
■棒状浮文



■円形浮文

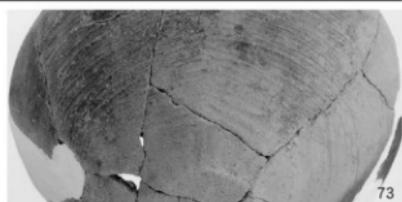
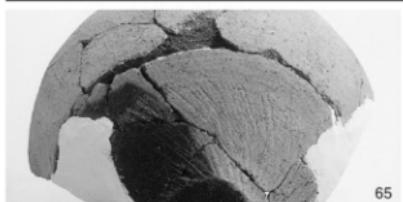


■竹管文



外面調整

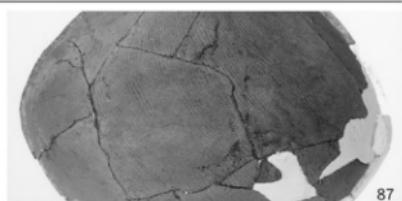
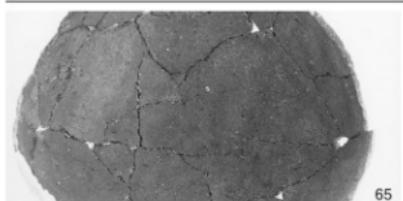
■ a 手法



■ b 手法

内面調整

■ a 手法



■ b 手法



14工区 調査区北半完掘（南から）



14工区 調査区南半完掘（北から）

図版36



S D 101・102（北から）



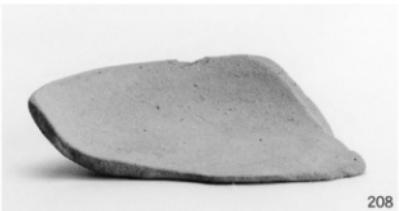
S D 104・S K 105・S K 106（南から）



227



226



208



227底部穿孔



229



219

217

214



221

220

出土遺物(13)

图版38



出土遗物(14)

報告書抄録

| | | | | | | | | |
|-----------------|--|-------------|--------------|----------------------|-------------------|---------------------------|------------------------|---------------|
| ふりがな | すじかいいせきはくつちょうさほうこく だいいちぶんさつ | | | | | | | |
| 書名 | 筋違遺跡発掘調査報告 第1分冊 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 三重県埋蔵文化財調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 115-19 | | | | | | | |
| 編著者名 | 東 敬義・川崎志乃・瀬野弥知世 | | | | | | | |
| 編集機関 | 三重県埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596-52-1732 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2004年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 ° ′ ″ | 東経 ° ′ ″ | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| すじかいいせき 筋違遺跡 | みえけんいちらしでんうれしのちようにおめしうあざすじかいい 三重県一志郡嬉野町新屋庄字筋違 | 405 | 285 | 34° 38' 56" | 136° 30' 7" | 20010425 ~ 20020131 | 8,310 | 一般国道23号中勢道路建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | | 特記事項 | |
| 筋違遺跡 | 遺物包含地 | 弥生、飛鳥～奈良、中世 | 構・壇・水田・掘立柱建物 | 弥生土器壺・甕、古式土師器、土師器杯・甕 | | | 弥生時代前期の壇・水田が共存 | |

三重県埋蔵文化財調査報告115-19

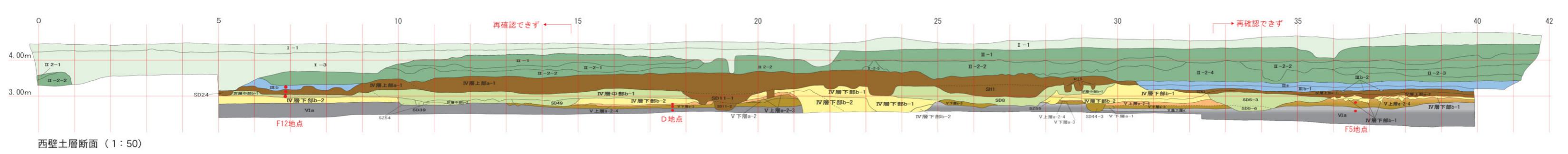
筋違遺跡発掘調査報告

第1分冊

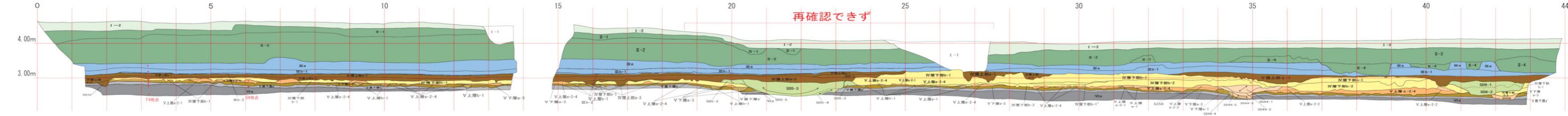
2004年（平成16年）3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

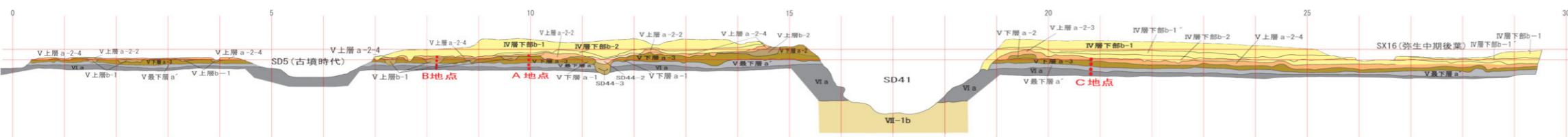
印 刷 (有)山 文 印 刷



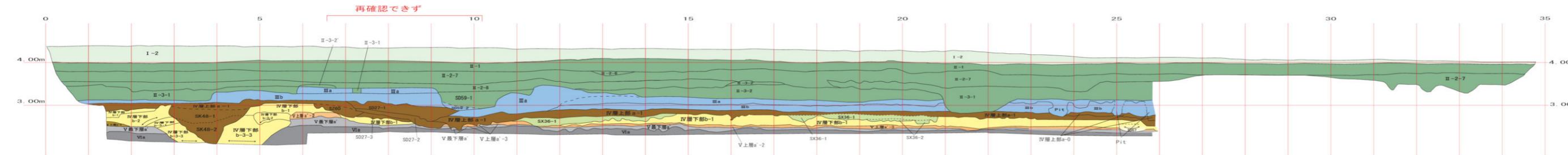
西壁土層斷面 (1:50)



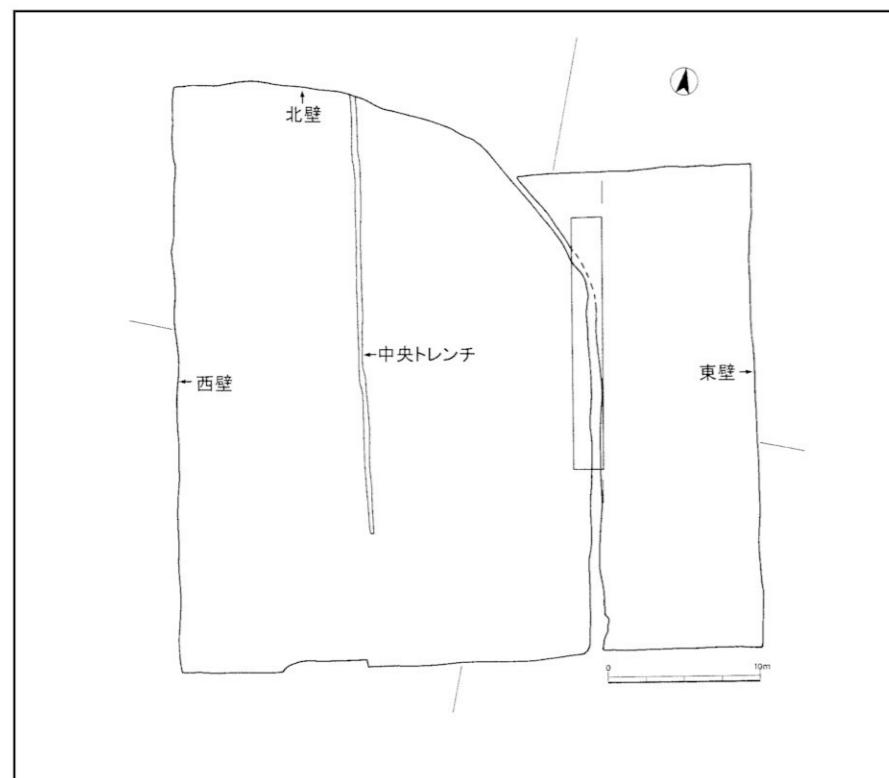
北壁土層斷面 (1:50)



中央トレンチ（1:50）



東壁土層斷面 (1:50)



| 基本網目 | 遺傳母 | 遺物上表記 | 土質等 | 地点 | 形成要因 | 時期 | 利害指標 |
|--------|--------|----------|---|---|---------------------------------|------------------------------------|------------------------------|
| I | -1 | 表土 | 表土 | 面積整備 | 面積整備による 土壤化 | 現在の耕作土 | |
| | -2 | 壤土 | 壤土 | 面積整備 | 面積整備による 土壤化 | 未耕土 | |
| | -3 | 壤土 | 壤土 | 土壤化 | 土壤化 | 耕作土 | |
| II | -1 | 重粘土層 | 10YR4/8暗褐色砂質+粘 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 | 15m付近 25m付近 15m付近 15m付近 15m付近 | 土壤化 土壤化 土壤化 土壤化 土壤化 | 耕作土 | |
| | -2-1 | 重粘土層 | 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 | 1~8m付近 15m付近 15m付近 15m付近 15m付近 | 土壤化 土壤化 土壤化 土壤化 土壤化 | 耕作土 | |
| | -2-2 | 重粘土層 | 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 | 1~8m付近 15m付近 15m付近 15m付近 15m付近 | 土壤化 土壤化 土壤化 土壤化 土壤化 | 耕作土 | |
| | -2-5 | 重粘土層 | 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 | 15m付近 15m付近 15m付近 | 土壤化 土壤化 土壤化 | 耕作土 | |
| | -2-4 | 重粘土層 | 10YR4/25(黄褐色)褐色粘土+砂 | 15m付近 | 土壤化 | 耕作土 | |
| III | a | 包含層 | 2.5YV4/2灰褐色土+粘(4m) | 土壤化 | 1世紀前後に利用 | 木田耕作土 | |
| | b-1 | | 2.5YV3/5(オーラー色)45(4m) | | | | |
| | b | | 2.5YV4/2(黄褐色)褐色土+粘(4m) | | 河成堆積(流水凹) | 9~13世紀初頭に堆積 | |
| | b-2 | | 2.5YV3/5(黄褐色)45(4m)1層のバーストグレーディング | | | | |
| IV層上部 | a-1 | | 10YR4/2(褐色)褐色砂質+粘(4m) 10YR4/2(褐色)褐色砂質+粘(4m)1層のバーストグレーディング | 10m以降 10m以降 | 土壤化 土壤化 | 生後復元→既往に利用 既往土中 既往土中 既往土中 | 既往土中 既往土中 既往土中 既往土中 |
| | S253 | 面積上層1層下層 | 2.5YV4/2(褐色)褐色砂質+粘(4m)1層 | 10m付近 | 土壤化 | 既往土中 | 既往土中 |
| | S261 | 面積上層1層内 | 10YR3/5(褐色)褐色砂質+粘(4m) (4.5m付近) | 10m付近 | 土壤化 | 既往土中 | 既往土中 |
| | S261-1 | 面積上層1層内 | SD11 | 10YR2/5(褐色)褐色砂質+粘(4m)(SD11上層) | 土壤化 | 9世紀 | 既往土中 |
| | SD12-1 | 面積上層1層内 | SD11下層 | 2.5YV4/2(褐色)褐色砂質+粘(4m) (4.5m付近) | 流水 | 古墳後期→古晉 | 水路 |
| IV層中 | S264 | 面積上層 | SD14 | 10YR3/5(褐色)褐色砂質+粘(4m)(SD14上層) 2.5YV4/2(褐色)褐色砂質+粘(4m)(SD14下層) | 土壤化 土壤化 | 古代 古晉 | 植物 植物 |
| | Th | 面積上層1層内 | SD16 | 10YR3/5(褐色)褐色砂質+粘(4m)(SD16上層) (4.5m付近) | 10m付近 | 土壤化 | 木田耕作土1層 |
| | a-2 | 2層 | 2.5YV4/2灰褐色土+粘(4m) | 30m付近 | 土壤化 | 古墳中期 | 木田耕作土1層 |
| | S265-3 | 面積上層2層下層 | SD5下層 | 2.5YV4/2(灰褐色)砂質+粘(4.5m)1層 | 30m付近 | 流水? | 古墳前期 水路 |
| | SD5-6 | | 2.5YV4/2(灰褐色)砂質+粘(4.5m) | | | | |
| IV層下部 | b-1 | | 2.5YV4/2(灰褐色)砂質+粘(4.5m) | 8m付近 | | | |
| | SD5-6 | | 2.5YV4/2(灰褐色)砂質+粘(4.5m) | 12m付近 | | | |
| | b-2 | | 2.5YV4/2(灰褐色)砂質+粘(4.5m) | 20m付近 | | | |
| | SD6 | 面積上層1層下層 | SD26 | 2.5YV4/2(褐色)褐色砂質+粘(4m)1層のバーストグレーディング | 27m付近 | 河成堆積 | 生後中期 |
| | b-2 | | 2.5YV4/2(褐色)褐色砂質+粘(4.5m) | 30m付近 | | | 水路・汙水路 |
| V層下部 | S229 | 面積上層1層下層 | SD19 | 2.5YV4/2(褐色)褐色砂質+粘(4.5m) | 土壤化 | 生後中期 | 木田耕作土 |
| | S249 | 面積上層1層上層 | SD49 | 2.5Y4/4/2(褐色)褐色砂質(SD49) | 10m付近 | 土壤化 | 既往土中 |
| | b-2 | | SDV4/2(オーラー)シルト | 12m付近 | | | |
| | S254 | 面積上層1層上層 | SDVA | 褐色砂質 | 10m付近 | | |
| | b-1 | | SD41上層 | 10YR3/5(褐色)褐色砂質(1.5m付近)(SD41上層) | 24m付近 | 河成堆積(流水凹) | 生後初期 |
| V層上部 | SD41-1 | | 2.5YV3/5(褐色)褐色砂質(1.5m付近)(SD41上層) | 24m付近 | | | |
| | SD41-2 | | 2.5YV4/2(オーラー)シルト | 30m付近 | | | |
| | SD41-3 | | 2.5YV4/2(褐色)褐色砂質(1.5m付近) | 30m付近 | | | |
| | b-2 | | SDV4/2(オーラー)シルト | 31m付近 | | | |
| | SD41 | | 2.5YV4/2(褐色)褐色砂質(1.5m付近)(SD41) | 32m付近 | | | |
| V層下部 | S255 | 面積下層1層下層 | SDVA | 褐色砂質+粘(4m)1層のバーストグレーディング | 17m付近 | 耕作 | 生後初期 |
| | a-2-4 | | 10YR4/2(暗褐色)褐色砂質+粘(4m)1層耕作土 | 17m付近 | | | 木田耕作土 |
| | 3層耕作土 | | 10YR4/2(暗褐色)褐色砂質+粘(4m)1層耕作土 | 21m付近 | | | |
| | a-2 | | 10YR4/2(暗褐色)褐色砂質+粘(4m)1層耕作土 | 25m付近 | | | 耕作土中 |
| | a-1 | | 10YR4/2(暗褐色)褐色砂質+粘(4m)1層耕作土+土木層 | 31m付近 | | | |
| SD44-3 | SD44下層 | | 10YR4/2(暗褐色)褐色砂質(4m)1層(SD44下層) | 39m付近 | | | |
| | a' | | 10YR4/2(暗褐色)褐色砂質(4m)1層(SD44下層) | 流水 | | | 水路 |
| | a | | 2.5YV4/2(褐色)褐色砂質+粘(4m)1層(SD44下層) | 45m付近 | | | 土壤 |
| V層下部 | a' | | 10YR4/2(暗褐色)褐色砂質+粘(4m)1層(SD44下層) | 45m付近 | | | 土壤 |
| | a- | | 10YR4/2(暗褐色)褐色砂質+粘(4m)1層(SD44下層) | 52m付近 | | | 木田耕作土 |
| | a | | 10YR4/2(暗褐色)褐色砂質+粘(4m)1層(SD44下層) | 58m付近 | | | |
| M | a | | 4層 | 2.5YV4/2(褐色)褐色砂質+粘(4m) | 土壤化 | | |
| | a' | | 10YR2/2(黒褐色)黒褐色砂質 | 土壤化 | | | |

調查區北壁斷面屬序一監表

調査区東壁断面順序一覧表